

平成25年度

# セカンドスクール・プレセカンドスクール 実施報告書



平成26年3月  
武蔵野市教育委員会

# も く じ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯	2
セカンドスクール実施要綱	4
プレセカンドスクール実施要綱	6
セカンドスクール実施地の変遷	8
プレセカンドスクール実施地の変遷	11
平成 25 年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表	12
各小中学校の日程及び主な活動内容	
<小学校セカンドスクール>	
第一小学校	14
第二小学校	18
第三小学校	22
第四小学校	26
第五小学校	30
大野田小学校	34
境南小学校	38
本宿小学校	42
千川小学校	46
井之頭小学校	50
関前南小学校	54
桜野小学校	58
<中学校セカンドスクール>	
第一中学校	64
第二中学校	67
第三中学校	70
第四中学校	73
第五中学校	76
第六中学校	79
<プレセカンドスクール>	
第一小学校	84
第二小学校	87
第三小学校	90
第四小学校	93
第五小学校	96
大野田小学校	99
境南小学校	102
本宿小学校	105
千川小学校	108
井之頭小学校	111
関前南小学校	114
桜野小学校	117

## セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

- 平成元年度・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体になって進める学校づくり」（報告書）でセカンドスクールを提言。
  - ・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。
- 平成2年度・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。
- 平成3年度・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。
- 平成4年度・“夏季山村生活体験学習”（セカンドスクール試行期間中の名称）として、長野県八坂村にて夏休み期間中に6泊7日で試行。小学校6年生と中学校1年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
  - ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」（報告書）で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。
- 平成5年度・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による“山村生活体験教室”（セカンドスクール試行期間中の名称）として、岩手県遠野市にて夏休み期間中に12泊13日で試行。小学校4年生から中学校2年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
  - ・対象学年を小学校5年生、中学校1年生が適当であるとの結論を出す。
- 平成6年度・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
  - ・小学校5年生と中学校1年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。
- 平成7年度・小学校全13校が学期期間中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の6か所で、3泊4日～7泊8日で実施。
  - ・中学校は全6校の1年生から希望者（70名）を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、6泊7日で実施。
- 平成8年度・小中学校全18校が学期期間中に実施。
  - ・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。
- 平成9年度・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。
- 平成10年度・各学校が、平成14年度から創設される『総合的な学習の時間』を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。

- 平成14年度 ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。
- 平成15年度 ・小学校4年生を対象としたプレセカンドスクール\*を4校にて試行。  
\*プレセカンドスクール・・・セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校4年生を対象として行う短期宿泊体験学習。  
・武蔵野市のセカンドスクールが、第1回オーライ！ニッポン大賞に選定される。
- 平成16年度 ・プレセカンドスクールを10校にて試行。  
・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。
- 平成17年度 ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。  
・「体験活動検討委員会」を設置。
- 平成19年度 ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。
- 平成20年度 ・文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。  
・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。
- 平成21年度 ・新型インフルエンザ流行により、小学校2校でセカンドスクール（桜野小）、プレセカンドスクール（境南小）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。  
・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。
- 平成22年度 ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。  
・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の3省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。  
・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。  
・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。  
・小学校の新学習指導要領への対応や、各校の体験活動の共有のため、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。また、活動の実践事例集を作成した（～平成24年度）
- 平成23年度 ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。  
・強い余震の発生に備え、衛星携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。
- 平成25年度 ・第8回むさしの教育フォーラムにて「セカンドスクールで学び合う子どもたち」をテーマに第五小学校、第一中学校が特色ある体験活動や実践事例を紹介。生きる力の育成について、取り組みを共有した。



## 武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 長期にわたる宿泊体験を通し、生活自立に必要な知識や技能を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の方々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。

### (実施学年)

第2条 実施学年は、小学校においては第5学年、中学校においては第1学年とする。

### (活動内容)

第3条 セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

### (実施場所)

第4条 校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

### (指導者等)

第5条 セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舍内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。
- 5 セカンドスクールには、看護師を各学校1人同行させるものとし、児童及び生徒の健

健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 セカンドスクールに要する経費は市が負担するものとする。ただし、児童及び生徒は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成14年11月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

## 武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、武蔵野市立小学校がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月1日施行）に規定するセカンドスクールのうち小学校第5学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、同要綱第1条に掲げるねらいの達成に寄与するため、プレセカンドスクールを実施することにより、次に掲げるねらいを達成することを目的とする。

- (1) 自然との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな情操や感性をはぐくむとともに、子どもたちの知的好奇心や探究心を喚起し、課題解決への意欲や態度を培う。
- (2) 短期の宿泊体験を通じて、集団生活の基礎を身に付けるとともに、子どもたちの豊かな人間関係を育てる。
- (3) 子ども同士の協働により、自主性や協調性を育てるとともに、現地の人々との交流を通じて、進んで他者とのかかわる力を培う。
- (4) 学年ごとの発達段階や子どもたちの実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関連を考慮し、学習効果及び学習意欲を高める。

### (実施学年)

第2条 実施学年は、小学校第4学年とする。

### (活動内容)

第3条 プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

- 2 武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和50年6月武蔵野市教育委員会規則第2号）第17条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

### (実施場所)

第4条 校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

### (指導者等)

第5条 プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

- 2 教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。
- 3 学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。
- 4 生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

5 プレセカンドスクールには、各校につき看護師1人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

(費用)

第6条 プレセカンドスクールに要する経費は市が負担するものとする。ただし、児童は、食費の額を考慮して教育長が別に定める費用を負担するものとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成17年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成18年4月1日から適用する。

付 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

## セカンドスクール実施地(泊数)の変遷①(～平成23年度)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町 (6泊7日)					長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
第二小学校	長野県高遠町 (6泊7日)			富山県利賀村				(7泊8日)
第三小学校	岩手県遠野市 (6泊7日)		長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)			(8泊9日)
第四小学校	長野県高遠町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)	長野県飯山市 戸狩				(7泊8日)
第五小学校	岩手県遠野市 (7泊8日)		山形県酒田市 ・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町 (3泊4日)	(5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 戸狩		
境南小学校	長野県高遠町 (6泊7日)		長野県飯山市 戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	(5泊6日)	長野県飯山市 信濃平 (6泊7日)					(7泊8日)
千川小学校	山梨県中富町 (5泊6日)		(6泊7日)					千葉県銚子市 (7泊8日)
井之頭小学校	山梨県中富町 (3泊4日)	静岡県富士宮市 (5泊6日)	(6泊7日)			長野県飯山市 信濃平		(7泊8日)
関前南小学校	山梨県中富町 (6泊7日)		山形県遊佐町	(7泊8日)	(8泊9日)			(9泊10日)
桜野小学校 (※1)	富山県利賀村 (5泊6日)		(6泊7日)					
第一中学校	長野県豊科町 (6泊7日)	東京都大島町 (3泊4日)	群馬県嬬恋村 (4泊5日)		山梨県足和田 村			
第二中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県飯山市 斑尾高原	長野県飯山市 北竜湖 (4泊5日)	新潟県松之山 町			
第三中学校		長野県高遠町 (3泊4日)	静岡県富士宮市	(4泊5日)	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	静岡県富士市	静岡県御殿場 市 (4泊5日)			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	福島県猪苗代町	群馬県高山村 (4泊5日)				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原 (3泊4日)	長野県豊科町		(4泊5日)			

※1 平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2 平成4年・・・長野県八坂村にて試行実施(6泊7日)

※3 平成5～6年・・・岩手県遠野市にて試行実施(12泊13日)

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
					新潟県魚沼市		(6泊7日)	
	平成16年11月1日 南砺市へ新設合併							
			群馬県片品村			(7泊8日)		
							(6泊7日)	
群馬県川場村								新潟県南魚沼市 (6泊7日)
(7泊8日)							(6泊7日)	
				山形県鶴岡市			(6泊7日)	新潟県南魚沼市
					長野県飯山市 戸狩			
						(8泊9日)	(7泊8日)	長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)
山形県遊佐町 (7泊8日)						(5泊6日)	(7泊8日)	長野県飯山市 戸狩 (6泊7日)
長野県白馬村								
		平成17年4月1日 十日町市へ	新設合併					
		平成17年10月1日 安曇野市へ	新設合併					
		平成17年10月1日 安曇野市へ	新設合併					

セカンドスクール実施地(泊数)の変遷②(平成24年度～)

	24年度	25年度
第一小学校		
第二小学校		
第三小学校	(6泊7日)	
第四小学校		
第五小学校		
大野田小学校		
境南小学校		
本宿小学校	新潟県 南魚沼市	
千川小学校		
井之頭小学校		
関前南小学校		
桜野小学校		
第一中学校		
第二中学校		
第三中学校		
第四中学校		
第五中学校		
第六中学校		

# プレセカンドスクール実施地(泊数)の変遷

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19・20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
第一小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	(平成17年11月1日甲州市へ 新設合併)				千葉県 館山市	東京都 檜原村		山梨県富士河 口湖町西湖
第二小学校		山梨県 大和村 (2泊3日)	千葉県 館山市					山梨県富士 河口湖町		
第三小学校	静岡県 富士宮市 (2泊3日)		群馬県 片品村	山梨県富士 河口湖町			新潟県 南魚沼市			
第四小学校	群馬県 片品村 (2泊3日)									
第五小学校		群馬県 川場村 (2泊3日)						山梨県 山中湖村		
大野田小学校		千葉県 館山市 (2泊3日)						山梨県 北杜市		
境南小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)				山梨県富士 河口湖町 (1泊2日)	(2泊3日)			
本宿小学校	長野県飯山市 信濃平 (2泊3日)					新潟県南魚沼 市 (2泊3日)				
千川小学校			千葉県 小見川町 (2泊3日)	(平成18年3月27日 香取市へ新設合 併)	東京都檜原村 (平成19年度～)					
井之頭小学校		静岡県 富士宮市 (2泊3日)	群馬県 片品村							
関前南小学校	東京都 檜原村 (2泊3日)									
桜野小学校			千葉県 館山市 (2泊3日)					山梨県富士 河口湖町	山梨県 山中湖村	



平成25年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名	実施日	実施場所	現地宿舎	
小学校セカンドスクール	第一小学校	9/27(金)~10/3(木)	6泊7日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	9/22(日)~9/29(日)	7泊8日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	6/25(火)~7/1(月)	6泊7日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	5/30(木)~6/5(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	第五小学校	9/20(金)~9/26(木)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	大野田小学校	6/21(金)~6/27(木)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	境南小学校	9/19(木)~9/25(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	本宿小学校	9/26(木)~10/3(木)	7泊8日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	9/26(木)~10/2(水)	6泊7日	新潟県南魚沼市	民宿
	井之頭小学校	9/25(水)~10/2(水)	7泊8日	長野県飯山市	民宿
	関前南小学校	10/3(木)~10/9(水)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
	桜野小学校	9/22(日)~9/28(土)	6泊7日	長野県飯山市	民宿
中学校セカンドスクール	第一中学校	9/24(火)~9/28(土)	4泊5日	長野県北安曇郡白馬村	民宿3泊 林1泊
	第二中学校	5/28(火)~6/1(土)	4泊5日	新潟県十日町市松之山	農家2泊、旅館2泊
	第三中学校	5/16(木)~5/20(月)	4泊5日	長野県大町市	民宿
	第四中学校	9/25(水)~9/29(日)	4泊5日	長野県飯田市	キャンプ1泊 農家1泊、旅館2泊
	第五中学校	5/30(木)~6/3(月)	4泊5日	長野県安曇野市	農家1泊 公営宿泊施設3泊
	第六中学校	9/4(水)~9/8(日)	4泊5日	長野県安曇野市	農家1泊 公営宿泊施設3泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	9/18(水)~9/20(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町西湖	ホテル
	第二小学校	10/16(水)~10/18(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	6/5(水)~6/7(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	第四小学校	10/16(水)~10/18(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	10/2(水)~10/4(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	6/1(土)~6/3(月)	2泊3日	山梨県北杜市高根町清里	公営宿泊施設
	境南小学校	10/2(水)~10/4(金)	2泊3日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	本宿小学校	6/5(水)~6/7(金)	2泊3日	新潟県南魚沼市	民宿
	千川小学校	10/9(水)~10/11(金)	2泊3日	東京都西多摩郡檜原村	旅館
	井之頭小学校	10/16(水)~10/18(金)	2泊3日	群馬県利根郡片品村	民宿
	関前南小学校	9/25(水)~9/27(金)	2泊3日	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	9/11(水)~9/13(金)	2泊3日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル



# 小学校セカンドスクール



## 第一小学校

## 新潟県魚沼市

9月27日～10月3日(6泊7日)

参加人数 男子31名 女子36名  
計67名

## ○日程表

9月27日(金)		9月28日(土)		9月29日(日)		9月30日(月)	
7:30	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:00	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	守門着・昼食(弁当)	9:30	福山森林体験の家 炭焼き、薪割	9:40	小出スキー場着	8:30	教員交代紹介
13:00	開講式	12:00	昼食(弁当)	10:00	ハイキング 自然散策	9:00	課題別学習②へ出発 課題別学習②
14:30	課題別学習①	13:00	伐採体験	12:30	昼食(弁当)	12:30	昼食(弁当)
17:00	健康観察・入浴	16:15	班長会議	13:30	小出スキー場発	14:30	課題別学習②の続き
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴	14:15	目黒邸見学	15:00	教員交代紹介
19:00	はじめましての会 語らいの時間	18:00	夕食	15:00	昔話を聞く会	17:00	班長会議
20:00	一日の振り返り	19:00	手紙書き 語らいの時間	16:30	健康観察・入浴	18:00	健康観察・入浴
21:00	就寝準備	20:00	一日の振り返り	17:30	夕食	21:00	夕食
21:30	消灯・就寝	21:00	就寝準備	19:00	天体観測へ出発	21:30	語らいの時間
		21:30	消灯・就寝	19:30	天体観測	20:00	一日の振り返り
				21:00	就寝準備	21:00	就寝準備
				21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝
10月1日(火)		10月2日(水)		10月3日(木)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝会		
9:00	須原小学校訪問 交流会	9:00	わら細工作り	8:00	荷物整理・大掃除		
9:30	稲刈り・はざ掛け	11:30	郷土食作り体験	10:30	閉校式		
12:00	昼食(弁当)	12:00	昼食	11:00	守門発		
13:00	須原小学校出発	13:30	宿別体験	12:00	昼食(赤城高原 S.A)		
13:30	農耕舎(見学・脱穀)	15:30	セカンドのまとめ	14:00	トイレ休憩		
17:00	健康観察・入浴	17:00	健康観察・入浴	15:30	学校到着		
18:00	夕食	18:00	夕食		帰校式		
20:00	一日の振り返り		ありがとうの会				
21:30	消灯・就寝	20:00	一日の振り返り	16:00	解散		
		21:30	消灯・就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・1学期の社会科で、日本の農業の米作りについて学習をする。
- ・5月から、児童一人一人がバケツ稲を育て始め、学校の田んぼでは、魚沼から送っていただいたコシヒカリを育て始める。
- ・米がおいしくできる要因について話し合い、「水」「土」「気候」「大気」の四つのテーマについて分かれ、調べ学習や調査活動を行う。9月に学年内で発表会を行い、現地の講師の先生方に発表することをまとめる。
- ・魚沼（新潟）の土地を知るというめあてで、「魚沼の生活の移り変わり」「雪国の暮らしと街づくりの工夫」「中越大震災の被害と対応」「水力発電とダム」の四つのテーマに分かれ、調べ学習を行う。

### ② 事後の学習内容

- ・米作りの四つのテーマごとに、調査の結果や現地の講師の先生から聞いたことをまとめる。
- ・魚沼の土地を知る四つのテーマについて、現地で見学したり、学習したりしたことをまとめる。
- ・テーマ以外の体験活動や見学から、わかったこと、考えたことをまとめる。
- ・上記の事柄について、次年度セカンドスクールに行く第4学年に向け発表会を行う。
- ・国語の授業で、「セカンドスクールを一文字で表そう」という学習課題を設定し、各自が文字と文章でセカンドスクールでの自分の成長などを表現する。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、ハイキング・自然散策

現地の講師の方3名にグループごとについてもらい、小出スキー場の駒見山の頂上を目指して、植物や昆虫の説明を聞きながら、ハイキングをした。葉や茎を使って簡単に笛を作ったり、木が漢方薬になったものの実物を見せてもらったりして、自然の中での遊び等を教えてもらいながら、自然の楽しみ方を実感できた。



【ハイキング】

#### 2、天体観測

須原高原スキー場の「星の家」という施設で、講師の方3名に来ていただき、観測を行った。当日の夜空についての話、天体望遠鏡の観測、双眼鏡での観測と3か所を交代しながら学習を進めた。当日は、満天の星空で、天の川もはっきりと確認することができ、児童からも感嘆の声があがった。「宝石箱の中みたいだった。」という児童の感想もあり、星座や宇宙への興味・関心も深まった。

## <学習体験活動>

### 1、農業体験

地元の魚沼市立須原小学校の5年生と交流会を行い、その後、農耕舎（元農業公社）の方の指導のもと、稲刈りとはぎ掛けを行った。鎌の使い方、束ね方など須原小学校の児童に教えてもらい共同で作業をすることができた。最後に落ち穂を拾うことも教わり、米を大切に作る姿勢も学ぶことができた。その後、足踏み式の脱穀機（大正~昭和初期の物）を使い脱穀作業も体験することができた。さらに、昔はわらを使用して、生活に役立つ物を作っていたことも学び、実際にわらを編んで鍋敷きを作成した。

### 2、林業体験

福山森林体験の森に出かけ、炭焼き窯から炭をかき出す作業や丸太を短く切ったものを斧で薪にする作業などを行った。高温の中で仕事をする大変さを実感し、講師の方がこの仕事を始めた思いも聞くことができた。また、堅い材木を切るのに想像以上に力が必要なことも体験できた。さらに、ブナ林で伐採した木をのこぎりで短く切り分け、運び出す作業も行った。



【炭焼き】

### 3、課題別学習①②

課題別①では、「魚沼のお米はなぜおいしいのか」を水、土、気候、大気テーマに分かれて、事前学習をし、現地では、武蔵野市と比較しながら調査活動を行った。その後、講師の方から詳しく話を聞くことができた。課題別②では、四つのグループに分かれ魚沼（新潟）を知る学習が進められた。只見線への乗車、奥只見ダムや小千谷震災ミュージアムへの見学など児童が体験してきたことを帰宿後、1日の振り返りの時間に児童同士で交流することもできた。

## <生活体験活動>

### 1、郷土食作り

第6日目の昼食は、各宿で郷土食である五目御飯作りを行った。米、山菜、クルミなど地元でとれた食材を使う地産地消の考え方は昔からあり、食材を色々な調理法でおいしく食べようとする昔の人々の工夫にも気付くことができた。

## ○児童の感想

- ・田んぼに行って、土をさわりました。東京の土と色、手ざわり、PH が違いました。ねん土質だということもよくわかりました。講師の横山さんにいろいろと教えてもらい感謝しています。
- ・なかなか割れない薪を、みんなで協力して割れたのでよかったです。斧を木のどこに打つかが難しかったです。昔の人は、機械がなくても知恵を使って色々な物を作ったのがすごいと思いました。

- ・中越地震の時、ビニルハウスを避難所にしたということが分かり驚きました。全国からボランティアが来てくれて、そのときのありがたさを忘れず、東日本大震災のとき恩返しにと全市をあげて支援活動をしたと聞き、その気持ちがすごいなと思いました。家に帰ったら避難する時の準備をしっかりしようと思いました。
- ・天体観測では、夏の大三角形や人生初の天の川を見ることができ、「すごい！」としか言いようがなかったです。
- ・稲刈りの時、最初は刈るコツをつかめず時間がかかったけれど、須原小学校の人に教えてもらって、けがなくできてよかったです。束にするのにきつく結ぶのもけっこう大変でした。
- ・セカンドスクールを振り返って、自分の意思をもつことも大事だけど、みんなに意見を合わせることも大事だなと思いました。なぜかというあまりにも自分勝手なことを言っているとけんかになることが分かったからです。でも、みんなのまねをするのもだめだと思いました。だから、これからの学校生活では、自分の意思をもつこと、自分勝手なことをしないことを心がけたいです。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

1学期の総合的な学習の時間で学校の田んぼやバケツでの稲作りを始め、お米がおいしくできる要因を話し合い、四つのテーマに分かれ、調査活動を含む事前学習を行った。魚沼では東京と比較しながら調査活動ができ、専門家からも話を聞いたり、自分たちの考えをまとめたりすることができた。仮説を立て、それをどのように検証し、まとめていくかという学習の仕方を学ぶことができ、今後の教科学習等に生かしていくことも期待できる。また、学習したことや体験したことを第4学年に向けて発表し、下学年の児童が来年度への活動に対して興味・関心をもてるようにした。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・米作りに関連して四つのテーマで1学期後半から学習を始め、夏休みに各自が調べ学習をし、9月に発表し合った後、さらに検証するために調査活動を行い現地での学習に臨むことができた。長期間にわたって一つのことを追究していく態度や方法を学ぶことができた。しかし、調査活動に難しい内容もあり、検討する必要がある。
- ・第6日目には、宿別でゆったりと過ごす活動計画にした。大きく体調を崩し発熱する児童やけがをする児童もいなかった。また、宿の方から学ぶ時間（わら細工作り、郷土食作り）にじっくりと取り組むことができ、さらにコミュニケーションを深めることができた。
- ・生活指導員や学習指導員への指導が必要なことがあった。実施前の学校での打ち合わせだけでなく、指導員としての十分な事前研修が必要ではないかと考える。

## 第二小学校

## 富山県南砺市利賀村

9月22日～9月29日(7泊8日)

参加人数 男子 33名 女子 27名  
計 60名

## ○日程表

9月22日(日)		9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)	
7:00	集合	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:10	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
7:50	武蔵境駅発	8:30	地域探索	9:00	ハイキング始	8:30	学習のふりかえり
12:00	昼食(車内)	9:30	そば打ち体験	12:00	昼食	10:00	林業体験
12:57	高岡駅着	11:30	昼食	15:30	ハイキング終	13:00	昼食
14:50	行政センター着	13:00	稲刈り体験	16:00	民宿着	13:45	岩魚づかみ体験
15:00	開校式	16:00	民宿着	17:00	入浴		百瀬川の散策
16:00	民宿着	17:00	入浴	18:00	夕食	16:30	民宿着
17:00	入浴	18:00	夕食	20:00	手紙を書く	17:00	入浴
18:00	夕食	20:00	利賀の話を聞く			18:00	夕食
20:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	21:00	学習のまとめ	20:00	利賀の話を聞く
21:00	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:00	学習のまとめ
9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)		9月29日(日)	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:15	朝食
9:00	課題別活動	9:15	利賀小との交流	10:00	相倉集落着	8:50	閉校式
12:00	昼食	12:00	昼食	11:15	相倉集落発	9:15	そばの郷発
13:30	そばの資料館見学	14:00	そば刈り体験	12:30	民宿着	11:40	高岡駅発
14:30	民宿着	16:00	民宿着		昼食	12:15	昼食(車内)
	課題別活動	17:00	入浴	13:30	民宿別活動	15:30	東京駅着
17:00	入浴	18:00	夕食	17:00	入浴	16:20	武蔵境駅到着
18:00	夕食	20:00	お礼の手紙を書く		お別れ会	17:00	解散
20:00	お別れ会準備	21:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ		
21:00	学習のまとめ	21:30	就寝		荷物整理		
21:30	就寝			21:00	就寝		



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・校庭の樹木を調べた。
- ・里山の木について学習した。
- ・里山と人との関わりについて知った。
- ・里山を守る人々から詳しく話を聞いた。
- ・社会科の林業についての単元を入れ替え、日本における林業のあり方や問題点を学んだ。

### ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験から学んだことについて、作文にまとめた。
- ・事前学習において設定した自分のテーマについて調べたことをまとめ、発表した。
- ・セカンドスクールにおいて、調べたこと、学習したことをもとに、新聞にまとめた。
- ・子どもたちそれぞれが課題別活動やハイキング、民宿で体験したことなど、写真を選択しながら、保護者に分かりやすくセカンドスクールの内容を紹介する新聞をパソコンで作成した。
- ・セカンドスクールで学習したことを生かし、グリーンアドベンチャーの取り組みをし、他の学年の子どもが木に対する興味をもてるようなクイズを作成する活動を予定している。
- ・セカンドスクールを通して学んだことを4年生に発表することを予定している。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、ハイキング

各班にそれぞれ現地講師がつき、ハイキングで出会う様々な動植物に対して説明を受けた。峠の一本杉という、昔の人が目印にしていた大きな杉を目指してゆっくりと歩いて行った。途中、漢方薬に使われる植物の味見をしたり、珍しい植物に足をとめて見入ったりと、講師の説明をじっくりと聞き、通り過ぎるだけでは分からない山の魅力を子どもたちは味わっていた。特に、雪の重みで曲がってしまった大きな木の根元やブナばかりの林に興味をもつ子どもたちが多かった。



【ブナの原生林を歩く】

#### 2、岩魚づかみ体験

普段、魚からさばいて料理をするという経験のない子どもたちが、岩魚をつかまえ、刃物を使って内臓を取り出し、炭火で焼くという活動を行った。川で元気よく泳ぐ岩魚を捕まえるまではとても楽しそうにしていたが、魚をさばいたり串に刺したりする時になると、躊躇する子どもたちが多かった。それは、今まで生きていたものに対する思いをなかなか断ち切ることができないためであった。「普段、『いただきます』と何も考えずに言っていたが、これからは生き物に対する気持ちをこめて言いたい。」という感想が聞かれ、食に対する理解が深まる体験となった。

## <学習体験活動>

### 1、稲刈り体験

現地の講師の方々の指導で、鎌を使い、育った稲の根元を次々に刈っていった。また、稲を束ね干していくはさがけも行った。さらに、昔の人が使用していた古い脱穀機なども実際に動かしながら、脱穀の体験も行うことができた。最後に、現在の稲刈りの方法として、コンバインを用いた素早い稲刈り、脱穀の様子も見ることができ、子どもたちは今と昔の稲刈りの仕方に大きな違いがあることを学んだ。

### 2、林業体験

森林組合の方々から、木の伐採方法や枝打ちのことについて話を伺った。実際にチェーンソーで2本の木を伐採してもらった。ものすごい地響きとともに伐採される様子を間近にして、子どもたちは林業を営む人々の工夫や危険などを肌で感じる事ができた。さらに、昔の道具を使って大きな丸太を切る体験をしたが、なかなかうまくいかないことに気づき、今とは違い時間のかかる作業であったのだと理解することができていた。

## <生活体験活動>

### 1、そば打ち体験

そば粉から少しずつ水を加え、ゆっくりと作り上げていく方法を興味深く聞き、体験することができた。普段、何気なく食べているそばもこのように丁寧に手で作られていることに子どもたちはそばに対する関心を高め、その後のそば刈り体験やそばの資料館の見学も、その関心を維持し、熱心にインタビューしたり、調べたりすることができた。



【昔の道具を使って】

### 2、民宿での体験活動

民宿で育てている野菜を収穫し、収穫したものをきれいに洗う体験をしたり、藁で草履や初午を作る体験をしたりした。それぞれの家庭であるものを生かし、活用していこうとする利賀村での暮らしを体験することができた。必要なものや食べたいものなど、生活の中で作り出し、工夫を重ねて改良していこうとする自然の中での暮らしから、多くの学びと共に、生き生きとたくましく活動していく子どもたちの姿が印象的だった。



【そば打ちの説明を聞く】

## ○児童の感想

- ・伯爵南瓜やソウメンウリなど、知らなかった野菜と出会うことができた。
- ・民宿で初めて食べる料理があり、インタビューなどをしていくとまだまだ知らない料理があり、郷土料理についてもっと知りたいと思った。

- ・昔の暮らしには木が欠かせず、あらゆる道具や家に使われていたが、今の生活では昔ほどではない。だから、意識して大切にしていけることが必要なのではないかと思った。
- ・昔からの家は、いろりなど様々な工夫があることが分かり、家の造りに興味をもった。
- ・今の暮らしは、とても便利だが同時にゴミや環境問題もある。そのように考えると昔の人々の工夫は、環境を考える上でとても重要だと思う。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

### <総合的な学習の時間>

#### 1、「利賀の森は地球を守る」

事前学習では、身近な校庭の木々の様子を観察し、どのような木が校庭にあるのかを調べた。また、その中から一つの木を選び、詳しく調べることで、木への関心を高めるようにしていった。身近な木への関心を高めた上で、地域にある独歩の森の木々を調べ、校庭の木々との違いに気が付くようにした。そこで、萌芽更新や下草刈りなどについて学び、里山と人との関わりについて学習していくことになる。

里山は、手入れをしないと守ることができないことが分かり、なぜ守る必要があったのかを学んだ。それは昔の生活では、農具や薪、落ち葉などを供給してくれる欠かすことのできないものであるという里山の役割があったためである。また、独歩の森を守る地域の人々からもお話を聞き、人々の工夫や努力に気付かせ、里山についての理解を深めていった。

このように、身近な校庭の木々から里山へと視点を広げていくことで、子どもたちは木や自然に対する関心を高めていき、人と環境との関わりについて学習していった。その学習の先にセカンドスクールがあり、利賀村の自然や人々の暮らしについて調べていく時、学習した内容が生かせるようにしていった。

### <社会科>

#### 1、「森林とわたしたちの暮らし」

単元を入れ替え、林業や環境に関わる内容をセカンドスクールの前に学習した。

土砂崩れを防いだり、雨水を蓄える働きがあったり、森林と私たちの生活との関わりについて学習した。また、天然林と人工林の違いや林業が抱える問題なども知り、利賀村への理解や意識を高めることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・1週間という長い期間、民宿で仲間と生活し、自分のことは自分で行ったり、助け合ったりしていくを通して自立と協働に対する意識が芽生えた。
- ・書籍やインターネットで調べるだけでなく、実際に体験を通して学習していくことで、環境や人々の工夫や努力について身をもって学ぶことができ、理解が深まった。
- ・1週間の中での体験活動は、多岐に渡っている。それぞれの活動のねらいを明確にし、児童の体験活動が充実した学びにつながるように現地の方と打合せをしていくことが大切である。

## 第三小学校

## 群馬県利根郡片品村

6月25日～7月1日(6泊7日)

参加人数 男子 40名 女子 38名  
計 78名

## ○日程表

6月25日(火)		6月26日(水)		6月27日(木)		6月28日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:30	出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:45	開校式	9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
12:15	各民宿あいさつ	9:30	農業体験	9:30	河原体験	9:30	うどん作り体験
		12:00	昼食(各宿)	12:00	昼食(河原)	12:00	昼食(各宿・うどん)
		13:00	工芸体験	14:00	片付け	13:30	こんにゃく作り
16:30	夕方の会	16:30	夕方の会	15:00	感謝の会準備	16:00	尾瀬高校訪問
17:00	入浴	17:00	入浴	16:30	夕方の会	17:40	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	17:00	入浴	18:30	夕食
19:00	学習の記録	18:00	夕食	18:00	夕食	19:30	学習の記録
21:00	消灯	19:00	学習の記録	19:00	学習の記録	21:00	消灯
		21:00	消灯	21:00	消灯		
6月29日(土)		6月30日(日)		7月1日(月)			
6:00	起床	6:30	起床	6:30	起床		
6:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
8:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会		
	尾瀬での自然体験 鳩待峠	9:30	武尊牧場	9:30	勤労体験活動		
12:00	昼食(弁当・牛首)	12:00	昼食(弁当)	11:00	昼食(各宿)		
14:30	鳩待峠出発	14:00	武尊牧場出発	12:00	閉校式		
16:30	夕方の会	15:00	感謝の会準備	12:30	片品村出発		
17:00	入浴	16:30	夕方の会				
18:00	夕食	17:00	入浴				
19:00	学習の記録	18:00	夕食	15:30	学校着・帰校式		
21:00	消灯	19:00	感謝の会	15:45	解散		
		21:00	消灯				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・尾瀬ヶ原や片品村の自然や特産品、地理など一人一課題を決め、関心をもったことについて、図書資料・インターネット情報・観光パンフレット等を参考にして調べた。各クラスでまとめたものを冊子にした。
- ・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成した。宿での生活を充実したものにするため、事前にカードを民宿へ送付した。

### ② 事後の学習内容

- ・お世話になった民宿の方や尾瀬高校の生徒さんたちへ感謝の気持ちを込めた手紙を書いた。お礼の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけて手紙にまとめた。
- ・国語科の「活動報告書」の中で、セカンドスクールで学習したことを文章に書き、報告文をまとめた。
- ・3学期には、4年生に向けてセカンドスクール報告会をおこなった。体験・学習してきたことをまとめ、自分自身の振り返りとともに4年生への意欲付けにする。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、尾瀬ハイキング

尾瀬ハイキングへ行く前日、子どもたちは尾瀬高校を訪問し、当日ネイチャーガイドとして案内してくれる高校生との顔合わせを行った。尾瀬高校内には、植物園（ミニ尾瀬）があり、実際に尾瀬で使われた木道が再利用され、その上を歩けるようになっている。その中で、尾瀬でのマナーや、山の歩き方などを実際に体験しながら学ぶことができた。

自然体験の当日。天気にも恵まれ、尾瀬高校生にガイドをしてもらい元気に出発した。ガイド役の高校生は、尾瀬の歴史や、植物の名前、周囲に見える山々の名前や水中の生物についてなど、途中で立ち止まりながら、小学生にも分かるように話をしてくれた。子どもたちも、質問をしながら、興味深く話を聞いていた。

ちょうど水芭蕉の時期と重なり、子どもたちも自然の雄大さや美しさに感動しながら歩くことができた。また、鳥の音が聞こえ、動物たちが尾瀬の自然の中で生きている様子を感じることができた。ネイチャーガイドの高校生たちが、子どもたちの体力を考えながら歩いてくれたり、励ましたりしてくれたおかげで、楽しく安全にハイキング行うことができた。



【尾瀬ヶ原での自然散策】

#### 2、武尊牧場自然体験

天気も良く、リフトに乗ると素晴らしい風景が楽しめた。周囲を見渡すと武尊山の連峰と白



樺の木々が立ち並ぶ広々とした高原だった。子どもたちは、五つのチームに分かれ、現地の指導員とともにトレッキングやネイチャーゲームを実施した。

奥の遊歩道は、ブナの原生林に囲まれており、子どもたちはふかふかな落ち葉の上を、指導員の先生の説明を聞きながら歩いた。また、ブナの木に聴診器をあてて水を吸い上げる音を聞いた。かすかに聞こえる水の音を探し当てるとうれしそうな表情を浮かべていた。体験を通して水源林としての山や森の役割を学ぶことができ、尾瀬ヶ原とはまた違う高原の自然を満喫することができた。



【ブナの原生林でのレクチャー】

## ＜学習体験活動＞

### 1、農業体験

トウモロコシの植え付けを行った。宿の方の指導のもと、マルチをはった畑に一定の間隔をとり、班で協力して活動した。作業では、土と一体化し、真剣に作業に取り組む姿が見られ、トウモロコシの生長を楽しみにする場面がみられた。

終了後は、畑の雑草を抜いたり、畑の手入れの仕方を学んだりと宿ごとに楽しく活動する様子がみられた。



【トウモロコシの植え付け】

### 2、火起こし体験

民宿の近くに流れている塗川で、かまど作り体験と火おこし体験を行った。まず、かまど作りに適した石を河原で探し、グループごとに鍋の大きさや風向きを考えながら友達どうし協力してかまどを作った。また、前日までに集めた枝を空気の通り道を考えながら組み、焚きつけ用の新聞紙とマッチ5本だけで火おこしをした。見事に火がついたときは、一斉に「やったあ」と歓声があがった。満面の笑顔であった。

その後、おこした火ですいとんを作り、おいしくいただくことができた。終了後は、浅瀬の川に入り、水遊びを行った。最後は、冷えた石から順に河原へ戻し、薪や炭の片付けもきちんと行って体験活動を終えた。



【川原でのすいとん作り】

## ＜生活体験活動＞

### 1、うどん作り

うどん作りでは、小麦粉と水がなめらかになるまでこねる必要がある。子どもたちは、手で練ったり、足で踏んだりして、こしのあるうどんに仕上がるよう意欲的に取り組んでいた。また、生地をのぼしたり、切ったりする機械では、友達



【各宿でのうどん作り】

と順番に協力して使いこなし、おいしいうどんになるよう取り組んでいた。できあがったうどんは、宿ごとにてんぷらうどんにしたり、ざるうどんにしたりして、おいしくいただくことができた。

## 2、こんにやく作り

こんにやく作りでは、こんにやくいもの皮をむき、ミキサーにかけ、凝固材と混ぜて固めた。こんにやくいものが凝固材を入れるとどろどろと固まっていくことに子どもたちは、驚きながら作業する様子がみられた。できあがったものは、翌日のすいとんに入れて食べた。

## ○児童の感想

- ・班での役割に責任をもって活動することができ、自分自身の成長につながった。
- ・尾瀬ヶ原や武尊牧場では、吉祥寺では見ることができない自然の美しさに感動し、自然の偉大さや大切さを改めて気付くことができた。
- ・学校では、接することが少ない友達と同じ班になり、一緒に活動をしたり、生活をしたりする中で新たな信頼関係を築くことができた。
- ・片品村の人々の親切な気持ちや宿のお父さん、お母さんの優しさに触れることができた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

ファーストスクールでは味わえない自然や人との触れ合いを通して、自然と人間との共生、環境保全の必要性、自然に対する畏敬の念などについて体験を通して気付くことができた良い機会であった。長期の宿泊による生活により、より深く考えたり、交流し合ったりする機会を通して、自立に必要な知識・技能や生活習慣を身に付け、学校生活でも必要である人との結びつきや生活力を養うことができた。そのような力は、学校生活でも大きく役立つものとなった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・実施時期を考えると、農業体験などの活動が充実できないものも見られた。プレセカンドスクールの実施時期と合わせて考え、秋の収穫体験を味わわせたい。
- ・期間が長いため、疲れから体調を崩す児童が数名見られた。体調管理に関する事前指導はしていたものの、宿に戻ると子どもどうして楽しいせいか興奮して熱を出したり、のどを痛めたりする児童がいた。そのため、民宿を回っての生活指導や指導員との連携の必要性を感じた。
- ・尾瀬の鳩待峠までは、山間部の道路のためバス酔いする児童が多く出た。酔いやすい子どもには、事前に酔い止めを飲む指導をしたが、それでもバス酔いをし、戻ってしまう児童も見られた。

## 第四小学校

## 長野県飯山市

5月30日～6月5日(6泊7日)

参加人数 男子32名 女子24名  
計56名

## ○日程表

5月30日(木)		5月31日(金)		6月1日(土)		6月2日(日)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
13:00	戸狩到着・開校式	9:00	田植え体験	9:00	とん平ハイキング	9:00	ブナの林観察
13:30	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
15:00	はし作り体験	13:30	雪国の暮らし	15:00	手すき和紙体験	13:00	わらざうり作り体験
18:00	夕食	14:30	宿ごと体験	16:30	手紙書き		お別れ、お迎えの会
19:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
20:00	健康観察	19:00	入浴	19:00	入浴	19:00	入浴
	語らいの時間	20:00	健康観察	20:00	健康観察	20:00	健康観察
	今日のまとめ		語らいの時間		語らいの時間		語らいの時間
21:30	就寝		今日のまとめ		今日のまとめ		今日のまとめ
		21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝
6月3日(月)		6月4日(火)		6月5日(水)			
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察		
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	林業体験	9:00	焼き板体験	8:00	荷物整理		
12:00	昼食		笹すし作り		部屋掃除		
13:30	飯山の歴史学習	12:00	昼食	9:30	閉校式		
17:30	夕食	13:00	ふるさと体験	10:00	戸狩出発		
19:00	キャンプファイヤー	14:00	セカンドスクールのまとめ	12:00	昼食		
20:00	入浴	16:00	宿の方々へ手紙作り	15:30	学校到着・到着式		
20:30	健康観察	17:30	入浴	15:45	解散		
	語らいの時間	18:00	お別れ夕食会				
	今日のまとめ	19:00	感謝の交流会				
21:30	就寝	20:30	健康観察				
			今日のまとめ				
		21:30	就寝				



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・飯山市の概要について知る。  
社会科の学習と合わせて、場所や気候についての理解を深める。
- ・飯山市の自然、農業、歴史などからテーマを選び、情報を活用し調べ学習を行う。  
調べたことを効果的に伝えるために図や写真を用いて発表原稿を作成する。
- ・中間発表会を通して自然体験活動への期待をもつ。  
調べて分かったことや、セカンドスクールで楽しみになったことを発表する。友達の発表を聞き、相互評価を通して活動意欲を高め、現地における自らの課題を設定する。

### ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールをまとめ、情報を交換する。  
お世話になった方々へのお礼の手紙を書き、感謝の気持ちを伝える。  
セカンドスクールの体験や学びを作文や新聞にまとめ、発表する。
- ・4年生に向けてセカンドスクール発表会を行う。  
相手意識、目的意識を明確にし、伝えたいテーマごとに発表会に向けての準備をする。  
発表内容、発表方法、使用機器、使用写真等を話し合い、決める。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、とん平ハイキング

とん平高原のハイキングを通して、都会では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむ活動プログラムである。各宿の方々から飯山で見られる植物や生き物の説明をしていただき、児童は都会との環境の違いや食べられる植物がたくさんあることに驚いた様子であった。

とん平の頂上では、東京では見られない盆地の様子を一望できた。山と川が長い年月をかけて創り出した地形の美しさに、児童も感動していた様子だった。帰京後、社会科や理科の学習もとん平での体験によって、学習内容の理解をさらに深めることができた。

#### 2、ブナ林観察

標高の高い地域で見られる「ブナ林」について、理解を深めていくための体験活動である。東京では全く見られない理由、ブナの木が果たす役割、伐採の歴史など宿の方々に丁寧に教えていただきながら、ブナの森を歩き自然に親しむプログラムである。吸水力の高いブナの木の実たす役割について知った児童は「なぜ多くが伐採されてしまったのか」という疑問を抱き、進んで質問を繰り返す姿が見られた。また、過度の伐採が人間の住む環境までも壊してしまうことを知った児童は、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。

## <学習体験活動>

### 1、田植え体験

「飯山ではなぜおいしい米が作れるのか」という学習課題を設定し、「田植え体験」を実施した。体験前に宿の方々からおいしい米を作るには冷たい水やよい土作りが必要であること、また毎日の世話が重要であることなどを教えていただいた。田植え体験では、児童の大半が水田に足を入れることが初めてであったため、「気持ち悪い」などの声が聞こえたが、しばらくすると「楽しい」「土の感触が気持ちいい」と夢中で活動に取り組んでいる姿が見られた。苗を一列ずつ揃えて植えるなど、おいしい米を作るための努力があることを感じ取った児童が多くいた。

### 2、手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが盛んに行われていた。地域に伝わる伝統工芸に触れ、学んでほしいと考え、飯山市内でも数少ない製紙工房の一つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行い、なかなか見ることのできない職人による手すき和紙作りの様子を見せていただいた。職人さんの和紙に対するこだわりがその場の雰囲気に出てきており、児童も緊張した面持ちで見学をしていた姿が非常に印象的であった。一つ一つのこだわりが伝統工芸を作り上げているということに対して、児童も理解を深めた様子であった。

## <生活体験活動>

### 1、はし作り

飯山市戸狩で宿の方々から歓迎を受けた開校式の後、児童が現地で初めて行う体験活動が「はし作り」である。セカンドスクール滞在期間中、毎日の食事で使用する箸であり、児童たちもより良い箸を作ろうと真剣に竹を削っている姿が印象的であった。小刀を使うことに難しさを感じている児童が多かったが、上手に作るコツを宿の方々に教えていただきながら、全員が箸を完成させた。宿の方々に遠慮がちであった児童も、徐々に打ち解けていった様子であった。

### 2、わらぞうり作り

雪国の暮らしの中では必需品であった「わらぞうり」を、手作業で作上げる体験活動である。作り上げるために多くの時間を費やすことを感じ取ってもらいたいと考えた。宿の方々や事前講習を行った指導員の先生方からアドバイスをいただきながら、児童は2時間以上座ったままわらぞうり作りに取り組んだ。自分で作ったわらぞうりを履いて地面を踏み締める姿に、児童の充実感が感じられた。



【わらぞうり作り】

## ○児童の感想

- ・このセカンドスクールで、自然との関わり合いや、協力し合うことが大切だと考えました。  
1週間、大変なこともあったけれど、そのトラブルがあったからこそ、友達とももっと仲良くなれたのだと思います。最高のセカンドスクールでした。

- ・ぼくは、セカンドスクールで友達と協力することの大切さを学びました。ぼくが、なぜ友達と協力し合うことが大事だと思ったのかというと、助け合うことによって相手のできないことができたり、自分のできないことを教え合ったりしてできるのがよいと思ったからです。
- ・セカンドスクールでわたしには、ある変化がありました。それは、初対面の人とも仲良くなれるようになったことです。宿のお父さんお母さんとすぐ仲良くなれて、お話をするととても楽しかったです。お別れのときはとても悲しくて、また会いたいと強く感じました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

本校では、セカンドスクールを5学年の総合的な学習の時間の中心的な単元として位置付けている。1学期から2学期まで、今年度は49時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名 (・は主な内容)
1 学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』 4月～6月 「飯山ってどんどころ？」 (5時間) ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習のテーマを選択し、インターネットを活用した調べ学習を行う。 ・グループごとに情報交換を行い、課題を深める。
	「セカンドスクール」 6月上旬 (30時間) ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』 6月中旬 「これまでの学習をまとめよう」 (2時間) ・事前学習や現地で学んだことを作文や新聞で表現する。
2 学期	『セカンドスクールを伝えよう』 10月～11月 (12時間) ＜セカンドスクール学習発表会＞ ・発表したい体験活動を考え、グループごとに発表の内容や方法、発表の流れ、役割分担などを話し合い、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 ・4年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。 ＜セカンドスクール交流会＞ ・宿の方たちへの感謝の気持ちを込め、役割分担して準備を進める。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・児童が宿泊行事に対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組んでいた。
- ・5分前行動など昨年度学習したことが今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
- ・飯山の自然に親しみ、武蔵野市ではできない良い体験をすることができた。
- ・宿ごとの体験については事前に場所や内容を確認し、より安全面に配慮して活動に取り組めるようにする。

## 第五小学校

## 新潟県南魚沼市

9月20日～9月26日(6泊7日)

参加人数 男子 37名 女子 19名  
計 56名

## ○日程表

9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)		9月23日(月)	
8:15	学校集合	6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床
8:30	バス出発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
11:30	八海山到着	9:30	坂戸山登山	9:00	稲刈り体験	9:30	グループ学習
12:00	昼食	11:30	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	八海山ロープウェイ	13:30	民宿帰着	13:00	民宿帰着	13:30	しいたけパックセンター見学
14:30	開校式	14:30	郷土食作り	13:30	グループ学習	15:00	カントリーエレベーター見学
15:00	各民宿へ(付近散策)	16:00	洗濯	16:00	民宿帰着 入浴	17:00	民宿帰着
16:30	民宿帰着 入浴	17:30	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	18:30	星空観察	19:00	学習のまとめ	19:00	学習のまとめ
19:00	学習のまとめ	19:00	入浴 学習のまとめ	20:30	健康観察	20:30	健康観察
20:30	健康観察	20:30	健康観察	21:30	消灯	21:30	消灯
21:30	消灯	21:30	消灯				
9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)			
6:45	起床	6:45	起床	6:45	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
9:30	グループ学習	9:30	五十沢小学校到着	8:30	荷物の整理		
12:00	昼食	12:30	昼食(学校給食)	9:00	宿舍出発		
14:00	雲洞庵到着 座禅体験	13:30	民宿帰着	9:30	学習報告会		
16:00	民宿帰着	14:00	民宿ごとの活動 夕食作り、夕食 感謝の会	12:00	昼食(宿食)		
18:00	夕食	19:30	入浴	13:00	閉校式		
19:00	学習のまとめ	20:30	健康観察	13:30	バス出発		
19:30	入浴	21:30	消灯	17:00	学校帰着		
20:30	健康観察				帰校式		
21:30	消灯			17:10	解散		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・課題別学習に向けての調べ学習(「ガイドブックを作ろう」)
  - 課題：ぶな林とキノコのヒミツ・上流中流下流の違い・新潟県で育つ植物たち
- ・社会科との関連(「米づくりについて調べよう」)

### ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだこと、成長したことをまとめる。
- ・お世話になった六日町の方々を迎えて交流会を開き、セカンドスクールで学んだことを報告して、感謝の気持ちを伝える。
- ・体験したことを4年生に伝える。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、坂戸山登山

強い日差しが照らす中、一人一人が声をかけながらの登山。途中、落ちていたドングリや咲いている花に目を向けたり、頬をなでる気持ちのよい風を感じたりしながら登ることができた。頂上では、黄金色に輝く田を中心とした六日町の景色が一望できた。ここで、1週間過ごすことへの期待が膨らんだ瞬間となった。



【「頑張れ」声をかけ合いながらの坂戸山登山】

#### 2、星空観察

満天の星空のもと、東京では見られない夏の星座たちを観察。流れ星や、天の川に感嘆の声を上げる姿が見られた。また、満月が山の端から登る瞬間も観察することができ、濃く輝く月に大きな歓声があがった。

#### 3、課題別学習

##### ①川の学習

川の源流で湧水に触れ、山の小さな流れが集まり、大きな流れになることを実感することができた。合わせて、森の役割、川の石の様子、川の生物について学ぶことができた。

##### ②ブナ林とキノコ

ブナ林の中でキノコのしくみ、種類、生え方の特



【自然と触れ合った課題別学習「ブナ林とキノコ」】

徴などを学んだあと、実際に探す活動を通して、キノコに関心を強めていった。また、ブナ林の役割についても学び、環境問題を考えるきっかけにもなった。

### ③植物観察

森の中には様々なめぐみがあり、それを昔の人々が食料にしたり遊び道具にしたりなど、さまざまな用途でくらしの中に活かしてきたことを知ることができた。

## <学習体験活動>

### 1、農業体験(稲刈り・はざかけ体験)

民宿の方々や講師の方々による指導のもと、鎌を使って稲刈りを体験した。「米づくりには八十八の手間がかかるから、すごく大変なことだ。」という言葉が子供たちは身をもって感じた。束にする際に落ちてしまった稲の一本一本をみんなで大切に拾い上げ、束にする姿が見られた。農業の重要性や大変さを感じるとともに、自然の恵みの豊かさに気付くことができた。また、私たちの食事は農業に携わる多くの方の長い時間をかけた苦労と工夫の上に成り立っていることを実感することができた。さらに、手刈りとコンバインによる稲刈りの様子を比べ、技術の進歩や生産力を上げる工夫を理解することができた。



【お米一粒一粒の重みを知った  
稲刈り体験】

### 2、カントリーエレベーター見学

社会科の授業で学習したカントリーエレベーターであったが、その大きさと迫力を実際に目にする事で、多くの感動がえられた。このような大きな施設を見学することにより、農家の人たちが安心して、より早く大量にコメを流通させることができるのだということを実感できた。また、案内をしてくださった施設の方から、米がもつ栄養や魅力についてお話があった後、「お米をもっと食べてください。」というお願いが子供たち一人一人の心に大きく響いた。

## <生活体験活動>

### 1、郷土食作り

民宿の方やインストラクターの方の指導のもと、ちまき作りやそば打ち、まいたけご飯作り、もちつき等、日常ではなかなか体験できない食を手作りする体験ができた。

### 2、民宿での生活

「自分のことは自分でできるようにする」という目標のもとに、洗濯や整理整頓などに一生懸命取り組む姿が見られた。また、友達との共同生活の中で、思いやることの大切さや今まで知らなかった友達の新しい一面を発見することで、絆が深まった。何より、民宿の方が、毎日手間をかけて食事を提供してくれること、「いってらっしゃい」「おかえりなさい」などの温かい言葉かけが嬉しかった。1週間の中でたくさんの思いやりを受けたり生活を支えていただいたりしたことで、人とのつながりを強く感じ、感謝の気持ちをもつことができた。

## ○児童の感想

- ・セカンドスクールで「一つ一つが大切だ。」ということ強く感じる事ができた。「一つ一つが大切」という言葉を、日々の生活の中で決して忘れないようにしようと思った。
- ・坂戸山登山などの活動の中で、困難なことに挑戦することの楽しさや、乗り越えたときの達成感を知ることができた。これからも、「強い挑戦の意思」を常にもっていきたい。
- ・セカンドスクールでは、多くの「本物」と出会うことができた。本物との出会いは感動が多く、とても心に残るものばかりだった。自分で見て確かめるということの大切さを実感できたので、これからも自ら行動し、多くの「本物」との出会いを大切にしていこう。
- ・一つ一つの貴重な活動・経験は、「天気が良かったからできた。」のではなく、観光協会の方々や、民宿のお父さんお母さん、五小の先生方など、多くの方々に支えられてできたことだ。また、お互いに励まし合い、助け合った友達がいたからこそ、心に残る活動をすることができた。お世話になった一人一人の方に、心から感謝したい。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

学習や生活を支えてくださった方に感謝し、学習したことを生かそうとする意欲が高まった。一人一人が考えて行動するようになってきた。感動したことや楽しかったこと、感謝の気持ちなどを進んで伝えることができるようになった。共同生活の中で、交友関係がより広がり、より深まったため、授業の中でも話し合いが活発化したり、クラスの一体感が増したりなど、仲間意識が高まった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

体力を使う活動が前半に集中してしまい、体力的にも予定的にも余裕がなかった。観光協会の方と連携をとり、次年度以降は、バランスの良い活動計画を考える。

## 大野田小学校

## 長野県飯山市

6月21日～ 6月27日(6泊7日)

参加人数 男子 54名 女子 56名  
計110名

## ○日程表

6月21日(金)		6月22日(土)		6月23日(日)		6月24日(月)	
8:00	学校発	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
		7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	昼食	9:00	手すき和紙	9:00	フィールドワーク	9:00	フィールドワーク
13:00	戸狩着 開校式		飯山市内観光				
14:00	各民宿へ		人形館見学				
15:00	はしづくり	12:00	昼食				
		13:00	ブナの森観察ハイク				
17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間
21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯	21:00	消灯
6月25日(火)		6月26日(水)		6月27日(木)			
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床		
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食		
9:00	とん平ハイキング	9:00	フィールドワーク	8:00	大掃除		
				9:30	閉校式、戸狩発		
12:00	昼食			12:00	昼食		
17:00	入浴	18:00	夕食	15:00	学校着		
18:00	夕食	18:30	お別れ会				
19:00	今日のまとめ	19:30	今日のまとめ				
20:00	語らいの時間	20:30	入浴				
21:00	消灯	21:30	消灯				



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・学年全体で、総合的な学習の時間のテーマと必要な力、セカンドスクールの意味や学習内容、学習のゴールを知り、見通しをもち、社会科で学んだことを生かしながら、調べ学習を行う。  
【観光という視点から高源院について調べる。 農業に携わる人々について調べる。 長野県と飯山市の位置、飯山市までの経路、飯山市の気候、飯山市の特色（自然、伝統・文化、産業、食べ物、観光）について調べる。】
- ・家庭科で、衣服の着方を考え衣服の手入れの仕方を学習する。

### ② 事後の学習内容

- ・課題追究学習として、フィールドワーク等を通して見出した課題について調べまとめる。  
①課題の設定 ②解決方法 ③ゴールの設定（誰に向けて、何をどうやって伝えるか）
- ・発表会（課題追究学習を通してまとめたことをパワーポイントで発表する。）
- ・国語の学習とからめて活動報告書を書く。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、とん平ハイキング

直接自然に親しむ活動場面としては、とん平ハイキングとブナの森観察ハイクを実施した。ハイキングについてはとん平で行い、山登りによる達成感を児童に味わわせる目的で今年も計画した。天候の関係で日程を変更したが、当日は、体を動かすにはよい気候となり、当初のねらいを達成することができた。気温の高さによる熱中症等が心配されたが、十分に水分補給をし、休憩もこまめにとったことで、大きなけがや事故も起こらなかった。

とん平は冬季スキー場として使用される。湧水などの豊かな自然に囲まれ、植物を直接身近に感じることができる。頂上からは地域の地形を一眺できるポイントがあり、実際の景色から北信濃の様子を学ぶことができた。

#### 2、ブナの森観察ハイク

ブナの森周辺の散策は、飯山の自然の特色であるブナの木について知る貴重な機会となり、森林の果たす役割を体感するよい活動となっていた。宿元の方々に講師を依頼し、ほかの動植物について説明してもらいながら観察ハイクを楽しむ児童の姿が多く見られた。



【ブナの森観察ハイク】

## <学習体験活動>

### 1、フィールドワーク

この活動は戸狩ならではの体験ができる本校の特色の一つである。各宿舎の宿元の方々が、それぞれ得意な分野での活動内容を計画し、毎年少しずつ工夫を重ねて準備してくださっている。いくつかの宿が観光の一環として合同で城跡公園にあった水仙の球根をスキー場の斜面に植え替える作業を行い、その様子を地元の新聞社が取材に来るなど、活動自体も注目を浴びていた。

#### ・主な活動内容

高源院（あじさい寺）の周辺整備作業、  
アスパラガスの畑作りや収穫、いちご畑の世話、  
花植えや支柱立て、防火用池の泥上げ、  
ハーブ畑作業、ジャム作り など



【水仙の球根植え替え作業】

### 2、戸狩を知ろう

#### （高橋まゆみ人形館見学・紙すき体験・飯山市内見学・高源院ご住職のお話）

宿ごとにローテーションをして全部を体験できるように設定した。紙すき体験では、内山和紙について学ぶことができた。自然条件に恵まれたことで盛んになった技術のすばらしさに触れ、工房で児童全員が手すき和紙作りを体験した。高橋まゆみ人形館では、飯山に暮らす人々の生活などが生き生きと表現され、地方の生活を知り自分たちの住む武蔵野市に思いを馳せるだけでなく、人形のなんとも言えない表情に心いやされる有意義な活動になった。高源院では、住職から「命の大切さ」についての話を聞いた。「赤ちゃんは生れてすぐに息を吸うのか、吐くのか」という問いから発し、生命の誕生とともに、この世に生を受けた奇跡と受け継がれる命の尊さについて学んだ。



【はしづくりの様子】

## <生活体験活動>

### 1、はしづくり

セカンドスクール中に自分たちが使う箸を自分たちで竹から作る活動を各宿ごとに行った。自分で作ったものを使うことで物を大切にしようという気持ちを高めることができた。

### 2、お別れ会

戸狩の人々や指導員とのかかわりの中で、感謝の気持ちを表したいという気持ちが高まり、企画、運営にいたっては、自主的に行動する姿が多く見られた。セカンドスクールを通して様々な人々と交流し自然なかかわりをもつことができるようになった。

### 3、日常生活にかかわる活動

宿の方と相談して必要に応じて洗濯をするようにした。事前に家庭科の授業で洗濯や衣類のたたみ方について学習した。食事係や整頓係など、役割を分担し、係を中心にみんなで配膳や掃除や整理整頓をする中で、身辺自立ができた。

## ○児童の感想

- ・飯山市の伝統工芸に触れ、武蔵野市についても調べてみたいと思った。
- ・アスパラの育て方について事前に調べたが、土づくりの大切さや丈夫に育てるための工夫や知恵をあらためて知ることができた。
- ・インターネットや本に載っていることだけでなく、実際に体験してみて育てている人たちの気持ちを感じることができた。
- ・戸狩での生活を体験し、自然と共存することの貴さ、大切さを感じることができた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

本校では、セカンドスクールを5年生の「総合的な学習の時間」の学習活動の中心として位置付け、児童の主体的な取り組みを促している。更にセカンドスクール期間中では、体験的な活動を通して判断力を育成し、理論と心情の両面から飯山市や戸狩地区の人々や自然に触れ、コミュニケーション能力や、探究心を養う機会として重視している。特にその中でもフィールドワークでは、宿別に課題を設定し、戸狩への理解を深めるという視点で、事前の実地踏査等でも十分検討した上でグループの課題を決めている。

セカンドスクールをゴールにするのではなく、セカンドスクールで学んだことをその後の生活や学習にいかすことをねらいとした。また、観光協会を通じて、事前に知っておきたい情報を各宿の協力を得て教えていただいただけでなく、要望やお願いについても早めに知らせることで、連携を深めることができた。課題別学習の現地講師は例年宿泊先の宿元の方をお願いしている。本校のこの活動に賛同し、毎年快く指導していただいている。年によって児童の興味関心が変化してくるが、いつも柔軟に対応してくれる。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・指導員の事前研修に力を入れ、その役割の重要性を十分認識させ仕事をしてもらった。本校のように分宿の場合、指導員はやはり各宿に男女1名ずつの配置が望ましい。その宿の児童のことも考えると、分宿では2名配置がやはり安定した活動ができたので、次年度も是非そうなることを希望したい。
- ・大きな事故やけが、夜中の通院もなく、無事に過ごせたことが、なによりの成果と言える。
- ・フィールドワーク期間中は全員が集合することがなかったために、他のグループがどのような活動をしているのかわからなかった。
- ・宿によって活動が違うため、その後の児童の課題設定が難しかった。
- ・日程変更の場合、祝日や土・日の休日が絡んだ時、設定に苦慮することがある。事前の雨天計画作成の際に、関連施設の休館や会場の予約状況等十分情報を得ておき、雨天の計画をしっかり立てる必要がある。

## 境南小学校

## 長野県飯山市

9月19日～9月25日(6泊7日)

参加人数 男子40名 女子45名  
計85名

## ○日程表

9月19日(木)		9月20日(金)		9月21日(土)		9月22日(日)	
7:45	学校集合、出発式	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
8:05	学校発	6:45	健康観察・洗面	6:45	健康観察・洗面	6:45	健康観察・洗面
11:45	小布施SAにて 休憩・昼食	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
13:10	カントリーエレベーター見学	8:30	稲刈り	9:00	わら細工作り (宿で昼食)	8:30	とんだいら ハイキング
14:15	開校式	12:00	(宿で昼食)	13:30	周辺散策		(現地で昼食)
13:45	各民宿へ	13:30	コンバイン見学	14:30	たき火体験		
15:00	サツマイモ掘り	14:30	脱穀(トピアホール)	15:30	すいとん作り(火起こし)	15:30	お別れ会練習
16:00	夕会	16:00	夕会	16:00	夕会	16:30	夕会
17:00	入浴	16:30	入浴	16:30	入浴	17:00	入浴
18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
19:30	星空観察	19:00	民話を聞く会	19:00	絵手紙をかく	20:30	お祭り体験
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:30	就寝
9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)			
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床		
6:45	健康観察・洗面	6:45	健康観察・洗面	6:45	健康観察・洗面		
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食		
9:15	涌井見学	8:00	ぶな林散策	9:00	閉校式		
11:30	伝統食作り	11:45	千曲川見学	9:15	飯山発		
14:00	周辺散策	12:15	もちつき(昼食)	12:00	昼食		
15:30	お別れ会準備	13:30	宿別体験活動	15:10	学校着		
16:00	夕会	15:30	民宿大掃除	15:20	帰校式		
17:00	入浴	16:00	入浴	15:30	解散		
18:00	夕食	17:30	夕食(バーベキュー)				
19:30	お別れ会準備・練習	19:00	お別れ会				
21:00	就寝	21:00	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

・「稲を育てよう」というテーマで、総合的な学習の時間に実際にバケツに種もみをまき、稲を栽培する体験活動を行った。定期的に観察記録をとり、日常の水の管理に気を配って世話を続けた。夏休みには自宅に持ち帰って継続観察を行った。児童は、本物の田んぼでの稲刈りを楽しみにするようになった。

### ② 事後の学習内容

・セカンドスクール終了後、現地での体験をもとに各自で選んだ学習課題に沿ってインターネットなどを利用して調べ学習を行った。似たテーマの児童が集まって各学級六つのグループを作り、パソコンの発表ソフトを活用してスライド資料を作成し研究発表会を開催した。発表会には、指導員や保護者を招いたが、児童が意欲的に調べた様子がよく分かると好評だった。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### ぶな林散策



【ぶな林散策でガイドさんの説明を熱心に聞く】

6日目、バスで鍋倉山の麓まで行き、ぶな林散策を実施した。茶屋池からぶな林の中に入れば枝葉が大きく広がり、青空が見えないほどであった。現地では、民宿ごとに五つのコースに分かれ、森林ガイドの方に散策コースを案内していただいた。

雑木林の根が張り巡らされ、大雨が降っても少しずつ水を蓄える機能を持ち「緑のダム」と言われるゆえん、ブナの葉の見分け方や実の特徴、森で生きる動物たちとブナ林とのつながりなど、ガイドさんの説明を、実際に森を歩きながら聞くことは、教室ではできないとても貴重な学習だった。

### <学習体験活動>

#### 農業体験

2日目、「丸ごと1日農業体験」ということで、午前中は稲刈りを、午後は脱穀を行った。実際に田んぼに行く前に、駐車場に集合し、民宿の方から手順について説明を受ける。手刈りの方法について手ほどきしていただく。特に鎌の扱い方については、危険のないように気を付けなくてはならないことをしっかり確認した。



田に移動してよいよ稲刈り開始である。民宿ごとに、ご主人から説明を受け、子どもたちは張り切って田に入っていく。鎌の扱いも、稲の束ね方も、時間の経過とともにみるみる上手になっていく。班の仲間と声をかけ合って、熱心に作業を進めていた。比較のためにコンバインで刈る分を残しどんどん刈り進んでいく。はぜかけ・落ち穂拾いが終わると、だだっ広い空き地が現れ、子どもたちは汗だくだったが、達成感や満足感に満ちあふれていた。

民宿の方に、バインダーとコンバインによる刈り取りの様子を見せていただく。手刈りとは比べものにならない作業スピードに、機械が動き始めると一斉に歓声が上がった。手刈り・バインダー・コンバインは、それぞれ1分間で稲を何束分刈り取れるのかを数えながら見学したことで、農作業の機械化が生み出した効率性を改めて実感できた。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきは力の入れ具合が難しく苦勞する子どももいたが、足踏み脱穀機ではリズムをつかみ、熱心に作業していた。こうした活動を通じて、お米が自分たちの食卓に届くまでには農家の方のさまざまな工夫と苦勞があることを再確認するとともに、昔の人々がその時代の技術に応じて知恵をはたかせて稲作を行ってきたことに感心していた。



【稲刈りが終わってはぜかけの作業中】

## <生活体験活動>

### 伝統食作り

飯山に古くから伝わる郷土料理の一つである「やしょうま」作りを行った。子どもたちは、調理の前にそれぞれ民宿の方から名前の由来をうかがった。作り方は、米粉を湯で練って固めてから蒸し、ごまや黒豆を混ぜ込んで形を整え軽く焼くというものだ。本来はよもぎなどを混ぜて色付けを行うが、これは宿によってまちまちのようだ。子どもたちは自分でどのように形を作るかを考えて作りおいしそうに食べていた。

また、同じくこの地方に伝わる郷土料理の一つが「笹寿司」である。熊笹の葉の上に酢飯を乗せ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを乗せて食べる。5日目の昼食として子どもたちはそれぞれオリジナルの笹寿司を作って食べた。好きなものを選んで乗せることができ、作るのも食べるのも大満足の子どもたちだった。



【きねとうすを使った餅つき体験】

さらに、きねと臼を使っての餅つきを実施し、一人一人がきねを持って餅をついた。きねを上手に扱うことは難しかったけれど、つきたての

お餅をしょうゆやきなこで味付けしながらいただくという、普段はなかなかできない有意義な体験であった。

## ＜地域の人々とのふれ合い＞

### 民宿の方々との交流

民宿のご主人たちを「お父さん」「お母さん」と呼ばせていただき、民宿のお客さんではなく子どもになったつもりで、かかわらせていただいた。活動が早く終わったり天候の関係でできなかったりしたときは、民宿の仕事をさせていただいた。自分たちの部屋以外の掃除のやり方を聞いて行ったり、食事の準備や後片付けもできるだけ子どもたちが主体となることができるように配慮していただいたりした。

また、近辺散策にも同行してもらい、近くの川で沢ガニや小魚を捕ったり、畑を案内してもらったりした。3日目のたき火体験・すいとん作りでは、民宿の方にポイントを教わり、無事に火をつけおいしいすいとんを味わうことができた。

飯山を去る日、子どもたちは涙を流して別れを惜しみ、バスが出発しても、民宿のお父さん・お母さんが見えなくなるまでずっと手を振り続けていた。

## ○児童の感想

- ・農作業体験で稲刈りや脱穀の体験をしました。最初、手作業でかまで稲を刈ったら、すごく汗をかきました。しかし、次にコンバインの作業の見学があり、やっているところを見るとすごく速かったのでびっくりしました。農業の技術の進歩はすごいなと思いました。
- ・とんだいらハイキングはとても疲れました。たくさん上り坂があったので、歩くのがきつくて汗だくで、途中でお茶がなくなってしまいました。やっとなんだいら高原に着いたときはへとへとでしたが、達成感がありました。涼しい風が吹いていて、自然の中で思いっきり友達と遊んで楽しかったです。
- ・ぶな林に行きました。ぶなの実を教えてもらい、夢中で探しました。また、ぶなの木の根が土の中深く張り巡らされ、山がくずれのを防ぐことや、木の下での地面のうち60%が空洞で水をたくわえて少しずつ出す「緑のダム」と呼ばれていることが分かりました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・稲刈り、脱穀（丸ごと1日農業体験）⇒社会科「農業とわたしたちの暮らし」
- ・カントリーエレベーター見学 ⇒社会科「農業とわたしたちの暮らし」
- ・ぶな林散策（環境について考える）⇒社会科「人と自然がともに生きる国土」
- ・千曲川見学 ⇒理科「川の流れのはたらき」

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・今年度は降雨はなかったが、実地踏査の際、雨天対策プログラムの内容を十分に考えておく。
- ・指導員は5軒の宿に男女2人ずついた方が良い。指導員の負担に大きな差が出てしまう。
- ・食物アレルギーについて宿の方にも十分に気を遣っていただいたが、今後も十分に配慮した方がよい。今後はメニューも含めて事前に十分な打ち合わせが必要になってくると思われる。

## 本宿小学校

## 新潟県南魚沼市

9月26日～10月3日(7泊8日)

参加人数 男子25名 女子14名  
計39名

## ○日程表

9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)		9月29日(日)	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
11:30	レレ八海到着	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	昼食	9:00	農業体験	9:00	森林トレッキング	9:00	塩沢宿ウォーク
14:30	畑作体験	12:00	昼食〔各民宿〕	12:00	昼食	12:30	昼食
15:00	上の原到着	13:00	大崎小との交流会	13:30	郷土食作り	13:30	課題別グループ体験
15:30	開校式	16:00	周辺散策		各民宿にて		調査活動(米,自然,川 郷土料理,雪国,歴史)
17:30	箸づくり	18:00	夕食	16:00	農村散策		
18:00	周辺散策	19:00	入浴	18:00	夕食	16:00	周辺散策
19:00	夕食・入浴	20:00	民宿の方や友達との 交流	19:00	入浴	18:00	夕食
20:00	民宿の方や友達との 交流	21:00	健康観察・就寝	20:00	民宿の方や友達と の交流	19:00	入浴
21:00	健康観察・就寝	21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝	20:00	民宿の方や友達との 交流
21:30	消灯			21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝
						21:30	消灯
9月30日(月)		10月1日(火)		10月2日(水)		10月3日(木)	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	大崎小と合流	9:00	農業施設体験	9:00	わらざうり作り	8:15	荷物整理
10:30	地引網体験		カントリーエレベーター、精米	12:30	昼食		大掃除
11:30	調理体験		所見学	13:30	雲洞庵	9:00	笹団子作り(各宿)
12:30	昼食	12:00	昼食		座禅体験	10:30	閉校式準備
14:00	漁港魚市場見学	13:00	JA しいたけパックス センター	16:00	お別れ会準備	11:30	昼食
14:30	せり見学			17:00	入浴	13:00	閉校式
18:00	宿着	16:00	見学	18:00	夕食	13:30	上の原出発
18:30	夕食	18:00	周辺散策	19:00	お別れ会の準備	16:30	学校到着
19:00	入浴		夕食	20:00	お別れ会		帰校式
20:00	民宿の方や友達との 交流	19:00	(バーベキュー)	21:00	健康観察・就寝		解散
20:00	交流・お別れ会準備	20:00	入浴	21:30	消灯		
21:00	健康観察・就寝	21:00	交流・お別れ会準備				
21:30	消灯	21:30	健康観察・就寝 消灯				



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験と関連させながら、南魚沼の位置や土地の様子などを学習する。
- ・課題別体験学習に向け、南魚沼の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ関心のあるテーマを決めてグループづくりを行う。
- ・課題別学習のグループごとに、事前に本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが現地で調べたい課題をつくる。
- ・大崎小学校と自己紹介カードの交換をする。また、交流会で行う発表の練習をする。
- ・生活指導員の方と顔合わせをし、グループごとにセカンドスクールのめあてを話し合う。

### ② 事後の学習内容

- ・課題別学習のグループごとに自分たちが見学したり、体験したりして調べてきた内容をまとめ、保護者も招いての発表会を行う。後日、4年生にも紹介する。
- ・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

## ○特色ある活動内容

### <課題別体験学習>

昨年度に引き続き、今年度も課題別体験学習を行った。総合的な学習の時間の中で、自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりすることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。子どもたちが興味をもったテーマを挙げて、6種類のテーマで6つのグループをつくった。それぞれのテーマに応じた講師を観光協会の方に探していただいた。

#### 1、米

「魚沼コシヒカリ発祥の記念碑」に行き、米作りをしている農家の方の話を聞いた。この地域で9割以上作付けするコシヒカリという品種ができるまでのことや、米作りをしていて大変なことは何かなど様々な質問に答えていただいた。カントリーエレベーターや精米所の見学とともに、社会科の学習で学んだことを更に深める学習ができた。

#### 2、郷土料理

当日は「きりざい」の作り方を教えてもらい、実際に調理体験もした。食料を上手に保存して、長期間食べられるような工夫が郷土料理にはあることなどを学ぶことができた。また、その他の郷土料理についても講師の方に質問をすることができた。

#### 3、自然

お松の池周辺を散策し、講師の方に事前に質問していた内容を実物を見ながら答えていただいた。食虫植物に実際に虫を食べさせてみたり、虫をつかまえたりすることで、豊かな自然を存分に楽しむことができた。

## 4、川

「雷電様の水」に行き、湧き水を飲んだり触ってみたりした。サンショウウオを発見し、この水の清らかさに感激していた。この水を守るためには人間はどうすればよいのか考えるきっかけとなった。また、市内を流れる魚野川の川原や水の流れを観察し、川の役割などについても説明を受けた。

## 5、雪国

南魚沼市をバスで回り、雪国の人々が行っている雪対策を実際に見ながら学ぶことができた。冬の上の原地区の様子や大雪に対しての備えなどについて知ることができた。また、つむぎ記念館での「雪さらし」の説明や、雁木や縦型信号機など町の中の雪国のくらしの工夫を見付けることなどからも、雪国の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

## 6、歴史

坂戸山に行き、坂戸城とはどのような城だったかなど、様々な史跡を実際に見ながら話を聞くことができた。「坂戸城はなぜ負けたことがなかったか」など、学校の先生をされていた講師の方に、子どもたちの質問に答えていただきながらわかりやすく説明していただいた。

### <自然体験活動>

#### 1、後山ぶな林 森林トレッキング

2グループに分かれてインストラクターの方と共に活動した。人が手を入れることにより、森林の健康を保つことができることなど、見学や体験を通じて学ぶことができた。また、目隠しをして森を歩き、五感で自然を感じることもできた。さらに、土を掘りおこし、腐葉土が層になっていることや、そこにどんな生き物がいるのかを調べた。森の役割などについても興味をもち、自然や環境について考える良い機会となった。

### <学習体験活動>

#### 1、農業体験(稲刈り、はざかけなど)

稲刈り体験では、民宿のお父さん・お母さん、地域の方に稲の刈り方と刈り取った稲の束ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、刈り取った稲を昔ながらの乾燥方法「はざかけ」をした。今では機械を使って短時間で行われていることなどについても話を聞く。米作りの作業の一端を体験することで米作りの大変さを理解し、農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食べられることを感じる事ができた。

### <生活体験活動>

#### 1、郷土料理作り(ちまき・笹団子)

各民宿で、地域の方や宿のお父さん・お母さんに教わりながら、ちまき作りと笹団子作りに取り組んだ。ちまき作りでの笹の葉を折り曲げ米を入れ、ずいきでしばる体験。笹団子作りでも同様に、最後はしばる体験。昔ながらの「しばる」作業に初めは悪戦苦闘していたが、しだ

いに慣れて、生き生きと活動に取り組み、できあがったちまきをおいしそうに食べていた。

## 2、わらぞうりづくり

各民宿で、地域の方や宿のお父さん・お母さんに教わりながら、自分の足の大きさに合うわらぞうりを作った。右と左を同じ大きさに作ることに大変さに気付き、最後まで根気強く作業をしていた。できあがったわらぞうりをはき、早速歩いて感触を確かめていた。



【わらぞうりづくり】

## ○児童の感想

- ・セカンドスクールでは一生経験できないであろう体験をたくさんすることができました。宿のお父さん、お母さんともたくさん交流できました。一生の思い出になると思います。
- ・一番楽しかったことは大崎小学校との交流です。ドッジボールをしたり、新しい友だちができてたりして楽しかったです。
- ・私がセカンドスクールで一番学んだことは、団体行動です。学校でも団体行動が多いので、今回学んだことを生かしていきたいです。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

事前に総合的学習の時間で課題別学習として、南魚沼の自然、農業、生活、川、歴史、郷土料理の6グループに分かれて学習を行った。また、帰校後は学習してきたことを4年生に、模造紙や紙芝居、劇等を行って紹介することで、4年生、5年生共に南魚沼についての理解を深めることができた。

また、その他にもカントリーエレベーターの見学や農業体験は、社会科で行った農業の学習を深めることにもつなげることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・昨年度から実施場所が新潟県南魚沼市上の原地区に変更になった。周辺散策や宿の方と過ごす時間をしっかりと確保することで、宿周辺の自然に親しみ、カエルをつかまえたり、カマキリをつかまえたりと普段味わうことができない体験をすることができた。
- ・概ねの流れはスムーズに流れたが、雨天の対応等、まだまだ検討すべき点が多くある。特に、講師等の関係で日程を変更しづらい課題別学習等の雨天時の対応を細かく確認しておく必要がある。

## 千川小学校

## 新潟県南魚沼市

9月26日～10月2日(6泊7日)

参加人数 男子24名 女子25名  
計49名

## ○日程表

9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)		9月29日(日)	
8:00	学校出発	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔
11:30	昼食	7:00	朝食	7:30	朝食	6:50	朝会
12:30	八海山ロープウェイ 乗車	8:30	各宿出発	9:00	各宿出発	7:30	朝食
14:00	開校式	9:00	坂戸山登山	9:30	稲刈り実習	9:00	わら細工作り
14:45	各宿到着	11:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
14:50	出会いのつどい	14:00	各宿到着	13:30	カントリーエレベ ーター見学	13:00	わら細工作り
15:15	マイはし作り	14:30	各宿での活動	14:50	各宿到着	15:00	わら細工作り片付け
17:30	夕食	17:30	夕食	15:00	ちまき作り	17:30	夕食
18:00	語らいの時間	18:45	天体観測	18:00	夕食	18:45	肝試し
19:30	入浴	20:10	入浴	20:00	入浴	20:00	入浴
20:30	健康観察	20:50	健康観察	20:40	健康観察	20:40	健康観察
21:00	就寝	21:10	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝
9月30日(月)		10月1日(火)		10月2日(水)			
6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔	6:10	起床、検温、洗顔		
7:30	朝食	6:50	朝会	7:30	朝食		
9:00	各宿出発	7:30	朝食	9:00	各宿出発		
9:30	後山ブナ林森林トレ ッキング	9:30	しいたけパックセン ター見学	9:30	笹団子作り		
12:00	昼食	11:30	八色の森公園	12:00	昼食		
13:30	雲洞庵座禅体験	12:00	昼食	12:40	各宿お別れ式		
16:00	各宿到着	13:00	各宿での活動	13:00	閉校式		
18:00	夕食	18:00	夕食	13:20	レイホー八海出発		
18:40	お別れ会準備	18:50	お別れ会	16:30	学校着、到着式		
20:00	入浴	20:00	入浴				
20:40	健康観察	20:40	健康観察				
21:00	就寝	21:00	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・1学期に社会科の学習において、米作りについて理解を深めた。米作りの盛んな地域の特徴や米作りの方法やその工夫など、安心でおいしいお米を作るための人々の工夫や努力について学んだ。
- ・総合的な学習の時間に、南魚沼のコシヒカリを学校の田に植えて成長を観察した。自分たちが稲刈り体験をする稲はどのように育つのかを知ることができた。また、お米をテーマに種類や料理、品種改良など児童が興味をもったことについて調べ学習を行い、知識を深めることができた。
- ・セカンドスクールで活動することや南魚沼の特徴など、自らが興味をもったことについて調べた。事前に体験することについて調べることで、実際の活動時に新たな発見をしたり、スムーズに活動できるようにしたりした。

### ② 事後の学習内容

- ・事前学習で調べたことや現地で体験したことを基にして、セカンドスクールの発表会を行った。自分が経験したことを実際の写真を使い分かりやすくまとめ、発表することができた。また、発表会の際、南魚沼市観光協会から児童が刈った稲の一部を精米して送っていただき、家庭科の調理実習の一環としておにぎりを作った。自分たちが関わったお米を実際に食べることを通して農家の人の苦労や思い、食べ物大切さを実感することができた。
- ・セカンドスクールでの思い出を作文にしたり、宿や観光協会の方々へのお礼のお手紙を書いたりした。お返事をいただくことで、より交流が深まり、多くの児童が南魚沼を第二の故郷として感じている。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、八海山ロープウェイ、展望台

ロープウェイを利用して八海山の展望台まで上がった。あいにくの天候で雲がかかっている場所もあったが、山に囲まれている南魚沼市の地形の特徴や中央を流れる川、流域の田の多さを実感することができた。また、標高が高く、麓との寒暖の差も体験することができた。

#### 2、坂戸山登山

現地の登山ガイドの方と一緒に坂戸山の登山を行った。宿ごと(児童12人程度)に1人ガイドが付くことで、山登りの仕方だけでなく、道の途中で見られる草花、昆虫などの説明なども聞くことができ、自然を体験しながらの登山ができた。全員が山頂まで登りきった充実感を味わうことができた。山頂まで登り、宿の方が作ってくれたお弁当を眼下の景色を見ながら食べたことは、事後の作文の中で一番の思い出として作文に書く児童が多かった。



【坂戸山頂上にて】

### 3、天体観測

隣接する天体観測所にて星空観察を行った。天体望遠鏡を使って土星をみたり、星座早見表をもとに肉眼で星を探したりした。武蔵野市では見られない満天の星空や天の川、流れ星に全員が感激していた。

### 4、後山ブナ林森林トレッキング

水源林としても機能しているブナ林の森林をガイドのもと散策した。フワッと足からの落ち葉の感触を味わったり、土の中にある小さな生き物を探したりすることで自然の果たす役割を観察することができた。

#### <学習体験活動>

##### 1、稲刈り実習

稲刈りをするのが初めてだったため、始めは鎌の使い方もままならなかったが、指導員に丁寧に教えていただいたことで素早く稲刈りできるようになった。はざかけまで行い、農家の人の稲刈りの苦労を実感することができた。



【稲刈り実習の様子】

##### 2、カントリーエレベーター見学

施設を見学することで、収穫されたお米はどうなるのかを学ぶことができた。機械化されてはいるが、いろいろな行程を経ておいしいお米ができていることを社会科の「日本の農業」での学習を振り返りながら見学していた。

##### 3、雲洞庵見学、座禅体験

日本文化に息づき、また南魚沼の伝統文化に触れる活動として、曹洞宗の寺院である名利雲洞庵の見学と座禅体験を行った。自然に囲まれ、静寂の中で黙想し精神を落ち着かせ集中するという貴重な体験ができた。

##### 4、しいたけパックセンター見学

南魚沼の特産物の一つである八色しいたけの生産工場とパックセンターの見学をして、しいたけができて出荷されるまでを詳しく学ぶことができた。

#### <生活体験活動>

##### 1、各宿での作物収穫活動

各宿の畑に行き、野菜などの収穫を行った。そこで収穫したサツマイモでスイートポテトを作ったり、栗をゆでて食べたりしながらとれたてのおいしさを感じることができた。

##### 2、わら細工作り

地元の方を講師に迎え各宿でわらぞうりを作った。難しく途中であきらめそうな児童もいたが、作り方を丁寧に教えてもらうことで、全員が作り上げることができた。自分のものを自分の力で作ることで、最後まで頑張った満足感を得られた。また、稲刈り後のわらを大切に最後まで使い切るこの意味も理解することができた。



【わら細工づくりの様子】

### 3、ちまき作り、笹団子作り

南魚沼市の伝統の食文化を実際に作る体験した。ちまきは次の日の自分の朝食になることもあり、笹でもち米をくるむことに悪戦苦闘しながら、一生懸命作っていた。また、きなこを付けて食べる甘いちまきに驚いている児童が多かった。最終日に行った笹団子作りは、宿の方との最後の交流となり、6泊7日の思い出を語らう意味でも、非常に有意義な時間となった。

### ○児童の感想

- ・2日目に登った坂戸山は思っていた以上に大変でした。でも、指導員の人の話を聞きながら頑張って登り、頂上から南魚沼の様子を見たときは、最後まで登ってよかったなと思いました。
- ・セカンドスクールで一番心に残ったことは、自然のすばらしさです。武蔵野市では見られない、植物や生き物をたくさん見つけることができました。
- ・天体観測で見た満天の星空が心に残りました。天の川や流れ星などを見ることができて、本当に感動しました。
- ・宿のお父さんとお母さんがとっても優しくてよかったです。お母さんの作る料理がとってもおいしく、中でも南魚沼の新米コシヒカリはご飯がピカピカ輝いていて美味しかったです。

### ○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・セカンドスクールでは、自立、協力などを目標に日々の活動に取り組んでいる。ファーストスクールにおいても目標としているところだが、なかなか大人の手を離れての生活経験ができない。そのためセカンドスクールの6泊7日は、今までの自分が学んできた自立や協力する力を実践する機会として位置付けている。
- ・また、人とのかかわりを大切にし、多くの体験から学ぶことの楽しさを味わえるようにしている。その中で自ら課題を見つけ、それを解決していく力を身に付けることは、ファーストスクールでの各教科への取り組みとつながっている。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

6泊7日の間、児童は多くの経験を積むことができた。何よりも武蔵野市では味わえない貴重な経験をすることができた。体験活動しかり、宿での宿泊生活しかりである。また、食、それを支える人や自然の貴重さを十分に感じ取ることができた。さらに、自立と自律の芽を育てることができた。

課題として、今年度は前半に登山、稲刈りなどを取り入れたが体力的にハードであった。そのため、後半にその疲れが出始めたこともあり、風邪気味になる子もいた。児童の体力を考えながら、バランスよく体験活動を組み込んでいきたい。今後、校内での打ち合わせを重ね、観光協会の方とも連携を取りながら、各宿での活動を増やし、宿での時間をとれるような日程を組んでみたいと考えている。

## 井之頭小学校

## 長野県飯山市

9月25日～10月2日(7泊8日)

参加人数 男子29名 女子31名  
計60名

## ○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)	
7:30	学校集合	8:30	宿ごと体験 (郷土食作り)	8:30	田んぼへ出発	8:30	わらざうり作り
7:40	出発式			9:00	米作りのお話 (地域の方の講話)		
8:00	バス乗車、出発	11:30	餅つき体験	10:00	稲刈り・はぜかけ		
		13:30	飯山についての学習 (地域の方の講話)	13:00	脱穀	13:30	宿ごと体験 わらざうり作り
12:00	戸狩到着、開校式	15:00	戸狩丸ごと体験	16:00	雪国のくらし学習	15:00	たき火体験
13:00	昼食		くりやどんぐり拾い 柿をとる	19:30	手紙書き	17:00	バーベキュー
13:30	部屋割り・荷物整理	19:00	植物や虫探し 暗闇体験				
14:00	自己紹介						
15:30	箸作り 北条散策						
9月29日(日)		9月30日(月)		10月1日(火)		10月2日(水)	
9:00	ブナ林のお話 茶屋池周遊 ハイキング	9:00	カントリー エレベーター見学	8:30	焼き板木工 クラフト体験	8:00	大掃除、荷物整理
11:45	グリーンパル到着	10:30	和紙すき体験	11:00	課題別学習発表会	9:30	閉校式
12:00	グリーンパルにて 昼食	12:30	菜の花公園で昼食	13:00	宿ごと勤労体験 ・農作業の手伝い ・落ち穂拾い	10:00	バス乗車、出発
14:00	棚田や自然スケッチ	14:00	課題別学習	15:00	感謝の会準備	15:00	学校着、到着式
				18:30	感謝の会	15:30	解散



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・社会科の授業で「気候を生かした地域の暮らし」の学習をした際、飯山市戸狩地区のことや雪国の暮らしにふれた。そして、現地で確かめたり学んだりしたいという意識付けをした。
- ・社会科の授業「日本の農業」と関連させ、稲作についての学習を行った。授業で田植えまでの過程を学び、学校の水田で田植えをした。植えた苗は、戸狩から送っていただいたもので、セカンドスクールの稲刈りへの動機づけとなった。
- ・1学期の総合的な学習の時間に、現地での課題別学習に向けて課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。課題は、戸狩の宿の方の専門分野も伺い設定し、①米、野菜作り②戸狩の生き物、植物③飯山の歴史④伝統文化（飯山仏壇、和紙）⑤郷土料理、特産品⑥飯山の気候や産業についての六つである。

### ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールでの体験や学んだこと、成長したことを作文にまとめた。
- ・課題別学習について、事前に調べていったことや現地で学んだことを模造紙やパンフレットリーフレットや紙芝居にまとめた。そして、同じ課題ごとにグループをつくり、来年度セカンドスクールに行く4年生に発表をした。
- ・戸狩で稲刈りをした体験をもとに、学校の田んぼで稲刈りをした。田植えから脱穀までの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さなどを実感することができた。
- ・お世話になった宿の方々に手紙を書いた。11月下旬に宿の方に来校していただき、「感謝の会」を開いた。感謝の会で気持ちを伝えられるよう、事前に計画を立て、準備をした。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、茶屋池周遊ハイキング

各宿のお父さん方とともに、茶屋池周辺に広がるブナ林のハイキングをした。ハイキングの前に、ブナの特徴や水源林についてのお話を聞いた。ハイキングの途中、ブナに触れたり、ブナの実を拾ったり、ブナの木音をきいたりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割について肌で触れながら学ぶことができた。大きなナメクジや森にいる生き物、生息しているきのこ、植物についても目で見たり触れたりしながら学習した。山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生き物や人間との関わりを実感することができた。

#### 2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行った。武蔵野の夜の暗さとは異なる暗闇を体験することで、その深さや怖さを知ったり、逆に星空や月の美しさに感動したりすることができた。特に、プラネタリウムでは見るできない、流れ星や人工衛星までも見ることができ、貴重な体験となった。

### 3、棚田や自然のスケッチ

棚田を見学し、自然の地形を生かした先人達の知恵をスケッチしたことで、自然との共生について考える貴重な機会となった。また、秋の里山の景色の美しさを感じとっていた。様々な色を見せる山々、黄金色の田、ゆったりと流れる千曲川など、飯山の景色の美しさに思いを馳せ、心豊かな感性を育む素晴らしい体験となった。

## <学習体験活動>

### 1、農業体験(稲刈り・はぜかけ・脱穀)

作業の前に農業の工夫や苦勞、働くことの意義などを話していただき、農業への関心や稲刈りへの意欲を高めることができた。宿のお父さん方の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、一生懸命に取り組む姿が見られた。

はぜかけでは、稲穂の束ね方から教えていただいた。少しずつの分量でまとめて干すことで、湿気ることがなく、カビがはえないという先人の知恵を学んだ。

脱穀では、千歯こき・足踏脱穀機・コンバインの3種類の農具を体験した。千歯こきでは、粃をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵と、手前に引くと一気に粃が落ちることに感心していた。足踏脱穀機は、農機具の発達や仕組みの工夫に驚いていた。最後にコンバインでの脱穀を見て、手作業の大変さを実感できた。

今後お米を大切に食べようという意識をもつ子も多かった。



【稲刈り】



【千歯こき脱穀】

### 2、課題別学習

課題別学習は、児童の興味関心と宿の方の得意分野をもとに以下の六つで行った。

- ・米、野菜作り…戸狩でとれる米や飯山で栽培される野菜、きのこについて学んだ。また、農機具を見せていただいたり、飯山の農業の現状についてのお話を聞いたりした。
- ・戸狩の生き物、植物…宿周辺の生き物を実際に捕まえたり触ったりして学習した。また、周辺を散策し、よく見られる花や植物について教えていただいた。
- ・歴史…飯山城跡に見学に行き、飯山城ができるまでについて学んだ。他に正受庵や忠恩寺、称念寺などの寺を巡り見学したり、がんぎの続く町並みを見たりした。
- ・伝統文化(飯山仏壇)…飯山仏壇を作っている工場を見学させていただいた。飯山仏壇の特徴などを説明し、工程を見た後、実際に金箔をはる体験をした。
- ・郷土料理、特産品…郷土料理のねぎせんべいを作り、ぼたんこしょうなど特産品を学んだ。
- ・飯山の気候や産業…冬場の民宿業や、スキー場のこと、雪が降った時の暮らしなどを学んだ。

### 3、地域についての学習(飯山について・雪国の暮らし)

それぞれの学習の講師を宿の方をお願いしたことで、実際に取り組まれている暮らしの工夫や生活の知恵を直接学習することができた。児童も、教科書で見るだけでなく実物を見たことで学習が具体的に深く進められていた。

## ＜生活体験活動＞

### 1、郷土料理作り

宿の方の指導で、「笹寿司」を作った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などの話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味を示していた。また、笹を自分達で取りに行くことから始めたことで、達成感も感じていた。



### 2、宿ごと体験

宿ごと体験では、いもほり、つるやどんぐり拾い、カボチャのランタン作り、くりや柿やくるみを探す活動を行った。どれも畑や宿周辺の場所で行い、武蔵野市ではなかなか体験できないことばかりで、自然の恵みや美味しさを感じていた。

【カボチャの収穫】



## ○児童の感想

【ピーマンの収穫】

- ・宿の生活が一番心に残っています。なぜならお父さんお母さんがすごくやさしかったからです。ご飯もとてもおいしかったです。セカンドのおかげで虫がさわられるようになりました。
- ・夜の星空観察が印象に残っています。東京では明るすぎて見えない星が、飯山の暗い空ではとてもきれいで、星座まで見つけられてよかったです。
- ・稲刈りが印象に残っています。鎌で稲を刈ろうとしてもなかなか思い通りにはいかず、難しかったです。これからはお米を残さず食べたいです。
- ・一番心に残ったのはわらぞうり作りです。なぜなら、昔の人々がどんな風にはきものを作っていたか分かったからです。最後にはいてみたら、はき心地が良かったです。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

1学期の社会科の授業「日本の農業」と関連させ、稲作についての学習を行った。また、「気候を生かした地域の暮らし」の学習をした際、飯山市戸狩地区のことや雪国の暮らしにふれた。総合的な学習の時間に、現地での課題別学習に向けて課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

課題別学習の内容が大変よかった。特に、歴史と伝統文化の内容が充実しておりとてもよかったので、全児童に体験させたいと感じた。来年度の検討事項としたい。宿ごと体験の郷土食作りで「笹ずし」を作るのはよかったが、「もちつき体験」をする必要があるか検討したい。「もちつき」は飯山ならではの体験ではないので、おやきなど他の特産品を作らせてもよい。棚田のスケッチは、田んぼのあぜばたや土手で行ったが、土手の土が滑ってしまう等の可能性があり、来年度は様々な種類の絵が描けるということで、「ふれあい広場」で行う。

## 関前南小学校

## 長野県飯山市

10月3日～10月9日(6泊7日)

参加人数 男子18名 女子20名  
計38名

## 〇日程表

10月3日(木)		10月4日(金)		10月5日(土)		10月6日(日)	
7:30	学校集合、出発式	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
8:00	出発	7:00	清掃	7:00	清掃	7:00	清掃
		7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	昼食(小布施PA)	9:00	稲刈り・落穂拾い・脱穀	9:00	森林伐採作業	9:00	宿ごとの体験①
13:20	戸狩到着、開校式			11:00	稲作地の景色を眺める		
13:40	各宿舎着	11:30	コンバインでの稲刈り見学		(のろし台)	12:00	昼食(宿)
14:00	避難訓練	12:00	昼食(田んぼ)	12:00	昼食(とん平 スカイトップ)	13:00	課題別学習
14:30	荷物整理	13:00	イナゴ取り	14:00	薪集め	13:30	・森の家
15:00	自己紹介	14:00	餅つき	15:30	郷土食作り	14:00	・ふるさと館、紙すき、高橋まゆみ人形館
15:30	民宿の方との話し合い	15:30	健康観察、入浴	16:00	(うどん、おやき、笹ずし)	17:00	健康観察、入浴
16:00	民宿の方との周辺散策	17:30	薪割り、ご飯炊き	17:30	夕食準備、夕食、片付け	17:30	夕食準備、夕食、片付け
16:30	箸作り	18:00	夕食準備、夕食、片付け	19:00	お別れ会準備	19:00	家族へのお手紙書き
17:30	健康観察、入浴	20:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ		学習のまとめ
18:00	夕食準備、夕食、片付け	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:00	星空観察
19:30	一週間のめあて確認	21:30	消灯	21:30	消灯	20:30	健康チェック
20:00	生活のルール確認					21:30	消灯
20:30	健康チェック						
21:30	消灯						
10月7日(月)		10月8日(火)		10月9日(水)			
6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック		
7:00	清掃	7:00	清掃	7:00	清掃		
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食		
		9:00	火起こし体験	8:00	荷物整理		
9:00	茶屋池周辺のブナ林・ハイキング	9:30	かまど作り	8:30	大掃除、奉仕活動		
9:30	光が原にて日本海眺望	10:00	野外炊飯	10:00	閉校式		
12:00	昼食(宿)	12:00	昼食(川原)	12:00	昼食(横川SA)		
13:00	課題別学習まとめ	13:00	宿ごとの活動②				
15:00	お別れ会準備	15:00	お別れ会準備	15:00	学校着、帰校式		
17:00	健康観察、入浴	17:00	健康観察、入浴	15:30	解散		
17:30	薪割りご飯炊き	17:30	夕食準備、夕食、片付け				
18:00	夕食準備、夕食、片付け	19:00	お別れ会				
19:00	お別れ会準備						
20:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ				
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック				
21:30	消灯	21:30	消灯				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

#### 【社会科】

- ・地図帳を活用し、飯山市の位置や東京からの距離などについて学習した。
- ・雪の多い地方の暮らしと関連付けて飯山市の暮らしについても学習した。

#### 【総合的な学習の時間】

- ・バケツを使って稲を育て、稲の生長についての知識を得た。セカンドスクールでの稲刈り、落穂拾い、脱穀体験につなげられた。
- ・書籍を活用し飯山市について調べた。飯山の暮らしや文化について知るだけでなく、自己の興味を基に現地での学習のめあてを立てた。

### ② 事後の学習内容

#### 【礼状を書く】

- ・体験活動で学んだことをまとめ、宿の方々やお世話になった飯山の方々へのお礼状書きを通して、学習を振り返るとともに、感謝の気持ちを表現した。

#### 【体験活動で学んだことを報告する発表会を開く】

- ・体験活動で学んだことを整理し、グループごとに説明する内容を考えた。わかりやすい資料を作成し、4年生と保護者に向けて発表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、茶屋池ハイキング・日本海眺望

ブナ林のある茶屋池ハイキングを、宿ごとのグループで実施した。宿の方に茶屋池に生息しているくろもじ・うるし・ななかまどなどの説明を聞いた。

茶屋池ハイキング後、バスで関田峠を越え、新潟県光が原に到着。日本海を眺めた。水平線や、能登半島、妙高の山々などの景色を見ることができた。



【茶屋池ハイキング】

#### 2、森林伐採作業・のろし台

のろし台までの山道の木を伐採し、光が入るようにしたり、道を歩きやすくしたりした。しかし、足場のあまりよくない場での伐採は難しい部分もあった。森の家のインストラクターや宿の方のアドバイスを受け、自然の木を切ることにより光が入り植物の成長を促すことを知った。のろし台の頂上では、飯山市や千曲川・新潟県の山々・黄金色の田んぼを一望することができた。宿の方から山々の名前や地名とのろし台の名前の由来を聞いた。

#### 3、森の家・ふるさと館(課題別学習)

学級の19名の児童が、課題別学習で森の家での活動を行った。葉の形から、ブナの木を見分ける方法やブナの木は雪解け水を蓄えることができることを学んだ。蓄えられた水を貯めている池を見て、低い水温を適温にしていることを知った。



## 4、イナゴ取り

飯山市では、郷土食の一つとしてイナゴのつくだ煮をつくっているということから、稲刈りの後、田にいるイナゴを採った。足で草むらを軽くはらうと、驚いて出てきたいなごを瞬間的につかむコツを習得し、たくさんのイナゴを採ることができた。また、宿では事前に採って料理したイナゴの佃煮を児童に食べさせてくれ、思ったよりも美味しいことを知った。

## 5、星空観察

歩いて5分のスキー場の斜面にブルーシートを敷いて、星空の観察をした。山に囲まれたほとんど光のないところで寝ころびながら空を見上げると、満点に星が広がっており、児童から歓声が上がった。東京では見ることのできない星空を目の当たりにし、理科で学習したことを自分の目で確かめていた。

### <学習体験活動>

#### 1、稲刈り・落穂拾い・脱穀

稲刈り体験では、各宿の方が、鎌の使い方を丁寧に指導してくださり、上手に安全に刈ることができた。

脱穀体験では、千刈こきと足踏み脱穀機を用意していただき、両方体験をした。最後にコンバインでの作業を見せていただいた。稲を巻き込みながら、粃を貯めている様子がよくわかった。



【稲刈り】

#### 2、紙すき体験・ふるさと館・高橋まゆみ人形館見学(課題別学習)

19名の児童が、課題別学習で文化的な活動を選択した。

##### 【紙すき体験】

飯山市の伝統工芸である「内山紙」の紙すきを体験した。自分で色のついた和紙を入れたり、紅葉の葉を入れたりして模様をつけるなど、工夫して完成させることができた。

##### 【ふるさと館】

ふるさと館では、飯山市の地形や雪国ならではの昔の道具について見学し、生活の工夫や苦労について理解することができた。

##### 【高橋まゆみ人形館】

作品の一つ一つにテーマがあり、飯山市の生活の様子を人形から捉えることができた。作品の細かな表情に感動し、興味を深めた児童が多かった。

### <生活体験活動>

#### 1、宿ごとの体験

宿ごとに野外体験型のものと、室内体験型と2種類の活動を用意してもらい、工夫を凝らした体験をさせていただいたり、実際に収穫した作物を食べたりした。

【野外体験型】 畑での作物の収穫や苗植え、雑草とり（さつまいもほり、高原豆の収穫、イチゴの苗植え、落花生の収穫）

【室内体験型】 地元のおやつ作り（やしょうまづくり、ニラせんべいづくり、イチゴジャムづくり、笹団子づくり、よもぎパンづくり）

## 2、郷土食づくり

飯山市の郷土食である、「笹ずし」「おやき」「うどん」をつくった。児童は3グループに分かれ、それぞれの郷土食をつくった。その後それぞれがつくった郷土食を宿に持ちより、夕食に3種類の郷土食をすべての児童が食べることができた。つくり方を学ぶだけではなく、なぜそれらが郷土食になったのかなどについても理解を深めることができた。

## 3、薪割り・ご飯炊き

2回の夕食のご飯は、かまどで炊いた。大きめの薪を燃えやすいように鉋で細くするところから始め、火の管理のしかたやお米を炊くためのポイントを教えてもらった。炊きあがったお釜の蓋をあけたときには、児童から「おいしそう。」という歓声があがり、自分達で調理するよさを感じ取ることができた。



【ご飯炊き】

## 4、箸づくり

活動初日に、7日間使用する箸を、竹を材料にし小刀で削って作成した。事前に図工の授業で小刀の使い方の学習をしたため、すべての児童が安全に箸をつくることができた。自分がつくった箸で食べることに喜びを感じながら食事をすることができ、帰ってきてからも家庭で使っている児童もいた。

## ○児童の感想

- ・郷土食のうどん作りでは、こねるのが上手にできた。うどんの生地を伸ばす時、生地がどんどん伸びて驚いた。生地を切るのも楽しかった。
- ・高橋まゆみ人形館では、東京では見ることができない人形をたくさん見ることができた。穏やかそうな目や人の心が入ったような人形の動き・ユニークな顔が印象的だった。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・バケツ稲を育てることで、米作りの過程を体験した。芽出しから行い時期ごとに細かく観察しながら、その生長について理解を深めることができた。わずかな米をつくるのも難しいことであることを捉え、セカンドスクールでの稲刈りに真剣に取り組むことができた。

## ○今年度の成果と次年度にむけての課題

- ・宿ごとの体験では、食に関する体験が多かったので、児童は絶えず食していた。2回目の宿ごとの体験は、食に関するだけではなく、わら細工や紙すきなどの伝統工芸を開発していく必要がある。
- ・4日目の課題別活動の「森の家の活動」と、5日目の「茶屋池ハイキング」の内容が重複してしまう内容が多かった。次年度は、課題別活動の内容を再考し、新たな活動を考えていく必要がある。

## 桜野小学校

## 長野県飯山市

9月22日～9月28日(6泊7日)

参加人数 男子 52名 女子 69名  
計121名

## ○日程表

9月22日(日)		9月23日(月)		9月24日(火)		9月25日(水)	
7:30	学校集合 出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
		6:30	朝食	6:30	朝食	6:30	朝食
8:00	バス乗車・出発	9:00	米作りの学習	9:00	宿ごと体験		
12:00	昼食	10:00	稲刈り		(笹寿司作り)	9:15	ブナの森ハイキング
14:00	戸狩到着、開校式 部屋割り 里山散策 箸作り	12:30	昼食	12:00	昼食	12:30	昼食
		13:30	脱穀	14:00	宿ごと自然体験	14:00	宿ごと食体験
18:00	夕食	18:00	夕食	15:00	雪国のくらし学習		
		19:00	暗闇体験	16:00	手紙書き	18:00	夕食
21:30	消灯	21:30	消灯	18:00	夕食	21:30	消灯
				21:30	消灯		
9月26日(木)		9月27日(金)		9月28日(土)			
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床		
6:30	朝食	6:30	朝食	6:30	朝食		
9:00	カントリーエレベーター見学	9:00	焼き板工作	8:00	大掃除、荷物整理		
10:15	和紙すき体験			9:20	閉校式		
12:30	昼食	12:30	昼食	10:00	戸狩出発		
14:00	宿ごと食体験 (わら細工)	14:00	宿ごと勤労体験		飯山シャンツェ見学		
				12:00	昼食		
18:00	夕食	18:00	夕食	15:35	学校着、帰校式		
			感謝の会				
21:30	消灯	21:30	消灯		解散		



## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・ 1学期の社会科の授業で行った「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市の事や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また、循環型農業やカントリーエレベーターの役割について学習し、日本の食料生産の抱える問題点やこれからの農業について理解を深めた。
- ・ 1学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。田起こしをし、代かきをした学校の水田で田植えを行った。セカンドスクールでは稲刈りをするので、稲穂が実るまでの様子を学校で継続して観察した。手作業で体験をすることで米づくりの苦労を実感することができた。また、地域の米店の方に講師を依頼することで地域との交流を深めることにもつながった。
- ・ 2学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「農業」「気候・地形」「米」「伝統工芸」などのテーマについて調べ学習を行い、個人の課題を決定した。

### ② 事後の学習内容

- ・ 個別の課題についてセカンドスクール中にまとめたしおりや資料を活用して、まとめに取り組んだ。さらに、インターネットや図書資料を活用して課題について探求する。新聞や図鑑などの自分で決めた方法で調べた学習内容をまとめ作品づくりをする。その際、セカンドスクール中に自分がデジカメで撮影した写真を添付する。友達と作品を読み合ったり、ポスターセッション型の発表会をしたり、教室内に掲示したりクラスごとに発表方法を工夫した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、茶屋池周遊ハイキング

ハイキングの中では、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて直接的に学ぶことができた。なぜ飯山のお米がおいしいのかということに対して、ブナの森が蓄えた豊富な水の果たす役割を知ることができた。森にいる生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学習することができた。宿の方がガイドとなって説明をしてくださり、疑問がその場で解決されていった。整えられた道ではなく、自然のままの山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

#### 2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行った。武蔵野の夜の暗さとは異なる圧倒されるような暗闇を体験することで、その暗さや怖さを知ったり、逆に星空や月の美しさに深く感動したりすることができた。大自然を肌で体感し、畏敬の念を育む貴重な体験となった。

## <学習体験活動>

### 1、農業体験(稲刈り・脱穀)

作業の前に日本の稲作や農家の苦労などを話していただき、米の大切さや稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。民宿の方々の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・コンバイン・ハーベスターの4種類の農具を体験した。千歯扱では、粃をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気に粃が落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機はさらに多くの量を手早く脱穀でき、農機具の発達や仕組みの工夫に驚く児童もいた。最後にコンバインでの脱穀の様子を目の当たりにし、手作業の大変さを実感できた学習であった。一方では、手作業だからこそ汗をかく素晴らしさや気持ちよさを感じる児童も大勢いた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図っている。主なものは、カントリーエレベーターの見学とわら細工である。カントリーエレベーターの見学を実施することで、稲刈りはぜかけ・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わら細工では、粃を落とされた穂を再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することができた。主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。



【千歯扱で脱穀する様子】

## <生活体験活動>

### 1、笹ずし作り体験

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を調理し作るところから始めたことで、達成感もあったのかおいしそうに食べている様子がみられた。

### 2、宿ごと食体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、そばうち体験、餅つき、おやき作り等が行われた。りんごジャム作りではりんごを細かく切り鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。そばうち体験ではそば粉をこねるところから始め、最終的には自分で打ったそばを食べた。餅つきでは米をふかしたあと宿のメンバーで餅をついてあんこやきな粉をまぶして食べた。おやき作りは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として様々な味のおやきを作った。どの宿も武蔵野では体験できない活動ばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。



【笹ずし作りの様子】

## ○児童の感想

- ・私がセカンドスクールで学んだことは、自分で考えて工夫することです。普段は考えたりしなかったことを考えて問題を解決することができたと思います。これからの生活に生かしていきたいと思います。
- ・ぼくは、イナゴやカエルなどいろいろな生物と出会うことができました。山ブドウやアケビなどの植物も見つけることができました。そして宿の人にもお世話になりました。たくさんの方の協力でセカンドスクールが成功したのだと思います。感謝したいと思います。
- ・稲刈りは、鎌で稲を刈るときに結構力が必要で、3かぶが精いっぱいでした。でも、だんだん慣れてくると楽しくなりました。脱穀のときには、足ふみ脱穀機を使いました。足でふむと力がいり、しかも速くなるのでついていけなくなりました。稲刈りや脱穀は現在では、機械でやっているけれど、昔は手作業でやっていたからとても大変だったと思いました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

帰校後の学校園において稲刈りの作業を行った。稲穂一つ一つを大切に扱う児童の姿が印象的だった。また、米づくりの苦労を、稲刈り・脱穀・お父さんの話から身をもって学習したことで、学校園の田んぼを毎日管理してくださった主事さんに、感謝の気持ちを抱くようになったのは大きな変容である。飯山では、自分で収穫した野菜や木の実、果物を調理して食べる機会があり、生産者の姿を意識して普段の給食を食べるようになってきている様子から、食育に関する意識の高まりを感じる。社会科で既習した「食料生産を支える人々」「農業」の学習を思い起こし、学習内容を実感として深めていたようである。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・長距離のバス移動であったが、体調を崩す児童もほとんど見られずに現地まで到着できた。
- ・1週間という長い期間の実施であったが、ホームシックが心配された児童もプレセカンドでの経験を活かして、楽しんで活動に取り組むことができた。
- ・多くは初めての体験活動だったが、順応が早く、主体的に取り組む姿が見られた。
- ・学級数が増えたため、2学級ずつ交代で活動を行った。適当な人数で活動をスムーズに行うことができた。
- ・宿数が増えたが各宿とも活動内容等の共通理解を図り取り組むことができた。
- ・脱穀では、千歯扱、足ふみ千歯扱はどうしても時間がかかるので工夫が必要である。
- ・事前調査にはない医薬品を持ち込む児童が数名見られた。来年度は、指導を徹底していく。



# 中学校セカンドスクール



## 第一中学校

## 長野県北安曇郡白馬村

9月24日～9月28日(4泊5日)

参加人数 男子63名 女子49名  
計112名

## ○日程表

9月24日(火)		9月25日(水)		9月26日(木)	
6:45	集合点呼	6:15	起床	6:00	起床
7:15	出発	7:00	朝食	9:00	レクリエーション
12:05	大町わっぱらんど着	8:20	退館式	13:00	各民宿ごとに体験活動
16:40	白馬ハイランドホテル着	9:30	おらが里着 林業体験 下草刈り、枝打ち、チェーンソーによる切木		畑作業、スケッチ
	入館式	12:00	バーベキュー	17:00	入浴
18:45	夕食	13:30	薪割り、クラフト作り体験	19:00	夕食、民宿の方との交流
20:15	レクリエーション	15:00	白馬ジャンプ場 見学	21:30	就寝準備
21:30	班長会議	16:00	白馬村着 開村式 オリエンテーション	22:00	就寝
22:20	就寝	19:00	夕食、民宿の方との交流		
		22:00	就寝		
9月27日(金)		9月28日(土)			
6:00	起床	6:00	集合点呼		
8:30	宿舍出発 トレッキング ゴンドラ乗車口着 第一ケルン着 八方池着	7:45	出発		
12:00	兔平レストハウス着	8:15	白馬エスカルプラザ 閉村式		
13:30	農業体験(稲刈り) バインダー、コンバイン、 手刈り	10:30	あづみの公園着 自然観察ツアー		
16:30	各民宿へ	12:50	大町市出発		
18:00	夕食、民宿の方との交流	17:45	学校着		
22:00	就寝	18:15	解散		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・事前学習としては、白馬村の方々を一中に招き、白馬の自然や農作業のお話を実際に聞くところから始まった。
- ・そこで興味を持ったテーマについて、夏休みの宿題として生徒個人で調べた。
- ・調べてきた内容をもとに壁新聞にまとめ、掲示発表を行い、長野県や白馬村、稲作や林業についての知識を深める活動を行った。

### ② 事後の学習内容

- ・お世話になった方々へ班ごとにお礼の色紙を書き、交流会で感謝を込めて渡した。
- ・4泊5日過ごした中で経験したこと、学習したことを作文にまとめた。
- ・事後学習のまとめは、宿新聞という形で、学年全体で活動したことだけではなく、宿ごとに体験したことや、民宿の方々から聞いた話などを模造紙に集約し、交流会でクラスごとに発表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、自然観察ツアー

国営アルプスあづみの公園で、自然観察ツアーを行った。各クラス4班に分かれ、それぞれ指導員の方と共に、自然散策を行った。生徒が住む武蔵野市では見られない木や草花が見られ、興味深く質問する姿も見られた。また、植物に触れてみたり、指導員の説明のもと安全な植物を口に入れてみたりと、見るだけではなくすべての感覚を働かせて自然と接し、体験することができた。

#### 2、八方尾根トレッキング

八方尾根トレッキングでは、天候の関係で予定を変更した結果、翌日晴天の中で行うことができた。足場は舗装されているものの傾斜もあり、若干のつらさを感じる生徒もいた。しかし、抜けるような青空のもと素晴らしい八方池を見ることができ、生徒の記憶に残る絶景が見られた。また、八方池から見渡す山々からは、雄大な自然を感じられた。

### <学習体験活動>

#### 1、農業体験

農業体験では、稲刈り体験をコンバイン、バインダー、手刈りの3種類で体験を行った。全ての体験活動に民宿の方々が付き添い、指導員として説明をしてくれた。生徒にとって、普段は馴染みのない農業機械を使うということで、みな真剣に機材を操縦していた。

#### 2、林業体験

中谷郷おらが里で林業体験を中心に活動した。



【生徒が指導員の方と切木体験  
(林業体験)】

林業に従事している方から、環境保全の観点からお話を伺い、その後、本格的な林業体験を行った。午前中は、下草刈りや枝打ち、チェーンソーによる切木などを指導員の方々の指導のもと行った。木や草花などの森の香りを感じながら、自然の大切さを学ぶことができた。午後は、薪割りやクラフト作り体験などを行った。特に薪割りでは、普段では使うことのない斧を片手に、一生懸命薪を割っている姿が見られた。

## ＜生活体験活動＞

### 1、郷土料理体験

各班ごとに郷土料理作りを体験した。郷土料理はそれぞれの民宿で内容が異なり、そば打ち、そばガレット、おやき作りなどを行った。それぞれ地域の素材を生かした料理を作ることで、その地域特有の食材を理解することができた。また、実際に班ごとに協力しながら作ることで、班のまとまりや協調性が育まれた。

## ○生徒の感想

自然体験を通して、学校ではできない体験から多くのことを学ぶことができました。農業体験、林業体験をはじめ、八方尾根へのトレッキング、アルプスあづみの公園での自然観察などから、普段の生活ではなかなか見たり触れたりすることのできない自然を感じ、自然の雄大さや環境保全大切さを学ぶことができました。また、環境について深く考える良い機会となりました。民宿の方から、白馬村の自然に関するお話を聞いたりする中で、自然に対する意識が高まり、森林や川、水といった自然を大切にすることの重要性に気づくことができました。

(事後学習の生徒の作文からの抜粋)

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

学校生活においては、学年・クラスの親睦が深まり、入学して半年経過する中で、あまり話したことがなかったクラスメイトとも多くの時間を共にし、仲が深まったり、友達の新たな良い面を発見したりすることができた。生徒の作文には、友達との思い出を取り上げたものが数多くあり、5日間を通じて互いに協力することや、相手を尊重し思いやることを学び、親睦を深めることができた。また、集合・点呼など、集団行動の向上がなされた。以前から集会時などの集団行動では自主的な行動がある程度できていたが、5日間で何度も集合や点呼を繰り返すうちに、より集合時間が早まり、話を聞く態度も身についてきており、今後、学校生活に生かしていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

5日間、「自分のことは自分でする」ことを実践し、民宿の方にお世話になりながらも、親元を離れて、身支度を整えたり、時間を守って自主的に行動したりすることで、自律・自立の姿勢が育まれた。しかし、全員が自主的に責任ある行動がとれたというわけではないという面で改善の余地がある。民宿で過ごす時間の大半は、教員の目が行き届かない状況がある。今年度はいくつかの民宿に指導員を常駐させたが、さらに指導を行き届かせる工夫が必要であったと考える。今後は、生徒への事前指導をしっかりと行うとともに、指導員や民宿の方に生徒の特性などをしっかりと伝え、健康面や生活面等での連携を一層強めていく。



## 第二中学校

## 新潟県十日町市松之山

5月28日～6月1日(4泊5日)

参加人数 男子68名 女子38名  
計106名

## ○日程表

5月28日(火)		5月29日(水)		5月30日(木)	
7:00	学校集合	6:30	起床	6:30	起床
7:30	学校出発 関越自動車道 (塩沢石打IC経由)		民泊農家での手伝い		農家とのお別れ会
12:30	現地(十日町市浦田)着	9:00	農家体験Ⅰ 農家ごと農業、林業体験	9:30	伝統料理体験 そば打ちコース あんぼ・ちまきコース のっぺ汁コース
13:30	開校式		農家体験Ⅱ 午前に引き続き活動	14:00	環境学習 森の学校キョロロ見学 キョロロの森動植物監察
14:00	田植え体験 手植え体験	16:00	活動終了	17:00	17:00 宿舎(千歳)着 係活動、班学習
16:30	民泊農家対面式		民泊体験2日目 民泊農家での手伝い	22:30	就寝
17:00	民泊体験1日目 民泊農家での手伝い	22:30	就寝		
22:30	就寝				
5月31日(金)		6月1日(土)			
6:30	起床 係活動	6:30	起床 係活動		
9:00	オリエンテーション	8:45	宿舎(千歳)発		
9:30	自然観察ハイキング出発 大巖寺高原自然観察コース 指導員による動植物観察	9:00	自然林見学 美人林観察		
12:00	ハイキング終了	10:00	閉校式・松之山発 関越自動車道 (所沢IC経由)		
13:30	自然観察スケッチ 大巖寺高原のスケッチ	15:40	学校到着		
16:00	宿舎(千歳)着 係活動、班学習	16:00	解散		
22:30	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・中学生としての班活動の推進。(特別活動)
- ・現地の気候、風土、動植物の事前学習。(総合的な学習の時間)

- ・望ましい家族のありかたを考え（道徳）、民泊農家へあいさつ状を出す（国語科との連携）。

## ② 事後の学習内容

- ・活動を通して興味・関心を持ったことを詳しく調べ、現地での学びと合わせて「セカンドスクール新聞」を作成。課題を追求する力、結果をまとめる力を伸ばす。（総合的な学習の時間）
- ・「セカンドスクール新聞」を班ごとにポスターセッション形式で学年内発表。発表する力を高める。（総合的な学習の時間）
- ・民泊農家へのお礼状を作成。（国語科との連携）
- ・スケッチブックを利用したしおりを完成させ、旅行記を作成。（美術科との連携）

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

第二中学校では5日間を通して自然体験活動がメインになるようにプログラムを組んでいる。



### 1、キョロロの森の観察(森の学校キョロロ)

学級単位で①キョロロ館内を見学し、展示物を見学することにより松之山の自然を俯瞰的に学習した。その後、②池に移動して水中生物を自分たちで捕獲し、現地指導員より説明を受けることによりいなかにいる身近な生物について詳しく学習した。さらに、③森へ移動してそこに住む動植物を実際に見ながら説明を受けた。森ではモリアオガエルが産卵した本物の卵を見ることもできた。

### 2、自然観察ハイキング(大巖寺高原)

前日の森の観察で松之山の自然を学習したことをベースに、自然のブナ林が残る高原をハイキングしながら、さらに自然に親しみ、観察を行った。高原は雪が消え、新緑が芽吹き、昆虫や鳥が活動を開始する時期と重なり、ギフチョウの卵を見ることができた。また、前日話して聞いたヤマウルシを実際に見つけ、その対処方法を思い出しながらハイキングを行った。

### 3、自然観察スケッチ(大巖寺高原)

ハイキングの午後を利用して、生徒は思い思いの高原の場所で自分のお気に入りの風景をスケッチした。本年度はこのスケッチをセカンドスクールのしおりの中の取り込み、最終的にしおり全体が旅行記になるように考えている。

### 4、人工林観察(美人林)

前日までの自然林との比較をするため、松之山の名所でもある美人林を見学。人工林である美人林と前日までの自然林を比べることによって、自然環境を守るといったことはどういうことかを考えた。

### <学習体験活動>

学習体験活動も自然体験を補完するプログラムになるよう、現地受け入れをお願いした。

### 1、農業体験活動(野菜の収穫、田植えなど)

田植えはセカンドスクール初日に、学年全員でインストラクターの指導のもとに実施。そのほかの農業体験は2日目に民泊農家ごと、その農家でできる農作業を午前、午後と1日かけて実施。土づくり、野菜の苗の植え付け、収穫やその後の出荷など、さまざまな体験活動を行った。

## ＜生活体験活動＞

### 1、伝統料理体験

学年全体をそば打ち、あんぼ作り、ちまき作り、のっぺ汁作りに分け、現地のお母さん方を講師に迎えて体験を行った。前日までの民泊体験で現地のお母さんたちと親しく接してきた生徒たちは、指示に従ってテキパキと料理づくりに励んだ。



【きのこの駒打ち】

### 2、民泊農家の手伝い

事前に民泊する農家では家族の一員として、2日目の農業体験以外にも食事の手伝いをはじめとする農家の手伝いも積極的に行うよう道徳の時間に考えさせたり、指導をして送り出した。生徒によっては大変よくお手伝いをして褒められたり、親しくなって別れがづらくなった生徒もいた。一方、何もしないで寝ころんでいた生徒を農家の方が叱った後で、「よかったのでしょうか。」と恐縮されたケースもあった。

## ○生徒の感想

- ・農家泊の時におどろいたことは、朝からお母さんは新鮮な野菜をとりに行き、朝ご飯の時に出してくれることです。朝からとりに行くということに驚きました。そして新鮮な野菜はとてもおいしかったです。
- ・農家泊の時は一番古い農家でいろんな体験ができました。ヤギやニワトリといった家畜もいました。風呂も一度だけでしたが、自分たちでまきを割り、まきを運び、風呂をわかしました。いろりに火をつけるのがだんだんとうまくなりました。優しい人たちに見守られ楽しい5日間だったと思いました。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

生徒が5日間の感想の中で次のように述べている。これは机の上では学べない、体験を通して初めて学べるすばらしいことだと考える。

「5日間で学校生活に生かせることはたくさん学んできたが、特に大切だと思ったのは「自分の仕事に責任を持つ」だと考えた。自分の仕事をやらないと他の人も、自分も困ってしまう。「仕事」や「役割」はとても大切なことだと思う。また「自分の仕事に責任を持つ」ことは「人の話を聞く」「5分前行動」など様々なこととつながっていると思う。これからも学校生活の中での「仕事」に責任を持っていきたい。」

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・第二中学校は松之山で15年間セカンドスクールを行っており、その活動プログラムもこの6年間でほぼ固まり、生徒の体験も問題なく効果を上げている。
- ・数年前から言われていることだが、現地の方の高齢化による民泊農家の受け入れ数の減少が一番の課題である。

## 第三中学校

## 長野県大町市

5月16日～5月20日(4泊5日)

参加人数 男子58名 女子53名  
計111名

## ○日程表

5月16日(木)		5月17日(金)		5月18日(土)	
7:35	学校集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
7:45	出発	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	国営アルプスあづみの公園着	8:00	田植え準備	8:30	小熊山トレッキング
13:00	昼食・体験学習開始	8:30	農業体験	12:00	パラグライダー基地着・昼食
15:30	国営アルプスあづみの公園発	12:00	昼食	15:00	鹿島槍スキー場発
16:15	木崎湖着	12:45	ジャム作り体験	15:20	宿舎着・風呂
16:30	開校式	13:30	蕎麦打ち体験	17:30	夕食
16:55	宿舎着	16:00	宿舎着	18:00	スタンプ練習
17:30	夕食	18:00	夕食	19:30	手紙書き
18:20	稲作講義	20:30	班長会議	20:30	班長会議
20:30	班長会議・班会議	21:00	班会議	21:00	班会議
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
5月19日(日)		5月20日(月)			
6:30	起床	6:30	起床		
7:30	朝食	7:30	朝食		
8:30	バスにて鹿島川へ出発	8:50	宿舎発		
9:00	飯盒炊爨	9:15	閉校式(現地)		
12:00	鹿島川発	9:30	出発		
12:45	アルプスあづみの公園着	10:30	安曇野ちひろ美術館着		
13:00	体験学習開始	12:00	昼食		
15:30	アルプスあづみの公園発	12:45	安曇野ちひろ美術館発		
17:20	夕食	17:00	学校到着		
18:30	キャンプファイヤー	17:15	閉校式		
20:30	班会議		解散		
22:00	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・資料を用いて、飯盒炊爨・山菜とトレッキング・稲作・蕎麦・長野の地理・歴史等について学習した。また、セカンドスクール実行委員や学習係を各クラスより選出し、主体的に学習に取り組むと同時に、班長・学習係が中心となって自律的な班活動が育成されるように指導上工夫した。

### ② 事後の学習内容

- ・しおり・各自が現地で集めたパンフレット・インタビュー・写真などをもとに、班でテーマを決めて、班新聞の形で模造紙にまとめ、発表した。セカンドスクール終了後、初めての期末テストが約1ヶ月後に実施されるため、時間的余裕はあまりなかった。概ねどの班も内容の濃い班新聞を作り上げることができ、くぬぎ祭（三中の文化祭）で全作品を展示した。
- ・事後の理科授業では、現地の山菜であるワラビやゼンマイから「シダ植物のつくり」について、また田植えの稲と関連させて「単子葉植物」の学習につなげた。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1、鹿島川での飯盒炊爨

5月19日（日）晴天の中、清らかな川の水音を聴きながら、なごやかに班毎にご飯炊きとカレー作りに取り組んだ。食後の自由時間には、河原の様々な生物や岩石を観察し、自然に親しむ生徒の姿が見られた。

#### 2、キャンプファイヤー

当日午後から雨天となったため、体育館で実施した。レクリエーション係が運営にあたり、臨機応変に工夫しながら、「スタンプ（学級出し物）」を成功させた。事前から体育授業の中で取り組んでいたフォークダンスで盛り上がった。

また、校歌コンクールも実施。まだ覚えてではあったが、どのクラスも3部合唱に頑張っていた。この取り組みが、後の「合唱コンクール」や各学校行事での「校歌合唱」に生かされていくものとする。

### <学習体験活動>

#### 1、国営アルプスあづみの公園での体験学習

第1日目、国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）にて2コースに分かれ「木製パズル作り」「安曇野についての映画鑑賞・理科・社会科教室」の体験学習をし、第4日目、国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）にて2コースに分かれ「とろとろ石器作り」「竹巻きパン作り」の体験学習を実施した。

#### 2、農作業体験

宿舎近辺の田畑で、田植えと蕎麦種まきを体験した。最初は素足で入る田の感触に奇声を上げ、苗の扱いもぎこちなかったが、やがて隣同士で声を掛け合って田植えできるようになっていった。蕎麦の種（実）を初めて手にする生徒も多く、楽しそうに作業することができた。

### 3、安曇野ちひろ美術館での体験学習

最終日、安曇野ちひろ美術館にて、「読み聞かせ」の体験学習を行った。落ち着いた雰囲気  
で絵本の読み聞かせを聞き、親しみを覚えた生徒が多かったようである。

### 4、小熊山トレッキング

晴天に恵まれ、土曜日ということもあり、昼食場所であるパラグライダー基地からは何機も  
のパラグライダーが大空へ飛び出し、生徒も興味深そうに見ていた。また、山菜採りの講師の  
方から、助言をいただき、多くの山菜を収穫することができた。

### 5、星座観測

第2日目、宿の周辺にて星座観測を行った。東京ではなかなか見ることのできない星空に、  
多くの生徒が心奪われていた。

## <生活体験活動>

### 1、稲作講義

第1日目の夜に各宿舎で、JA営農相談員の方々から、長野県の稲作について、講義を受け  
た。翌日の農業体験と関わらせて、学習効果を一層高めることができた。

### 2、ジャム作り・蕎麦打ち・寒天ゼリー作り

地域の方々からの指導を受けながら、地元で栽培されたブルーベリーを使ったジャムを作っ  
た。また、ジャムを作った鍋にて寒天ゼリー作りも行った。蕎麦打ちの作業では、地元の人々  
の生活の一端に触れることができた。

## ○生徒の感想

・事後学習時に、生徒全員にアンケートを実施した。セカンドスクール全般に対しては、ほと  
んどの生徒が「充実していた」と評価していた。田植え・飯盒炊爨・キャンプファイヤー・ト  
ロトロ石器作りなどを印象に残ったものとして答えていた。「自然環境について考えを深  
め、友達との協力・団結・助け合いの大切さと難しさを学んだ」という記述が、多く見られた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

本校のセカンドスクールがより一層の教育効果を高めることが出来るように、小学校のセカ  
ンドスクールのねらいや内容との検討・摺り合わせが必要と思われる。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年は、天候に恵まれたが、雨天日程をしっかりと考えて実施することが重要だと考える。  
課題としては①他の中学校が実施している農家への宿泊。②今年度は見学しなかった大王わさ  
び農場を晴天日程にも実施する。③生徒が虫に刺されたことへの対策などが挙げられる。



【田植え体験の様子】



【蕎麦打ち体験の様子】



【飯盒炊爨の様子】

## 第四中学校

## 長野県飯田市

9月25日～9月29日(4泊5日)

参加人数 男子77名 女子64名  
計141名

## ○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
7:30	市役所前駐車場集合、出発	6:00	起床	6:00	起床、朝食
11:50	飯田運動公園着、昼食	6:30	朝食準備		各農家ごとに農業体験
14:10	うるぎ星の森着	7:30	朝食(オープンサンド等)	12:00	各集合場所でお礼の挨拶
14:30	テント設営	8:00	朝食片づけ		昼食
15:30	夕食準備	9:00	散策、テント片づけ	13:00	稲刈り(売木村)
17:00	夕食(カレー等)	11:50	昼食(弁当)	17:30	ひるがみの森着
17:30	片づけ	12:45	うるぎ星の森発	17:40	室内点検・入室
18:30	休憩	13:00	各農家との対面式	18:00	夕食
19:30	キャンプファイヤー		各農家ごとに農業体験	18:40	入浴
21:00	班長会	18:00	夕食・入浴	21:00	班長会
21:45	就寝準備	21:45	就寝準備	21:45	就寝準備
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝
9月28日(土)		9月29日(日)			
6:00	起床、洗面、布団片づけ	6:00	起床、洗面、布団片づけ		
7:00	朝食	7:00	朝食		
8:00	ひるがみの森出発	8:30	ひるがみの森出発		
8:50	極楽峠登山口着、登山開始	10:00	尖石縄文考古館着、見学		
12:30	パノラマパーク 着、昼食、休憩	11:15	尖石縄文考古館出発		
14:40	極楽峠登山口着	11:30	おぎのや で昼食		
15:50	ひるがみの森着	12:30	出発		
16:00	入浴	17:00	市役所前着		
18:00	夕食		解散式、学活		
19:20	学年レク大会	17:10	解散		
21:00	班長会				
22:00	就寝				

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

## ① 事前の学習内容

- ・個人新聞の作成

(内容) 長野県の自然、飯田市の紹介、日本の稲作と長野県の米作り、長野県の木と花 など



- ・農家への挨拶状・自己紹介カード作り
- ・スローガン作り
- ・生活のきまり作成（服装、持ち物、など）
- ・レクリエーション、キャンプファイヤーの出し物の企画・練習
- ・係会による係活動内容の確認

## ② 事後の学習内容

- ・実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめた。
- ・農家体験を班ごとに模造紙にまとめ、文化祭で展示した。
- ・セカンドスクールでの体験を作文にした。
- ・お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、ハイキング

飯田市の南の下條村にある標高 994mの極楽峠に登った。午前 9 時 30 分に登り始めて、極楽峠パノラマパークに着いたのが午後 0 時 30 分を過ぎてしまったが、パノラマパークからは南アルプスや中央アルプスの山々を眺めることができ、山登りの達成感を味わうことができた。

### <学習体験活動>

#### 1、尖石縄文考古館

5 日目の最終日、諏訪にある尖石縄文考古館の見学をした。最初にビデオ学習をして館内の見学した後に、屋外にある竪穴式住居と尖石遺跡等の見学をした。

#### 2、農業体験

今年の体験は、稲刈りだった。事前に 2 回ほど現地の農家の方と打ち合わせを行った。また、作業手順についてマニュアルをつくり、農家の方々に目を通してもらった。学校では、稲の束を結ぶ練習を行った。

当日は、朝から大変良い天気恵まれた。作業の前半はとまどう生徒もいてなかなかはかどらなかったが、後半は作業がスムーズに進み、すべての稲を刈ることができた。

打ち合わせが十分にできていたので、大きな混乱も無く終了することができた。

### <生活体験活動>

#### 1、キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。自分たちでテントを張り、寝袋で寝て、飯盒炊爨をして食事をつくるという内容だった。季節的に寒い時期にあたるので、夜が心配であったが、無事に過ごすことができた。夜にはキャンプファイヤーを行い、学年・学級のつながりを深めることができた。



## <地域の人々とのふれあい>

### 1、農家泊

売木村と阿南町の35件の農家の方々に、2、3日目の1泊でお世話になった。  
売木村役場と阿南コミュニティセンターに集合してから各農家に分かれた。生徒たちは農家独特の住まいを体験し、東京にはない地域特有の料理・食物を味わい貴重な経験をした。

### ○生徒の感想

- ・僕が一番心に残ったのは農作業です。特に鎌を使った稲刈りが印象に残りました。作業は難しかったけど、慣れてきたら上手くできるようになりました。農家で夜食べたバーベキューは最高で、五平餅は何本食べても美味しくて忘れられません。
- ・目標の「絆」を深めることができました。困った時は友達に相談し助けてもらいました。実行委員としても活動することができ充実したセカンドスクールでした。
- ・自分が一番印象に残っているのはハイキングです。ゴールまで自分の力で仲間と協力しながら行くことができたことがとても嬉しかったです。疲れた分だけ喜びがあるんだと実感しました。

### ○ファーストスクールの教育活動との関連

1学年の総合的な学習の時間のテーマは「共生」である。自然との共生、人との共生を考えていくことにしている。特に人との関わりについては、道徳のテーマでもある。

今回の4泊5日の生活を通して「仲間の大切さや仲間に対する思いやり」を考えて経験するいい機会であったと思う。この体験を今後の学校生活に生かしてほしい。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

自然の中で生活をする、仲間と生活をする、農業体験をすることを通して人として大切なことは何かということを経験するととてもいい機会になったと思う。また学年全体としても、キャンプファイヤーやレク大会など学年全員で協力し成功させることができ、団結することの素晴らしさを実感することができた。また大きな問題もなく稲刈りを行うことができたのは、農家の方々との打ち合わせが十分できたことが大きかったと思う。

来年度以降の実施に向けて、さらに努力していきたい。



【2日目の農業体験】



【4日目のハイキング山頂で】

## 第五中学校

## 長野県安曇野市

5月30日～6月3日(4泊5日)

参加人数 男子37名 女子25名  
計62名

## ○日程表

5月30日(木)		5月31日(金)		6月1日(土)	
7:30	出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス出発	6:30	ランニング・体操	6:30	ランニング・体操
12:00	ビレッジ安曇野到着	7:00	朝会	7:00	朝会
12:30	昼食	7:30	朝食	7:30	朝食
13:00	田植えレクチャー	10:00	上高地ハイキング	8:30	農家体験
14:00	田植え体験				農作業・昼食・
16:00	安曇野湧水めぐり				夕食作り・交流活動
17:00	開校式	17:00	入浴		
17:30	入浴	18:00	夕食		
18:00	夕食	19:00	キャンプファイアー		
19:00	ワサビ漬け・竹トンボ作り	22:00	就寝	22:00	農家民泊
22:00	就寝				
6月2日(日)		6月3日(月)			
8:00	農家の方とのお別れ会	6:00	起床		
8:30	朝食	6:30	ランニング・体操		
10:00	光城山登山	7:00	朝会		
12:00	長峰山頂着	7:30	朝食		
12:30	昼食	8:30	閉校式		
13:00	スケッチ	9:30	ワサビ堀体験		
14:00	長峰山下山	10:30	大王わさび園見学		
17:00	入浴	12:00	昼食		
18:00	夕食	13:30	バス出発		
19:00	レク大会	17:00	学校到着		
22:00	就寝	17:30	解散式		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・国語科の授業で「野菜の秘密」を学び、社会科の授業で米作りと水の関わりについて学ぶ。
- ・総合的な学習の時間を使って様々な観点で調べ学習を行い、それを紙面にまとめながら相互に発表を行う。
- ・総合的な学習の時間や学級活動の時間の中で、集団行動での注意すべき点、班単位の行動計画、地図の見方、問題発生時の対処法などの確認を行う。

### ② 事後の学習内容

- ・セカンドスクールで学んだことを行動班ごとにまとめる。また、「セカンドスクール紹介パンフレット」の作成を通して学習のまとめを行う。
- ・国語科の授業で「手紙の書き方」を指導したのちに、農家体験でお世話になった方々に礼状を書く。
- ・理科の授業で、安曇野市の植物、光城山の植物、武蔵野市の植物等を比較し、その特徴を紙面にまとめる。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1、ハイキング

上高地について事前学習で学んだ自然と環境保全の在り方について、実際に山岳地帯の自然に触れることで理解を深めた。また、学校の校庭の野草とは違い、シダ類などの群生植物が多いことなどを観察しながら学んだ。

#### 2、登山

北アルプスを一望できる光城山・長峰山を登山し、そこで自然と触れ合うとともに山頂から見える安曇野をスケッチすることで、美しい安曇野の風景を記憶にとどめた。

### <学習体験活動>

#### 1、田植え体験

JA 安曇野や地元の農家の方から、安曇野の農業についての説明を聞きながら、日本の米農家の現状と課題について学んだ。その後、田植えのレクチャーを受け、実際に水田に入り、苗代で育てた苗を植えた。全員が抵抗なく素足で水田に入り、事前学習どおり適切に田植えを行うことができた。

#### 2、湧水めぐり

現地の方の説明を聞きながら、安曇野の湧水と、そこに生息する動植物を観察した。

### 3、ワサビ堀体験

ワサビ農家の方からワサビの特徴とその収穫方法を学んだ。その後、実際にワサビを収穫して葉の部分の切り落とす作業を行った。「ワサビの栽培には冷たくきれいな水が必要なこと」「ワサビの部位によって味も辛みが違うこと」などを理由とともに理解した。

## <生活体験活動>

### 1、農家体験

米、野菜、果実などの農作物の特徴について、収穫作業や摘果作業を行いながら学んだ。また、農家の方と一緒に食事を作りながら、安曇野の生活や現状について学んだ。農家の現状については、米価の下落、食用自給率の低下、TPPや農家の後継ぎの問題など、多方面にわたって学んだ。

## ○生徒の感想

- ・米を作るのがこんなに大変で時間がかかることとは知らなかった。米だけでなく食べ物を大切にしようと思った。
- ・ハイキングでは、道を歩きながらすれ違う人に挨拶をして、挨拶が返ってきた時は本当に嬉しくて、気持ちが良かった。
- ・自分たちが収穫した野菜を夕御飯の時に出してくれた。こんなに美味しい野菜を食べたのは初めてだった。農作業は大変で疲れたけど、とても充実した1日が過ごせた。
- ・山を登るのが大変であり自然を感じるができなかったけれど、景色はしっかり心に焼き付けた。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

- ・「セカンドスクールで学び、感じ取ったことを、ファーストスクールで生かしたい」という生徒の声に代表されるように、セカンドスクールは学校での「食育」や各教科の学習内容を補完する役割を担っている。



【初めての「田植え」】

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・人間関係が希薄になりつつあると言われる昨今だが、農家の方々とのふれあいを通して、改めて人の優しさを大切なものと感じ、他者理解と共生の意識を高めることができた。
- ・当地の受け入れ農家は、いわゆる兼業農家が多く、「土曜日受け入れ、日曜日早朝戻り」となっている。現状での農家・農業体験はわずかに限られた時間しか行うことができず、農家の方々との十分な意見交換の時間をとることもできなかった。この点について検討の余地がある。



【清流の中の「わさび掘り」】

## 第六中学校

## 長野県安曇野市

9月4日～9月8日(4泊5日)

参加人数 男子30名 女子38名  
計68名

## ○日程表

9月4日(水)		9月5日(木)		9月6日(金)	
7:30	二小前集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	ビレッジ安曇野到着	9:00	稲刈り体験	8:15	出発
12:30	昼食	10:00	ちひろ美術館見学	10:35	大正池到着、ハイキング出発
13:30	オリエンテーリング出発	12:30	昼食	11:45	河童橋到着、休憩
17:15	オリエンテーリング終了	14:00	わさび掘り体験、 わさび漬け体験	12:45	明神橋到着、昼食
17:30	入浴	17:00	夕食	14:35	河童橋到着、バスへ移動
19:00	夕食	18:20	キャンプファイヤー	17:20	ビレッジ到着
20:00	農作業体験講義	20:00	入浴	17:45	夕食
21:00	反省と検温	21:45	係会議	19:00	入浴
21:30	係会議	22:30	消灯	21:45	係会議
22:30	消灯			22:30	消灯
9月7日(土)		9月8日(日)			
6:30	起床	8:00	ビレッジ集合		
7:00	朝食		閉校式		
7:30	部屋清掃、出発準備	8:30	朝食		
8:30	集合、民泊諸注意、対面	9:00	出発準備		
9:00	各家庭へ出発 以後、各家庭での昼食、 農作業体験、夕食準備など	9:10	出発		
		10:00	クラフト体験		
		12:00	ビレッジ着、昼食		
		13:00	出発		
		18:00	二小前到着、解散		

## ○セカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・安曇野市についての知識と理解を深めた。
- ・「地域、産業、自然」という大きな総合学習のテーマを設け、その中から、安曇野市や長野県についてのものを選択し、夏休みの課題として調べ学習を実施した。
- ・民泊でお世話になる家庭宛てに、自己紹介文を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように手紙文を書いた。

### ② 事後の学習内容

- ・民泊でお世話になった家庭宛てに、お礼状を作成した。誤字・脱字に注意し、失礼のないように、なおかつ相手に誠意が伝わるように手紙文を書いた。
- ・夏休みに決めたテーマに沿って、調べ学習を深め、レポートを作成する。3学期にプレゼンテーションを行う予定である。

## ○特色ある学習内容

### <自然体験活動>

#### 1、上高地オリエンテーリングハイキング

今年度はただハイキングをするのではなく、大自然を感じるために実地踏査の折りに撮っておいた特徴ある自然物（倒木や大木）の写真のものを探して歩くというオリエンテーリング形式にした。それにより生徒はより深く周囲を観察するようになり、上高地の大自然を実感することができたようである。

### <学習体験活動>

#### 1、農業体験

1日目の夜に農業体験講義として、「稲作農業」と「わさび」についてお話を聞いた。当日の夜は雨が降り、残念ながら翌日の稲刈り体験は中止となってしまったが、その体験講義の折りに出た質問「ひとつの稲からお米はどれぐらい採れるか。」というものに答えるため、雨天プログラムであるちひろ美術館へ行く前に、ビレッジ近くの田んぼで畔から刈ることができる稲を刈り、1本ずつ持ち帰った。今まで持ちかえることはなかったので、生徒にとってもよい経験となったようである。

また、わさび掘りも冷たい水に素足で入り体験することにより、わさびはきれいな冷たい水でなければ育たないということをも身を持って体験することができた。

#### 2、安曇野オリエンテーリング

ビレッジ安曇野を起点として、豊科市街地の郷土博物館、近代美術館およびビレッジ近くの憩いの池をめぐるオリエンテーリングを実施した。途中にある道祖神を五つ見つけることを課題とし、安曇野の田園風景を楽しんだ。また立ち寄り先の郷土博物館、近代美術館でも美術品や工芸品に触れることができた。

### 3、クラフト体験

国営あづみの公園、大町松川地区において、「トロトロ石器作り」を行った。赤、白、黒の石を生徒が選択し、その石を削り自分のデザインした形に仕上げ、アクセサリを作る体験である。各自時間内で一生懸命取り組み、思い思いの作品を作っていた。

## <生活体験活動>

### 1、わさび漬け作り体験

日本わさび協会の会長自らの指導によるわさび漬け体験を行った。わさびを刻み、酒粕、調味合わせ、わさび漬けができるまでの体験活動を行った。作ったわさび漬けは各自持ち帰り、安曇野の特産物を知ることができた。

### 2、民泊体験

セカンドスクール中の土、日曜日を使い、安曇野の農家を中心とした民泊体験を行った。天候には恵まれなかったが、それぞれの家庭での農作業と食事作り、その他体験活動を楽しく行うことができた。実際に宿泊することにより安曇野の方との交流も十分にはかれたようだ。



【民泊体験】

## ○生徒の感想

- ・長野県の自然に触れることができ、安曇野の人との交流もできた。
- ・わさびを作る川があんなに冷たいとは思わなかった。足がしびれてきた。
- ・キャンプファイヤーでもう少し盛り上がりよかったです。
- ・民泊はとても楽しくて、お父さん、お母さんも優しくよかったです。もう少し居たかった。

## ○ファーストスクールの教育活動との関連

主に総合学習の時間を使い、事前学習、事後学習に取り組んだ。特に事後学習では実際に経験してきたことを基に新聞を作り、レポートにまとめた。



【稲刈り】

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

前日の雨で中止になった稲刈りだったが、地元の方のご厚意により、畔から刈れる稲を刈りそれを持ち帰り、どれぐらいのお米が採れるのかを事後に検証できるようにして下さった。稲の持ち帰りというのは、今年度初めて実施したものであり、事後に米のことを知るという意味ではとても意義深いものだったと思う。

課題は帰りの交通渋滞をどのようにするか。渋滞自体はどうしようもないことなので、日程を考える必要があるのかもしれない。





# フシセカンドスクール



# 第一小学校 山梨県南都留郡富士河口湖町西湖

9月18日～9月20日(2泊3日)

参加人数 男子35名 女子35名  
計70名

## ○日程表

9月18日(水)		9月19日(木)		9月20日(金)	
7:45	出発式 談合坂SAにて休憩	6:30	起床 朝の会	6:30	起床 朝の会
11:15	富士ビジターセンター見学	7:30	朝食	7:30	朝食
12:00	富士山5合目で昼食	9:00	紅葉台ハイキング	8:45	閉校式
12:40	お中道コーストレッキング (1時間40分)		三湖台	9:30	富士山レーダードーム見学
15:30	お中道コーストレッキング (1時間40分)	11:30	野鳥の森公園にて昼食	10:45	湧水の里水族館見学
16:30	入浴	12:30	樹海ハイキング	12:00	昼食
18:00	夕食	14:45	富岳風穴見学	13:00	出発
19:00	学習の記録	15:30	入浴		談合坂SAにて休憩
20:00	就寝準備 健康観察	16:30	夕食	16:00	学校着帰校式
21:00	消灯	18:00	学習の記録		
		19:00	就寝準備 健康観察		
		20:00	消灯		
		21:00			

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・初めての宿泊行事に向け、集団行動のルール・集団生活のマナーについて指導した。集団活動では、「あいさつ」「安全」「集まり」「後始末」の四つの「あ」が重要であり、一人ひとりがこれを心がけることが大切であることを確認した。
- ・けやきの時間(総合的な学習)を使って、「富士山の動植物」「富士山周辺の野鳥」「富士山周辺湖沼にすむ魚」「富士山の歴史」「富士山の噴火と風穴・氷穴」「富士五湖」「富士山周辺の気象」「富士山にまつわる絵画や写真」「忍野八海」などの課題別グループを設定し、インターネットや図書資料で調べ学習を行い、情報を収集してプレセカンドスクールに臨んだ。
- ・「プロジェクトX 巨大台風から日本を守れ」という富士山レーダードームに関する記録番組のDVDを視聴し、富士山頂にレーダーを設置しようとした人々の思い、設置までの苦勞を知り、レーダードームが日本の気象界にいかにか貢献したかの事実を知った。

### ② 事後の学習内容

- ・3日間の体験活動を新聞形式で各自がまとめた。また、12の行動班ごとに自分たちの印象に

残った体験活動について「3年生にお知らせしよう」という目的意識をもってまとめ、総合的な学習の時間を用いて、3年生への発表会を実施した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、富士山五合目トレッキング

富士山五合目で昼食をとった後、お中道コースのトレッキングに出かけた。「1年に何回もない」と五合目のガイドさんが言うほどの快晴で、五合目からは、本栖湖、河口湖、精進湖などの湖が樹海の中で輝き、遠くには秩父連峰、南アルプスや白根三山などの山々が見渡せた。トレッキング中は、富士山頂が手に取るように見えた。また、五合目が樹木の生える限界である



【お中道から富士山頂を見上げて】

ことがよくわかるように山頂側には背の低い灌木や、コケ類しか見られなかった。子ども達は、強風のため枝が一方向にしか伸びていないカラマツやダケカンバの木々、変わった色や形の火山岩など富士山特有の自然に触れ、十分満足したようであった。

#### 2、紅葉台、三湖台ハイキング

紅葉台入口から、東海自然道の山道を紅葉台の見晴らし台を目指して登った。昨日のお中道コースとは異なり急な傾斜があり、木の根などもむき出しになっている山道に子ども達はかなり苦戦していた。三湖台まで登りきった時の達成感や、汗ばんだ額にそよぐ風の爽快感は格別であった。三湖台ではあたり一面ススキがそよぎ、本栖湖、西湖や富士山などの眺望が素晴らしかった。

#### 3、青木ヶ原樹海ハイキング・富岳風穴見学

野鳥の森公園から、富岳風穴を目指して樹海ハイキングを行った。途中、子ども達は、苔に覆われた木の根が這うように密生している様子や、溶岩洞窟など樹海特有の景色に興味深く見入っていた。富岳風穴では、1年中気温が0度から3度に保たれていると聞き、みんな驚いていたが、階段を一段一段降りるうちにみるみる感じる肌寒さにそれを実感した。中では、昔はカイコのさなぎや植物の種子などの保存のための貯蔵庫として利用されていたことがわかる棚や、天然冷蔵庫として利用されていたこともある氷池などを見て、人々の生活における溶岩洞穴の役割を理解した。

### <学習体験活動>

#### 1、富士山レーダードーム見学

かつて富士山頂にあり、台風の進路などの事前予測に役立っていたレーダードーム見学前にそれを建設した人々の熱い思いや苦勞、レーダードームが建設されたことで飛躍的に進歩した気象のことなどを学習していったため子どもたちの興味関心も高く、意欲的に見学していた。

ここでは、富士山頂の寒さ体験やグループごとにクイズラリーをした。

## 2、富士湧水の里水族館見学

山梨県の湖沼に生息する淡水魚の水族館を見学した。大型ニジマスが遊泳する回遊水槽の中にはチョウザメやイトウなどの珍しい魚も飼育されており、児童は興味深く観察していた。2階のシアターで「アユの生態」を学んだ後、パソコンを使ってクイズを楽しんだり、魚の生態を調べたりする姿も見られた。



【いろいろな魚がいるなあ】

## ○児童の感想

- ・富士山でも、紅葉台でも、自然にたくさんふれ合いました。二つの場所に行って、自然の生命力はすごいと思いました。
- ・富士山の溶岩は、赤いのと黒いのがあった。何が違うとこうなるのか不思議だった。
- ・風穴の中に入ったとたんに、とても寒くなってみんな「寒い。」と言っていました。風穴の天井がとても低くてびっくりしました。風穴の冷ぞう庫で冷やしているものはたくさんありました。
- ・レーダードームを見てぼくは、「これが35年間、台風をいち早く発見していたドームか。」と思いました。

## ○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールでも周囲の植物や昆虫を観察しながらの自然体験活動が計画されている。プレセカンドスクールも植生の全く異なるハイキングコースをいくつも歩くことで自然への興味・関心が高まっていくと考えられる。
- ・自らの課題を設定し、調べ学習をしたり、調べたことについて資料を活用して発表したりする活動は、次年度のセカンドスクールにも生かされていくことが期待される。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・初めての場所でのプレセカンドスクールということで入念に計画し、また実地踏査も複数回行うなど児童への安全を配慮した実施になった。
- ・樹海ハイキング中、児童や指導員が、数名ハチに刺されるという事故があったが、避難ルートの確保、リムーバーの携帯、事前のアナフィラキシーに対する予備調査などの対策を十分にとることが必要である。
- ・3日目の行程は、まだ時間的にゆとりがあるので忍野八海や山中湖などの見学もコースの中に入れることも検討していきたい。

## 第二小学校

## 山梨県南都留郡富士河口湖町

10月16日～10月18日(2泊3日)

参加人数 男子32名 女子43名  
計75名

### ○日程表

10月16日(水)		10月17日(木)		10月18日(金)	
7:45	学校集合	6:00	起床	6:00	起床
8:00	出発式	6:30	朝会	6:30	朝会
8:15	学校発	7:00	朝食	7:30	朝食
10:15	富士ビジターセンター	8:30	ホテル発	9:00	閉校式・ホテル発
12:45	河口湖フィールドセンター	9:00	富岳風穴見学	10:30	ぶどう畑着・体験
15:30	ホテル着・開校式	9:40	樹海ハイキング	13:30	ぶどう畑発
19:00	手紙を書く	11:30	野鳥の森公園着	15:30	学校着
20:30	健康観察	12:00	ほうとう作り体験		帰校式・解散
21:00	就寝	14:45	八木崎公園からホテルへ散策		
		15:15	ホテル着		
		20:30	健康観察		
		21:00	就寝		

### ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

#### ① 事前の学習内容

プレセカンド実施前には、河口湖を含む富士五湖や、富士山、ほうとう、ぶどうや果物などについて、学校の本やインターネットで調べ学習を行い、その中で何点かをピックアップして新聞にまとめた。また、初めての宿泊行事なので、集団生活のきまりや、自分のことは自分ですることの大切さ、協力すること、感謝の気持ちを常にもって行動することについて十分に時間をとり指導を行って本番を迎えた。

#### ② 事後の学習内容

実際に見聞きしたり、体験したりしたことや、現地の方に質問したことを記録した「学習のしおり」を参考に、一人一人がプレセカンドスクールについての思い出を感想文に書いた。また、「プレセカンドのことを保護者の方に伝えよう」というテーマで、一人一人が1日目から3日目までのエピソードや学習で深められた知識などを発表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、樹海ハイキング

樹海の特徴である、溶岩の上に木の根がむき出しになっている様子や、溶岩樹形を眺めながら、普段立ち入ることのない樹海をゆっくりと歩いた。ハイキング前までは少し怖いと言っている児童が見受けられたが、歩いてみると、樹海の雄大さや地面の不思議さに感激し、景色を楽しむことができた。



【樹海ハイキング】



【ぶどう狩り体験】

#### 2、農業体験(ぶどう狩り)

ぶどう作りの苦労や全国生産量1位の「ぶどう」作りに適した土地の特徴、気候について、ぶどう畑の方にお話しを伺い、大事に育てたぶどうを収穫した。また、ぶどうに被せる袋の掃除や、畑の雑草とりなどを行い、実際に体験する中で、ぶどう作りの大変さを児童一人一人が実感することができた。収穫したぶどうは家に持ち帰り、家族でおいしく食べるということができたという感想がとても多かった。

### <学習体験活動>

#### 1、ビジターセンター見学

台風の影響で、学校を出発する時間が遅くなり、ビジターセンターでの見学は中止となった。

#### 2、富岳風穴見学

富士山の火山噴火に伴い形成された、富岳風穴の見学では、とにかく現地での児童の反応に驚かされた。外気と、風穴内の温度差、また、以前は天然の冷蔵庫として利用されていたことなど、実際に入ってみなければ実感できないことを体験することができた。

#### 3、河口湖フィールドセンター見学

フィールドセンターでは、二つの体験を行った。一つは、溶岩樹形を見学したり、実際に入ってみたりする体験で、もう一つは、クラフト体験（はしおき、バードコール、とりぶえ、ペーパーウェイト）である。溶岩樹形の見学では、なぜ樹形が形成されたのか、また、色々な形があるのはなぜかについて詳しく知ることができ、富士山の噴火の影響について知識を深めることができた。また、クラフト体験では、自分の希望したものを丁寧に作り、思い出に残る作品を一人一人が作ることができた。



## <生活体験活動>

### 1、ほうとう作り体験

粉をこねるところから、麺を伸ばし、切り、鍋で具と一緒に煮るところまでをグループで協力して作った。包丁や火を使うという非常に危ない作業もあったが、一人一人が集中して作業を行い、事故もなくほうとう作りをすることができた。また、出来上がったほうとうのおいしさに、何度もおかわりをしている児童が多く見受けられた。中には、「家でも家族と作ってみたい!」と言う児童もいて、実際に体験することの大切さを実感できる時間となった。



【ほうとう作り】



【河口湖湖畔にて】

### ○児童の感想

- ・溶岩樹形を見学して、富士山の噴火のすごさに驚いた。
- ・麺をこねたり、ふんだりして、おいしいほうとうを作ることができた。料理に興味が増えた。
- ・樹海は歩いてみると、同じ景色がずっと続いている感じがした。
- ・ホテルでの食事がとてもおいしく、また、部屋で仲間と過ごすのはとても楽しかった。また、わからないことをやさしく教えてくれて、とても感謝しています。
- ・おいしいぶどうが作られるまでには、多くの作業があり、その苦勞を今回知ることができた。
- ・世界遺産に登録された富士山が目の前に大きく広がっていたことに感動しました。

### ○セカンドスクールとの関連について

5年生のセカンドスクールは、7日間も親元を離れて生活することになる。今回のプレセカンドスクールは児童にとって初めての宿泊体験なので、あまり課題を与えすぎないようにしつつ、セカンドスクールでも大切になる「集団生活・自立・感謝」ということを重点的に指導し、セカンドスクールにつなげられるようにした。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

出発の日に台風が関東地方に上陸し、出発時刻等の変更を余議なくされたが、3日間を通して大きな事故なく、全員が全ての活動に参加できたことは大きな成果として挙げられる。台風などの自然災害に対する対応策については、もう一度見直していく必要性を感じた。万全の状態で、次年度のプレセカンドに臨めるよう、校内体制を整えていきたい。

# 第三小学校

# 新潟県南魚沼市

6月5日～6月7日(2泊3日)

参加人数 男子40名 女子50名  
計 90名

## ○日程表

6月5日(水)		6月6日(木)		6月7日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・おにぎり作り	6:00	起床・検温
11:15	上越国際観光協会到着 開校式	8:20	朝の会(観光協会前)	9:00	塩沢つむぎ機織り体験 雁木通り散策
12:30	昼食(各民宿)	9:00	上越国際スキー場トレッキング出発	12:00	昼食
14:00	田植え体験	10:30	十日町展望台到着 昼食	13:00	観光協会前集合 閉校式
20:00	交流会準備	14:00	農業体験	16:30	学校到着・帰校式
21:30	就寝	17:30	ぬか釜体験		
		20:00	民宿の方との交流会		
		21:30	就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・学校行事での初めての宿泊体験ということで、楽しみにしている児童が多い反面、親元を離れ知らない土地へと行くことを不安に思っている児童もいた。事前のオリエンテーションでは、子どもたちが泊まる民宿やトレッキングで登る山の写真などを見せ、子どもたちの不安を取り除くことができるように配慮した。
- ・総合的な学習の時間では、南魚沼について調べるテーマを子どもたちから引き出し、自分の興味や関心に基づいて、調べたことを新聞にまとめる活動を行った。南魚沼市の気候、雪国のくらしの様子、南魚沼の自然、コシヒカリのおいしさの秘密などがテーマとしてあがった。調べ学習を行い、新聞にまとめた。
- ・班ごとに班長、生活係、食事係など、役割分担を決め、係ごとに打ち合わせを行った。それぞれの仕事内容について確認し、役割がもつ責任の大きさについて話を聞き、プレセカンドスクールを成功させるためには、一つも欠かすことができない役割だということを確認した。

### ② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験の中でもっとも印象に残ったことや学んだことをふりかえり、作文にまとめた。
- ・お世話になった方へのお礼の手紙を書いた。プレセカンドスクールで学んだことや成長したことを感じながら、感謝の気持ちを伝えることができた。
- ・来年プレセカンドスクールに行く3年生が、「早くプレセカンドスクールに行きたい。」「プレセカンドスクールではこんなことをするんだ。」と思えるように、プレセカンドスクールの内容を伝える「プレセカンドスクールを伝えよう」という活動を、総合的な学習の時間に毎年行っている。何のために伝える会をやるのか(目的)、誰に向けて発表するのか(相手)を明



確にしながら、グループごとに発表方法を考え、準備の計画を立て3年生に向けて発表する。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、上越国際スキー場トレッキング

2日目に、上越国際スキー場でのトレッキングを行った。まずは、ゲレンデをそのまま登り、十日町展望台まで登った。宿の方が一緒に歩いてくださり、子どもたちも時折足をとめながら、道端に咲く花や木など、南魚沼の自然について解説を聞くことができた。ゴールである十日町展望台から見える景色はすばらしく、南魚沼の町なみ、前日に田植えをした田んぼも見渡すことができた。

### <学習体験活動>

#### 1、田植え

1日目の昼は、民宿の方に講師になっていただき、民宿近くの田んぼで田植えを行った。民宿の方々に教えてもらったように、腰をおとし、目印の真ん中に3本ずつまっすぐ丁寧に植えることができた。実際にやってみるとその難しさや、大変さがわかり、自分たちが食べているお米がどのように作られているのか、農家の方の大変さを知ることができた。



【田植え体験の様子】

#### 2、農業体験

2日目は、午後は宿ごとに、野菜の苗植えや草取りなど、南魚沼の方が普段行っている農作業を体験する活動を行った。普段食べている野菜などがどのように栽培されているのか実際に見ることができ、子どもたちも興味津々だった。耕運機を使わせてくださる宿もあり、初めての体験に緊張しながら取り組んでいた。収穫には立ち会うことができないが、「おいしく育つといいね。」と宿の方と話しながら、暑い中でも一生懸命活動することができた。

#### 3、塩沢つむぎ機織り体験・雁木通り散策

3日目には、塩沢つむぎ記念館と雁木通りを訪れた。塩沢つむぎ記念館では、越後地方に伝統的に伝わる塩沢つむぎについて、歴史や織り方、糸の種類、生地ができるまでの行程について説明していただき、その後、一人ずつ自分の好きな色の糸を選び、機織り体験を行った。

初めての体験だったが、係の方のお手本を真剣な表情で見ていた子どもたちは、すぐにコツをつかみ、テンポよく織っていくことができた。

雁木通りの散策では、柱に刻まれた積雪のしるしや、雪国ならではの道路や建物の工夫について地域の方に説明をしていただきながら、古き良き町並みを歩いた。通りの屋根を覆うほどの雪が積もることを知ると、同じ日本でも、自分たちが住んでいる町を離れると、暮らしの様子が変わることには驚いていた。



【雁木通り散策の様子】

### <生活体験活動>

#### 1、民宿の方との交流会

2日目の夜に、子どもたち主催の交流会を行った。事前に学校で宿の方々とどのようなこと

をしたいか話し合い準備していた。しかし、実際に宿の方と交流していくうちに「さらに工夫したい。」「感謝を伝えたい。」と感じたようで、時間ぎりぎりまで進んで準備をしていた。飾りを作って飾らせてもらったり、手紙や色紙にしたりするなど、各班で工夫が凝らされていた。実際の交流会では、宿の方と一緒にゲームをしたり、歌を歌ったり、プレゼントを渡したりなど、それぞれ楽しく充実した会を行うことができた。3日間という短い間だったが、子どもたちなりに感謝の気持ちをもつことができたようで、会の最後にはしっかりと自分の感謝の思いを伝えることができていた。

## ○児童の感想

- ・ 民宿では、宿のお父さんやお母さんがやさしくしてくれたので、とても楽しく過ごすことができました。交流会では、ありがたい気持ちをしっかり伝えられました。帰りは、東京に帰るのが寂しかったです。
- ・ 「雪国のすごさ」を学ぶことができました。東京ではそんなに積もらないので大変ではないけれど、南魚沼の人たちはとても大変だとガイドさんや民宿のお父さんに教えてもらいました。雪国のことがたくさん知ることができてよかったです。
- ・ プレセカンドスクールに行き、田植えをしました。そこで米の一粒が大切だということということがわかりました。田植えをしているときに農家の方は腰を曲げて大変な思いをして、一生懸命お米を作ってくれていることがわかりました。これからもお米を大切に食べたいと思います。

## ○セカンドスクールとの関連について

プレセカンドスクールでは、九つの班に分かれてそれぞれの宿に宿泊した。その中で、生活でのルールを守ったり、友達と協力して生活したりする経験をすることができた。セカンドスクールでも、分泊をする。今年学んだ集団生活の仕方をセカンドスクールにつなげていく。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・ 民宿の方、塩沢つむぎ記念館や、雁木通りを案内して下さったガイドさんなど、いろいろな方に支えられてプレセカンドスクールを行うことができていたことに気づき、感謝の気持ちをもつことができた。特に、民宿の方には温かく接していただき、心の通じ合いが生まれた。
- ・ 給食を残しがちであった児童が、農業体験や田植え体験を通して、食物を育てることの大変さ、農業に携わる方々の思いを知り、食べ物を大切に食べるようになった。
- ・ これまでは、友達とうまくかかわることができなかった児童が、宿泊を通して、互いに励まし合ったり、一緒に活動を進めたりすることができるようになった。
- ・ 3日目の塩沢つむぎ体験、雁木通り散策の後の時間に余裕がなく、昼食時間が短くなってしまった。もう少し時間に余裕があると良い。
- ・ 事前指導が、自然や文化、地理など多岐にわたったため、自然体験で、自然とのかかわりについてさらに深く考えさせることができなかった。事前指導を自然に関する内容に絞り、児童が自然についての視点をもって体験活動ができるようにする。

# 第四小学校

# 群馬県利根郡片品村

10月16日～10月18日(2泊3日)

参加人数 男子23名 女子22名  
計45名

## ○日程表

10月16日(水)		10月17日(木)		10月18日(金)	
11:00	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床
11:32	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
13:25	赤城高原SAにて昼食・休憩	8:30	尾瀬ハイキング出発	7:50	荷物整理
14:10	片品村花咲地区着、開校式	11:00	山の鼻	8:30	農業体験
14:20	各宿に移動し顔合わせ	12:00	昼食	10:30	うどん作り体験
14:40	押し花作り	15:30	各宿着	11:30	昼食
15:30	花咲地区周辺散策	16:00	宿の方にお礼の手紙を書く	12:15	閉校式、片品村出発
17:00	入浴	17:00	入浴	15:30	学校到着、到着式
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	解散
20:30	健康観察、学習の記録	19:00	健康観察		
21:00	翌日の準備、就寝準備	20:30	学習の記録、就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて  
各学級に日程表を掲示し、活動内容を知ってから、プレセカンドスクールのめあてを立てた。
- ・バスの中での活動について  
どのようなレクリエーションがふさわしいのか、レク係を中心に決めていった。
- ・群馬県片品村について  
片品村のパンフレットやインターネットで片品村の検索をして興味をもった観光、農業、自然、生き物について調べた。資料は、学校図書館サポーターの方に依頼し、片品村に関する本を市立図書館から取り寄せてもらった。特に「わたしたちの片品村」や「片品川上流の自然」は、片品の植物や農業のことや暮らしのことが書かれており児童の事前学習にとっても役に立った。

### ② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールでの3日間の体験について作文を書いた。またテーマ別にグループを組み3年生対象に発表会を行う。  
《主な発表内容》○ハイキング○環境保全型農業○うどん作り体験○宿での生活・係の仕事

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、農業体験

本来なら1日目のプログラムであったが、悪天候のため3日目のプログラムに取り入れた。農業体験は、三つの内容についてローテーションを組んで学んだ。りんごの苗木の根元にわらを置く作業をしたり、黒豆の脱穀をしたりと、普段の生活ではできない農作業を体験することができた。わらは発酵作用があるため、りんごの苗木の根元にわらを置く作業は、ただ置いているだけではなく、土を作るのに必要な微生物やもぐらが住むのにも、欠かせない作業であることを教えてもらった。



【農業体験】

#### 2、尾瀬ハイキング体験

片山村振興公社旅行部の方2名に付き添っていただいた。鳩待峠に到着すると雪が降っており大変寒かったが、自然の風景を満喫することができた。誰一人遅れることなく、元気に歩き切ることができた。晴れ、くもり、雨雪とめまぐるしく天候が変化の中シカやサンショウウオに出会うなど、貴重な体験をすることができた。



【尾瀬のハイキング】

#### 3、うどん作り体験

日程を変更したため、今回のうどん作り体験は、生地を伸ばす作業と伸ばした生地を麺にする作業を行った。この体験活動が宿のお父さんお母さんと触れ合う最後の機会でもあり、2泊3日の間にすっかり打ち解けた様子が見られた。「自分たちが作ったうどんだから絶対おいしい！」と言いながら、うどんがゆで上がるのをうれしそうに待っていた姿が印象的だった。自分で作ったものを食べる充実感や友達と協力して作ったおいしさを実感させることができた。

### <学習体験活動>

#### 1、尾瀬ぷらり館

クロサンショウウオに触れたり、キロスズメバチの巣の大きさや重さに驚いた実感で伴いながら尾瀬の生態系について学ぶことができた。

#### 2、農業体験

りんごの栽培作業や黒豆の脱穀、そして環境保全型農業について学ぶことができ、豊か

な自然を生かした農法や伝統的な農具、農業の抱える現代的な課題について知ることができた。特に自然を生かした農法については、児童にとって初めて聞く言葉ばかりでしたが、農薬を減らした食品が体に良いことや土を作る大変さを学ぶことができた。

### ＜生活体験活動＞

- ・協力しながら生活することの大切さを学んだり、親切にしてもらった時に感じる温かさに目を向けることや気付いたりすることができた。
- ・荷物の管理、食事や入浴のマナー、宿での過ごし方を体験的に学ぶなど、セカンドスクールへの見通しをもつことができた。
- ・小集団での宿泊体験をすることで、友達と共に生活したり活動したりする楽しさを知り、セカンドスクールへの期待感をもつことができた。

### ○児童の感想

- ・一番楽しかったのは、ハイキングです。2時間ほど歩いた後のお弁当は、本当においしかったです。その後は、登り坂の連続だったのできつかったですが、帰り道ではシカを見つけました。尾瀬はとても寒く、私は7枚も服を着こんでいました。宿に着くと宿の中の暖かさを感じることができました。
- ・農業体験では、黒豆の脱穀を体験しました。お正月に食べる黒豆の殻を「くるり」という道具を使って割りました。割るのは大変だったけれど、だんだん慣れていきました。りんごの無農薬を目指していることも教えてもらいました。普通は、農薬散布を30回使っているけれども、ここでは6回しか使っていないことに驚きました。
- ・私は、これからできることが1つ見つかりました。農薬をたくさん使ったきれいなりんごと農薬を少ししか使っていない汚いりんごが売られていたら農薬を少ししか使っていないりんごを選ぼうと思います。

### ○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、短期間の宿泊を体験することを通して、宿の方々との触れ合いを大切にできる心や、進んで自然に親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にできる態度を育むことに重点を置いた。

### ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・新規プログラムとして「遊楽木舎」において、黒豆の脱穀体験、りんごの栽培作業、環境保全型農業についての学習を実施した。伝統的な農具を使う体験をしたり農業の抱える現代的な課題について学んだりすることができた。次年度も継続してプログラムに取り入れたい。
- ・尾瀬のハイキングは、天候の変化が激しく低温という厳しい条件下で、防寒対策の不十分な児童が多数いた。来年度以降は、説明会において防寒対策の徹底をしていきたい。

<b>第五小学校</b>	<b>山梨県南都留郡山中湖村</b>
<b>10月2日～10月4日(2泊3日)</b>	参加人数 男子19名 女子37名 計56名

## ○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
7:45	学校集合 出発式	6:30	起床 健康観察	6:30	起床 健康観察
7:50	学校出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:25	トイレ休憩	7:30	朝食	7:30	朝食
10:30	青木ヶ原樹海着	8:45	宿泊先出発	8:40	ほうとう作り開始
10:45	青木ヶ原樹海フィールドワーク開始	9:00	東大演習林フィールドワーク開始	11:50	ほうとう作り終了 (昼食含む)
13:00	フィールドワーク終了	11:30	フィールドワーク終了	12:15	閉校式
13:40	昼食	12:30	昼食	12:40	宿泊先出発
15:45	宿泊先着 開校式	14:25	富士山散策開始	15:10	学校到着 帰校式 解散
16:15	反省会	16:00	富士山散策終了		
18:00	夕食	17:25	宿泊先着		
19:00	星の観察	17:30	反省会		
20:00	健康観察 入浴	18:00	夕食		
21:00	就寝準備	19:00	自然の話		
21:30	消灯	20:00	反省会		
		20:45	健康観察 入浴		
		21:15	就寝準備		
		21:30	消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に、現地でお世話になるエコスクールの代表である小野さんと打ち合わせを行い、三つの活動場所である富士山、青木ヶ原樹海、東大演習林でのそれぞれの観察の視点を明確にした。そして、事前に児童にその視点を明確にすることで、現地での活動が非常に充実したものとなった。

### ② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクール終了後、まず個人でのまとめを行った。「富士山」「青木ヶ原樹海」「東大演習林」「ほうとう作り」の四つの活動について、八つ切り画用紙1枚にそこで学んだこと



や気付いたこと、感じたことをまとめた。また、その後、学年全体としてプレセカンドスクールで学んできたことを個人でまとめた時と同じ四つの活動に分け、学習発表会で発表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、青木ヶ原樹海フィールドワーク

各クラス1班5～6人程度の班を6班作り、1人のインストラクターが4班ずつ担当し活動を行った。ここでは、『根を見よ』というねらいのもと、青木ヶ原樹海の自然について学習を行った。火山でできた土地であるため、根が地上に浮き上がっていることや、倒れた木の上にまた別の木が育ち、年月が経ったためにその木が腐り、ぽっかりと穴があいている根など、様々な根の形を注意深く観察した。インストラクターの方の話にうなずきながら興味深く学ぶことができた。



【青木ヶ原樹海フィールドワーク】

#### 2、東大演習林フィールドワーク

班ごとに、16問の問題に答えていきながら、木や動物が環境に合わせて生きていることを学習していった。四つの班に1人のインストラクターがつき、各問題のヒントを与えてくださった。ここでは、班で一つの答えを導いていくというねらいも含まれているため、班で相談し合いながら答えを出そうとする姿が見られた。各問題が出された植物をしっかりと見たり、触ったりしなければ答えを出せないようなものばかりなので、必然的にその木の全体を見たり、葉の一部に着目したりと細かく観察することができていた。

#### 3、富士山散策

上の活動と同じく、四つの班に1人のインストラクターがつき、ねらいである『木をみよ』にそっての説明を受けながら散策を行った。今年はいにくの天気で、まずは、奥庭を散策。富士山という過酷な環境条件の中で生きるために、背丈が低い木や、片側にしか葉が付いていない木などを興味深く観察していた。

次に、バスで五合目に上がり、「森林限界」と呼ばれる場所を歩いた。「絵に描くとぎざぎざした線をよく描くがその部分を今歩いているんだよ。」というインストラクターの言葉に初めはあまりぴんとこないようであったが、説明を聞きながら実際に歩くことで、しっかりと意味が理解できたようであった。

### <学習体験活動>

#### 1、郷土料理づくり(ほうとう作り)

班ごとに、インストラクターの指導のもと、具になる野菜を切る活動、麺を作る活動を行った。班ごとに仕事を分担しながら協力して作業を行う姿が数多く見られた。粉から麺を作る作業はほとんどの子が初めての様子で、初めは、恐る恐る手を入れていた子もいたが、時間が経つうちにだんだんと



【ほうとう作り】

作業にも熱が入ってきていた。ちょうどよい硬さは耳たぶぐらいのやわらかさという説明を受け、実際に自分の耳を触り確かめる姿も見られた。また、分からないところがあると、進んでインストラクターの方に質問する姿も多数見られ、児童が積極的に取り組んでいることがうかがえた。出来上がったほうとうは昼食として食べたが、普段あまり食が進まない児童もよく食べていた。

## ○児童の感想

- ・青木ヶ原樹海でのフィールドワークでは、1人では分からなかったけれど、友達と協力することでできたので、協力することが大切だと感じました。
- ・自然について聞いたり、見たり、触ったりする中で、環境と生き物が協力して暮らしていることに気付きました。
- ・野菜を切ったり、麺をこねたり、いろいろな作業を班のみんなで分担してできて、おいしいほうとうができてよかったです。
- ・協力することの大切さがわかったので、これからも、友達と協力することと友達を大切にすることを続けていきます。

## ○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールでは、7～8人程度の班で各民宿においての生活が主になってくる。プレセカンドスクールは初めての宿泊行事であり、この2泊3日の集団生活において、「時間を守って行動する」「自分のことは自分で行う」などの生活の基本的なルールを守って生活することや、友達と協力して生活することでよりよい生活ができる喜びを実感させ、次年度のセカンドスクールにつなげていきたい。また、活動の際のねらいを意識しながらその視点に着目し、考えていく学習の仕方についても基礎作りをし、セカンドスクールにつなげていきたい。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山周辺の自然のつながりを学ぶのに、富士山・青木ヶ原樹海・東大演習林という三つの活動は非常に効果的であるので、今後もこの三つの活動は継続して行っていきたい。
- ・現地でお世話になっているインストラクターの方とも、プレセカンドスクールにおいての活動のねらいが明確に共通理解されているため、児童への説明が大変分かりやすく興味深いものとなっている。
- ・予定されている三つの活動は、天候によって活動の順番が変更になることはあるが、よっぽどの荒天ではない限り、行えるので大変よい。また、その場の天候に応じて、現地のインストラクターの方が、臨機応変に動いてくださる点も非常によい。
- ・昨年度、時間的に余裕がなかったため、集合・出発の見直しを行った。その結果、少しずつ改善されたと感じるが、やはり活動終了の予定時刻が遅れがちになるところがあり、児童の1日の活動の振り返りの時間が十分にはできずに終わってしまうため、さらに時間的な見直しをする必要があると感じる。



# 大野田小学校

# 山梨県北杜市高根町清里

6月1日～6月3日(2泊3日)

参加人数 男子52名 女子47名  
計99名

## ○日程表

6月1日(土)		6月2日(日)		6月3日(月)	
7:00	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:20	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:20	滝沢牧場着、牧場体験、昼食	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
13:25	宿舎着、開校式	7:30	朝食	7:30	朝食
13:40	避難訓練	8:30	クラフト(焼杉キーホルダー)	8:30	退所点検
14:10	冒険ハイク	10:00	ほうとう作り	8:50	閉校式
18:20	夕食	14:00	自然探求 in 清里	9:10	宿舎発
19:20	入浴	17:00	班長会	10:30	歌舞伎文化公園・サンペーパー
20:20	1日の反省、班長会、荷物整理	17:30	夕食		工場着
21:00	健康観察	19:00	ナイトハイク	12:30	公園発
21:20	就寝準備、消灯	20:20	入浴	15:45	学校着、解散式
		21:00	1日の反省、荷物整理	16:00	解散
		21:20	就寝準備、消灯		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールのめあてについて
- ・山梨県や北杜市の様子について
- ・保健指導(成長・発育と体の変化について)
- ・集団行動のルールについて
- ・集団生活のマナーについて



【冒険ハイク】

### ② 事後の学習内容

- ・2泊3日の体験や課題学習について振り返り、作文と壁新聞にまとめる。
- ・グループで体験活動のまとめを行い、3年生に対して発表会を実施。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、冒険ハイク

冒険ハイクは、グループで協力しながら森の中に設置されたチェックポイント（アスレチック）をクリアしていく活動である。「ケーブルサーキット」では、みんなで協力して、スリルを味わいつつも、安全に気を付けて楽しむことや、順番を守ったり、次に楽しむ人のために、かごを回送して準備したりすることを学んだ。自然の雄大さを感じ、それを友達と共有することができた。その他のチェックポイントでも、自然の中で体を動かす気持ちよさを満喫するとともに、友達と力を合わせて難関を越えていく嬉しさを味わいながら連帯感や忍耐力を高めることができた。

#### 2、ナイトハイク

グループで人工の光のない真っ暗な森の中を歩いた。行く前は怖がって泣いてしまう児童もいたが、グループ内で励ましあいながら、夜の自然の中でしか見えない星のきらめきや風の音に気付き、最終的にはみんなで楽しむことができた。グループで一つの懐中電灯は先頭の児童が持ったが、「後ろ、見える?」「ここ、木の根が出てるよ!」など、常に友達を気遣いながらゆっくりと進む様子が印象的だった。森から出てきたとき、満天の星空を見て大歓声が上がった。活動が終わるころには、「えっ、もう終わりなの。」「もっとやりたい。」という児童の声が聞かれ、自然に対して興味が高まったことがうかがえた。

### <学習体験活動>

#### 1、牧場体験

牛や山羊、羊へのえさやり体験、子牛の心臓の音を聞く体験、乗馬体験、搾乳体験をした。山羊や羊が自分の手からえさを食べたり、子牛の心臓の音を聞くことで、児童は命のぬくもりを肌で感じていた。搾乳体験では、牛の乳の温かさや乳首の感触、乳が出た時のうれしさを口々に語っていた。



【搾乳体験】

#### 2、焼杉のキーホルダー作り

2日目は焼杉のキーホルダー作りから始まった。杉の木目は同じものが一つもなく、児童は自然の風合いを楽しんでいた。それをガスバーナーで焼き、その後で表面の黒くなった部分をブラシで磨き落とすと、焼く前とは一味違った色合いになった。児童はよりきれいにしようと一生懸命に磨き、出来栄に満足していた。身近な自然にひと手間かけることで、生活を楽しむ、豊かにするものを作り出すことができることを体験から学んだ。

#### 3、自然体験 in 清里

いくつかのポイントを示し、中庭をグループごとに歩き、自然体験をした。幹の一番太い木を見つけてメジャーで計ったり、木の幹の模様を絵に描いたり、見た鳥の姿、聞いた鳥の声を記録したり、落ち葉集めをしたりした。

それまでかなりスケジュールが詰まっていたので、児童が自然の中で伸び伸びとしている様

子が見られた。「面白い形の葉っぱがあったよ。」「こんな鳴き声を聞いたよ。」「ツバメの巣があって、赤ちゃんがいたよ。」など、眺めるのではなく、浸ることで、自然の中からたくさんの発見をし、喜びを見出していた。

## ＜生活体験活動＞

### 1、ほうとう作り

ほうとう作りは現地の方に指導していただいた。野菜を切ったり、火を起こしたりと危険が予想される場面のある活動であったが、児童は指導してくださる方の話をよく聞き、活動に取り組んでいた。麺を打ったり、野菜を切ったり、火をつけたりすることに悪戦苦闘しつつも、麺と具材を煮込み、味噌で味をつけ、やっと完成させた。自分たちで作ったことに達成感を感じ、ほうとうの味に舌鼓を打っていた。楽しく、おいしく、山梨県の食文化に触れることができた。

### 2、「サンペーパー」工場見学

社会のゴミの学習と関連させて、牛乳パックを原料とする再製紙の工場を見学した。事前に牛乳パックを家庭で用意し、その牛乳パックを機械の中に入れて、ごみだったものが、原料へと変化していく様子を見ることもできた。袋詰めされている様子を見たり、トイレットペーパーの何千倍もあるロールを見て驚いていた。紙を大切に使うことやリサイクルの重要性を学ぶこともできた。

## ○児童の感想

- ・「友情のウォール」では、登れなかった私を、グループの友達が台になって助けてくれました。全員で登れた時は、とてもうれしかったです。
- ・みんなで協力して作ったほうとうは、今まで食べたどんな料理よりもおいしく感じられました。

## ○セカンドスクールとの関連について

- ・今回の自らの課題について下調べをし、現地で調査しまとめるという体験は、セカンドスクールでも十分に生かされると考えられる。
- ・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子供たちの自主・自立・協力の心を養うとともに、生活上のルールやマナーを身に付けることができたことで、セカンドスクールに向けての自信と期待につながった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・集団生活の中で必要なルールである、荷物は常に整頓しておくことや、時間は必ず守ることを身に付けることができた。
- ・冒険ハイクやナイトハイクがメインの活動であり、雨天になった場合どうしても児童の意欲は下がると考える。晴天時と比べても内容・予算に遜色のない雨天プログラムを再検討する。

# 境南小学校

# 山梨県南都留郡富士河口湖町

10月2日～10月4日(2泊3日)

参加人数 男子34名 女子47名  
計81名

## ○日程表

10月2日(水)		10月3日(木)		10月4日(金)	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
8:15	学校出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
9:40	談合坂SA(トイレ休憩)	7:30	朝食	7:30	朝食
10:30	富士ビジターセンター着	8:30	片付け、荷物整理	8:30	片付け、清掃、出発準備
11:30	富士山五合目着、昼食	9:00	宿舎出発	9:00	閉校式、宿舎発
12:40	富士山五合目発	9:30	紅葉台入り口着、ハイキング	10:05	農作業体験・昼食
14:00	富士山奥庭着	10:40	三湖台着		収穫・草取り・えさやり
14:45	富士山奥庭発	12:00	野鳥の森公園着、昼食、休憩		
15:00	宿舎着、開校式、避難訓練	13:00	野鳥の森公園発	13:30	ぶどう畑発
16:00	入浴、学習の記録	13:45	富岳風穴着、見学	14:00	談合坂SA(トイレ休憩)
18:00	夕食	14:00	富岳風穴発	15:10	学校着、帰校式
19:30	絵手紙作り	15:00	周辺散策、宿舎着、荷物整理		
20:45	健康観察	16:00	入浴、学習の記録		
21:00	就寝準備	18:00	夕食		
21:30	消灯・就寝	19:30	富士山についてのDVD鑑賞		
		20:45	健康観察		
		21:00	就寝準備		
		21:30	消灯・就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール・集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。
- ・係ごとに必要なルールやマナーを話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、全体で確認し、実行できるようにした。
- ・自主的に活動できるよう、班長を中心に児童が考えたスローガン「みんなでなかよく協力して発見・体験をしよう」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し思い出に残るものにしようと話し合った。
- ・総合的な学習の時間に現地で行う活動内容について知らせ、富士山と雲、富士山の石、ぶどう、富士五湖の学習課題について調べた。

## ② 事後の学習の内容

- ・課題別の学習について、同じ課題のグループごとに研究発表会を開き、資料を準備して調べたことを発表した。
- ・宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流など、プレセカンドスクールの思い出を振り返り作文にまとめた。
- ・12月に行う、3年生に向けてのプレセカンド体験発表会に向け、活動のまとめを行った。まず、各自が現地で体験したことから、写真や絵を利用してパソコンを使って発表資料を作成し原稿を作った。そして、自分の伝えたいことをまとめ、次年度にプレセカンドスクールを体験する3年生に宿泊体験の様子や自然体験のすばらしさなどを伝えた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、富士山五合目トレッキング

初日に富士山五合目のトレッキングを行った。富士山の山頂を見ながらグループで歩き、途中、コケモモやシャクナゲなど変わった色や形の火山岩を見て高山の特徴を学習した。

トレッキング中は、雲一つない快晴に恵まれ、麓の河口湖や富士吉田市内を一望することができた。時間に余裕をもって活動できたため、児童は安全に富士山特有の植物の観察ができ、大自然に触れて十分満足できたようである。



【富士山御中道でのトレッキング】

#### 2、紅葉台ハイキング・野鳥の森公園・富岳風穴見学

2日目、晴天の下、紅葉台入口からハイキングコースになっている道を登った。急な上り坂が多く、時間をかけてゆっくりと登って行った。紅葉台展望台では富士山の山頂が雲に隠れてしまっていたが、他の山々を見ることができ、絶好のハイキング日和となった。目的地の三湖台では、西湖、精進湖、本栖湖の湖面を見渡す360度のパノラマを楽しむことができた。三湖台では、クラスごとに記念写真を撮った。帰路は滑りやすいので登山道ではなく車道を下った。勾配がゆるやかで周りの森林の景色を楽しみながらのんびりと歩くことができた。

野鳥の森公園は紅葉台入口からバスで10分ほどである。この公園は周りを青木ヶ原樹海に囲まれている。到着直前に雨が降り出したため、公園に着いたがバスの中での昼食となった。

富岳風穴は野鳥の森公園からバスで10分ほどのところにある。風穴は青木ヶ原樹海の中の遊歩道の先にある溶岩洞窟である。そこから、急勾配の階段を下りて行き、低い天井に気をつけながら奥に進むと、そこは気温0℃の暗闇。溶岩樹形や縄状溶岩、氷柱などが見られる。総延長201メートル、高さは8.7メートルにおよぶ横穴で、所要時間20分程である。子どもたちはこの季節に氷が残っているのを実際に見て、その寒さに驚いていた。こうした溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使われていたと説明書きを見て納得した様子であった。

### <農業体験活動>

#### ぶどう畑での農作業体験



【ぶどう畑でのお話】

3日目、ホテルを出発後、勝沼のぶどう畑に向かった。まず、活動についての説明を聞いた。そして、事前に調べてきた課題に沿って話を聞きながら、学習の記録をした。その後、草取りとぶどうの収穫体験を行った。はさみで枝を切る際に、切ったぶどうを落とさないように片手で支えるなど、現地の指導員の方の指導で安全に作業ができた。子どもたちは説明を聞き、できるだけ良いぶどうを自分なりに見分けながら収穫していた。

収穫作業と草取りの体験後、昼食をとり、その後、ぶどう畑や耕作放棄地の開墾のためにぶどう畑で放牧されている牛に草取りで取った草を、えさとして与えた。こうした作業を体験することによって、子どもたちは、自分たちが食べている農作物を育て収穫するまでには、人が多くの手間をかけなければならないということや、安全でおいしい農作物を育てる工夫に気付いたようである。現地の方の話や実際の体験を通して、働いている方々の努力や苦勞、また食べ物の大切さについて考えることができ、大変有意義な活動になった。

## ＜学習体験活動＞

### 絵手紙作り

1日目の夕食後、「プレセカンドスクールの思い出を表現しよう」と絵手紙作りを行った。富士山やぶどうを題材にしていた児童が多かったが、同じ富士山やぶどうの絵にも一人一人さまざまな色と形が表現され個性を發揮することができた。出発前に学校でも絵手紙のかき方については若干の指導を行ったので、当日はほとんど細かい説明をせずに、十分な時間を確保して実施することができた。

## ○児童の感想

- ・富士山のトレッキングでは、いろいろな景色を眺めながら歩くことができ、気持ちが良かった。地面の色が黒から赤に変わっていく様子を観察することもできた。
- ・三湖台では、富士五湖の一部を見ることができた。日が当たってきらきらしていた様子がきれいだった。富士山が見えなくて残念だったけど、樹海が良く見えて、その広さに驚いた。

## ○セカンドスクールとの関連について

友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことを全体で確認し、意識して行動するよう事前指導した。また、課題追究型の学習過程で、学習課題の調べ方や資料の表現方法などを学んだ。それがセカンドスクールにも生かされると考えている。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・富士山のトレッキングでは、ガイド無しで実施したが、柔軟に休憩の時間配分などを行うことができたため、降り口の急な坂も時間に余裕をもって安全に下ることができた。
- ・ぶどう畑の方に農業や土地の特徴に関して話をしていただいたことが、事前学習と事後学習に深く結びつけることができた。
- ・2日間とも雨天等で星空の観察ができなかった場合のために、星に関する学習道具（映像資料など）を準備していく等の工夫をする。



# 本宿小学校

# 新潟県南魚沼市

6月5日～6月7日(2泊3日)

参加人数 男子22名 女子19名  
計41名

## ○日程表

6月5日(水)		6月6日(木)		6月7日(金)	
7:45	校庭集合・出発式	6:30	起床	6:30	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	到着後、現地開校式	8:00	朝の会后、民宿出発	7:45	朝の会后、民宿出発
13:30	農業体験(田植え)	8:30	坂戸山登山開始	8:00	八海山ロープウェイ
16:00	民宿着	13:30	登山終了		地形観察
19:00	天体観測	14:30	そば打ち体験開始	10:00	山菜採り・農相体験
20:00	民宿の方との交流	16:00	そば打ち体験終了	11:30	昼食(そば打ちのそば)
21:00	健康観察	19:30	民宿の方と交流	12:30	閉校式
21:30	就寝	21:00	健康観察	13:00	出発
		21:30	就寝	16:30	到着式・解散

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

プレセカンド実施前に活動内容、南魚沼市に関する課題をいくつか設定した。それぞれが興味をもった課題についてグループで調べ学習を行った。模造紙や画用紙、紙芝居形式など様々な方法でまとめ、学級全体に発表した。事前の課題別グループで、事後の調べ学習を行うことを伝え、プレセカンドスクールでは自分たちの課題に必要な情報を集めるように促した。

### ② 事後の学習内容

実際に見聞きしたり、体験したりしたことやまた現地の観光協会の方に質問したことをグループごとにまとめた。「プレセカンドスクールのことを3年生に伝えよう」というテーマで、それぞれが工夫した発表を行った。ポスターにまとめたり、段ボールで実際に田植え体験ができるような模型を作ったりと創造的な発表となり、3年生にも分かりやすく伝えることができた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、田植え

全員で田んぼに入り、一人一列苗を植える体験をした。



【田植え体験】

児童は泥の感触や苗を植える楽しさを感じていた。また、農家の人がお米を育てる苦労や大変さを実感することもできた。

## 2、坂戸山登山

634mの急こう配の山であったが、あらかじめ決めてあった四つのグループごとにパーティーを組み、協力して登ることができた。途中で植物の説明を聞いたり、珍しい虫を見付けたりと自然に親しむ様子もたくさん見られた。

## 3、山菜採り

山菜が最も取れる時期は多少過ぎていたが、ふきやよもぎやぜんまいをたくさん見つけることができた。ボランティアの方だけでなく、地元で山菜採りをしている人たちに食べられる山菜を教えてもらう機会があり、交流を深められた。



【山菜採り体験】

### <学習体験活動>

#### 1、八海山ロープウェイ・地形観察

理科で天気と気温の関係を学んでいたもので、興味をもって温度を測ったり、地形観察をしたりしていた。遠くに見える山の名前や地図でみた形が目の前に広がっている風景を見る体験ができ、充実した活動であった。

#### 2、天体観測

天候に恵まれ、一等星や土星を望遠鏡で見ることができた。大きな望遠鏡を用いて、自分の目で星を見る体験は何ものにも代えがたいものであった。東京では見られない美しい星空に児童はとても感動していた。

### <生活体験活動>

#### 1、そば打ち体験

グループで活動を行ったので、協力して楽しみながら体験することができた。そば粉からこねて、伸ばして自分たちで太さを考えて思い思いのそばを作っていた。指導員の方にほめてもらったり、教えてもらったりして充実したよい体験となった。



【そば打ち体験】

## ○児童の感想

- ・ふだん、学校にいたらできない体験をたくさんすることができました。坂戸山の登山はきつかったけれど、友達とはげましあいながら登ったのでがんばれました。頂上で食べたおにぎりは、今までで一番おいしく感じました。



- ・宿のお父さんお母さんがとてもやさしくしてくれました。友達と泊まるのは初めてだったけど、すごく楽しかったです。いつもはあまり話をしない友達ともたくさん話ができたとし、協力することの大切さが分かりました。
- ・コシヒカリがあんなにおいしいなんて初めて知りました。ぼくは、5杯もお代わりしてしまいました。自分で田植えもしたので、これからはお米を大切にしようと思いました。

## ○セカンドスクールとの関連について

前年のセカンドスクールで5年生が植えた菜の花畑で昼食をとる予定であったが、今年度は花が咲いていなかったため見送った。観光協会の方が菜の花を積んで押し花のしおりにしてくれたものを4年生が受け取り、学校に持ち帰って6年生に渡すという活動を行った。

また、4年生が田植えをした稲をセカンドスクールで5年生が刈り取るという、学年を超えてのつながりを大切に活動も取り入れている。

本校では4年生でも二つの宿舎に分泊している。次年度のセカンドスクールでは6か所に分かれての分泊になるので、事前の段階として分かれて泊まるというのは児童にとってもよい機会になると思う。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・観光協会の方との事前打ち合わせ、当日打ち合わせ、事後の反省会は今後も続けていきたい。
- ・雨天の際、代替案の計画が十分とは言えないので、体育館でのプログラムを教員側でしっかりと準備することが必要になってくる。
- ・4年生の段階での分宿は5年に向けての準備としてとても良いので、今後も続けられるようにしたい。

# 千川小学校

# 東京都西多摩郡檜原村

10月9日～10月11日(2泊3日)

参加人数 男子23名 女子23名  
計46名

## ○日程表

10月9日(水)		10月10日(木)		10月11日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床	6:30	起床
10:00	こんにやく工場見学 シクラメンハウス見学	7:00	朝食	7:00	朝食
12:00	昼食	9:00	都民の森 ハイキング(2組) こんにやく作り体験(1組)	8:15	三頭山荘 閉校式
13:00	水生昆虫観察	12:00	昼食	9:00	フォレストコテージ到着 森を守る話
15:30	三頭山荘着 開校式	13:00	こんにやく作り体験(1組) 都民の森 ハイキング(2組)	12:00	昼食
16:30	入浴	16:30	入浴	16:00	到着式 解散
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録		
21:00	消灯・就寝	21:00	消灯・就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクールで身に付けたい力やどんな学習をするのかねらいを設定し、プレセカンドスクールまでの見通しをもたせた。

- 山地で暮らす人々の生活の様子や生活環境を学ぶ。
- 友達と協力して生活し、交友関係を深める。
- 生活のきまりを守る。(あいさつ、時間、マナー)

- ・社会科副読本「わたしたちの東京都」「東京都の地図」を活用し、檜原村の自然、交通、産業、生活の様子などのテーマに分け、1時間ずつ学習した。写真などから気付いたことや疑問点を発表し、話し合い、檜原村を訪れることへの学習意欲を高めていった。
- ・檜原村の自然などについては、総合的な学習の時間を活用して学習した。林業体験があるため、苗付けから伐採まで林業の仕事の内容を、資料や映像を提示して理解を深めさせた。

#### 【集団宿泊行事を進める学習】

- ・特に自分のことを自分ですることを中心的課題として、学校だけでなく家庭でも取り組んでもらった。
- ・班で役割分担をし、班内で分担した役割の準備を進めた。

### ② 事後の学習内容

- ・事前学習で調べたことや、現地で体験したことを報告書にまとめ、発表会を行った。
- ・来年度のセカンドスクールに向けて、集団生活のきまり等について確認しあった。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、林業体験

フォレストイングコテージにて、林業家の方から日本の林業の実態や森林の減少などについてプリントや写真などを見ながら説明していただいた。また、日本は人口林が多く、人間が手を入れて育てていかないと荒れ果てた山になってしまうという話は子どもたちには驚きの内容であった。

その後、実際に間伐の林業体験をさせてもらった。全体を6グループに分け、それぞれのグループに指導員がついたため、児童一人一人が活動する時間を多くもつことができた。のこぎりで「受け口」「追い口」を作り、ロープで木を倒す方向を決め、グループで協力して木を倒すことができた。木が倒れてくるときには、他の木を盾にして引っ張り、安全に注意して活動に取り組んでいた。1グループにつき、3本ほど間伐したため、太陽の光が地面にさす面積や場の明るさが増していたことに児童が気付くことができた。「森を育てる」ためには、木を切ることも大切であることを学んでいた。



【林業体験】

#### 2、水生昆虫の観察

実際に川に入って水生昆虫の観察をすることができた。児童は、講師の先生から水生昆虫の探し方を教わり、網とコップを持って川辺で水生昆虫を探していた。

川の水は冷たかったが、ひとたび水生昆虫が見つかる夢中になって川の中の石をどかしたり、網で石と石の間を探ったりしていた。



【水生昆虫を見つけよう】

#### 3、都民の森ハイキング

午前、午後でクラスごとに分かれ、都民の森でハイキングをした。三頭山の入り口である都民の森はなだらかな道と険しい道の両方があり、杉や松などの針葉樹、シロヨメナやヤマトリカブトなどの秋の花を見ながら楽しく歩くことができた。三頭大滝があり、初めて滝を見る児童が多く、多くの歓声が上がっていた。山の上から見下ろす美しい緑の世界と新鮮な空気を胸一杯に吸い、檜原村の自然の雄大さを感じることができた。



【野鳥小屋付近にて】

### <学習体験活動>

#### 1、こんにゃく作り体験

午前、午後でクラスごとに分かれ、交流センターにて、地元の講師を招き、こんにゃく作りを体験した。こんにゃく芋をすりおろしたり、炭酸ソーダとすりおろしたこんにゃく芋を混ぜ、大きな鍋でぐつぐつと煮込んだりして、こんにゃくができるまでの過程を体験した。児童は、こんにゃくが芋からできていることを事前に学習していたが、体験を通して実



【冷めないうちに掻き混ぜよう】

感じているようであった。できたこんにゃくは家に持ち帰り、各家庭で味わった。手作りならではのおいしさに感激していた。

## 2、檜原村の産業を学ぶ

檜原村の名産品であるこんにゃくができるまでの過程を知るため、こんにゃく工場の見学をした。檜原村の特色である水はけのよい土地を生かして、こんにゃく芋を育て、生の練り芋を使ってこんにゃくを作っていることを学んだ。児童は、前日にこんにゃく作りを体験しているため、手作りと機械を使って作る工程の違いを比べながら見学していた。また、シクラメンハウスの見学では、檜原村の気温の変化を生かして栽培していることや買ってくれる人の需要に合わせて栽培する種類を変えていることなどの工夫を知ることができた。



【こんにゃく工場見学】

### <生活体験活動>

各グループの中で、仕事の役割分担をし、部屋の整理整頓、食事の準備や片づけ、時間を見て行動するなど、一人一人が責任をもって自分に任された仕事に取り組むことができた。

## ○児童の感想

- ・たくさんの水生昆虫を探ることができ、武蔵野市では見られない生き物を観察できた。
- ・こんにゃくを作るのは大変だったけど、家に帰ってから食べたこんにゃくのおいしさにびっくりした。
- ・初めての宿泊で緊張もしたが、友達と協力して過ごすことができ、いい思い出ができた。

## ○セカンドスクールとの関連について

- ・プレセカンドスクールにおいて、児童がそれぞれ体験する活動について、事前に調べ、学習して課題を見つける。そして、現地での体験を通して課題を追求していく経験を積むことによって、セカンドスクールにおいて課題を追求していく姿勢を養っておきたい。
- ・セカンドスクールでは、児童がグループに分かれ、分泊する。4年生で、基礎的な集団生活を学び、生活習慣、マナーを身に付けることによって、セカンドスクールでの分泊の土台を築いておきたい。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・4年生は、初めての宿泊体験ということで、宿泊場所を一か所にして行った。児童の様子がよく把握でき、事前に連絡を受けていた保護者から要望や心配事にも対応する事が出来たり、ちょっとした事にも迅速に対応できたりしたのでよかったと思う。セカンドスクールでの分泊の準備のために、班で責任をもって生活をさせる指導体制をより工夫していく必要がある。
- ・台風の影響により、直前に1日目と3日目の行程を変更した。関係機関と円滑に連携がとれたので、変更して行程を実施することができたが、今回のように、天候の影響で変更を余儀なくされることもあるので、柔軟に対応できるようにしておく必要がある。
- ・奥多摩の奥に入るため、参道を長い間バスに乗らなければならない。この点のリスクは大きい。時間をかけて、新しい体験地をさがす可能性も含めて今後考えていきたい。

# 井之頭小学校

# 群馬県利根郡片品村

10月16日～10月18日(2泊3日)

参加人数 男子19名 女子27名  
計46名

## ○日程表

10月16日(水)		10月17日(木)		10月18日(金)	
10:40	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床
11:00	バス乗車、出発	6:45	朝食	7:00	朝食
14:30	尾瀬わくわく体験郷到着、 開校式	8:00	片品川水源見学	8:30	農作業体験
14:45	豆腐・こんにゃく作り体験	11:00	りんごの収穫体験	9:30	りんごジャム・田舎料理作 り体験
17:40	各民宿着	12:20	昼食	11:15	昼食
17:15	学習のまとめ・健康観察	13:30	植物採集・押し花作り	12:00	宿の方とのお別れの集い
19:00	上毛かるた体験	15:00	学習のまとめ	13:00	閉校式
19:30	民宿の方と交流	17:00	健康観察	13:30	片品村出発
21:30	就寝	18:00	夕食	16:30	到着式・解散
		19:00	星空観察		
		21:30	就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・社会科「くらしと水道」の学習を行った際、水源林について学習し、利根川源流の水源について触れておいた。
- ・理科「星の明るさや色」の学習を行い、星座早見の使い方、星座の位置や名称などについて学習した。
- ・現地の課題別学習に向け、課題（りんご・水・農産物・きのこ・豆腐・こんにゃく・地形や産業などの特徴など）を選択させ、インターネットや書籍を使い、調べ学習を行った。
- ・事前に民宿の方への質問内容を考えさせ、課題の調査に対する意識付けと準備を行った。

### ② 事後の学習内容

- ・プレセカンドスクールの体験を振り返って、作文にまとめた。
- ・課題について、事前に調べたことや現地で学んだことを各自でパンフレットにまとめたり、3年生へ向けて発表会を行い、グループごとに伝え方を工夫して学んだことを伝えたりした。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、片品川水源見学

社会科で学習した「水源林」について学ぶため、沢を歩き片品川の水源を見に行った。たくさんのお木や腐葉土が積もってふかふかの地面、自然のままに生えているいろいろなきのこ、橋のない川を渡る体験など、武蔵野市では体験することができないありのままの自然を実感することができた。また、片品村振興公社の方にガイドになっていただき、野生動物について話してもらったり、熊よけの轟音玉の実演などをしてもらったりしたことで、都会とは違う自然の環境を理解することができた。川の水の始まりは、斜面の土の中から突然水が湧き出ている。あいにく台風の後で水は濁っていたが、温度を測ると7～8度で冷たく、水に触れた児童は、予想以上の冷たさにみな驚いていた。



【片品川水源見学】

### <学習体験活動>

#### 1、豆腐・こんにゃく作り体験

片品村の特産品の大白大豆を使った豆腐作りと群馬県の特産品であるこんにゃく作りを二つのグループに分かれて体験した。普段は食べるばかりで、どのように作られるのかわからない児童がほとんどのため、興味津々で意欲的に体験していた。完成までの工程では手間や時間がかかったが、協力して根気よく作業することができた。おいしい豆腐が作られる条件として、片品村の特産品の大白大豆や片品村のおいしい名水が材料となっていることや、群馬県がこんにゃく芋を栽培するのに適した土地条件であることなどを理解することができた。作った豆腐とこんにゃくは、各宿へ持ち帰り、その日の夕食や次の日の朝食としておいしく味わった。



【こんにゃく作り体験】

### <生活体験活動>

#### 1、農作業体験

六つの民宿の中で、半数は兼業農家であることを活用して、武蔵野市では体験できない農作業を体験させていただいた。片品村の特産品である花豆の殻むきや稲の脱穀を体験することができた。花豆の殻むきは収穫した量が多く、一つ一つのさやから豆を取り出す作業の大変さを実感していた。稲の脱穀は、稲からどうやって一粒一粒のお米を取り出すのかが分かり、普段食べているご飯一粒の大切さを理解することができた。



【花豆の殻むき体験】



## ○児童の感想

- ・水源見学の山登りは少し大変だったけれど、川の始まりを見て苦労したかいがあった。川の始まりはとてもきれいだった。水温の低さにおどろいた。
- ・おし花作りが思い出に残った。なぜなら、自分で集めた葉や花を使って初めて作ったからだ。きれいにできたからとてもうれしかった。
- ・りんご収穫体験が思い出に残った。りんご収穫体験をして楽しかったのは、自分のりんごを選べることだった。山を見ながらりんごを食べるのは最高で、あまかった。
- ・こんにやく作りをした。こんにやくいもはさわるとかゆくなるので注意した。できたときはとてもいいにおいがした。また作りたい。

## ○セカンドスクールとの関連について

- ・セカンドスクールは日程的にゆとりのあるプログラムであるが、プレセカンドスクールでは3日間の日程の中で体験活動を多くし、充実感を味わわせることを目的とし、プログラムを組んだ。
- ・来年度のセカンドスクールでは長期間家庭を離れる生活をするため、それに向けて身辺自立ができるよう配慮して指導にあたった。
- ・児童一人一人が事前の学習で課題を明確にしたことで、現地でも課題を意識した体験や学習をすることができ、来年度の課題別学習につなげることができた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

今年度は台風の影響で、出発が2時間30分遅れ、スケジュールの調整を余儀なくされたが、早い段階で諸機関へ連絡することができたこともあり、バス会社や現地の方々のご協力で、1日目も予定していたプログラムを全て行うことができ、児童にとって充実した活動とすることができた。

今年度の成果としては、各体験活動が武蔵野市では経験できないものばかりで、児童に感動や発見を促し、知的好奇心や探究心を引き出すことができた。特に印象深かったものは、2日目の片品川水源見学であった。台風の過ぎた翌日で、安全に活動できるか心配であったが、行ってみると、森の木々の根がしっかりと地面に張り、土砂崩れを防いで支えており、歩くのにほとんど危険がなかったことに驚いた。川の源は水量が増えてはいたが、ほとんどの児童が初めて川の始まりを見たので、驚きや感動の声をあげていた。また、各宿で班ごとに協力して行動する経験をしたことで、ファーストスクール以上に時間や態度に責任ある行動を意識して過ごすことができ、どの児童にも成長が感じられた。

次年度に向けての課題としては、「上毛かるた」の体験の仕方である。宿ごとに体験を行ったが、取り組み方にばらつきがあった。宿の方に主となって指導していただくので、体験の仕方については、丁寧な打ち合わせと共通理解が必要である。また、雨天時に水源見学ができない場合のプログラムとしても「上毛かるた体験」が組まれているので、各宿ではなく全体で集まって、地域で行われている「上毛かるた大会」を行うなど、体験の仕方を工夫していきたい。

# 関前南小学校

# 東京都西多摩郡檜原村

9月25日～9月27日(2泊3日)

参加人数 男子17名 女子29名  
計46名

## ○日程表

9月25日(水)		9月26日(木)		9月27日(金)	
7:30	出発式	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	フォレストイングコテージ着 ・開校式	8:00	出発	8:30	出発
10:30	林業体験	8:30	都民の森着	9:00	井上食品こんにやく工場見学
12:30	昼食	9:00	三頭山ハイキング	10:00	シクラメン栽培見学
13:15	水生昆虫観察	11:35	三頭山山頂到着 昼食	10:30	井上食品発
15:15	製材作業見学	12:05	山頂出発	11:00	檜原小学校訪問
16:45	各民宿着・入浴	14:30	木工教室・森林館見学		・交流会
18:00	夕食	16:00	都民の森発		・学校案内
19:00	民宿の方との交流	16:15	数馬分校記念館着	12:15	昼食
20:00	健康観察・明日の準備	17:00	各民宿着・入浴	13:10	・弘沢の滝見学
21:00	就寝	18:00	夕食	14:30	檜原小学校発
		19:00	学習の記録	16:45	学校着
		19:30	健康観察・明日の準備		帰校式
		21:00	就寝	17:00	解散

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習の内容

- ・社会科では、檜原村の特色について学習した。
- ・総合的な学習の時間では、自分が特に学習してきたい課題ごとにグループを決めた。発表に向け何を見たり聞いたりしてくるのか話し合いをした。
- ・お世話になる宿の方にあいさつの手紙を書き、事前に送付した。
- ・係を決め、宿ではどのように過ごすか話し合わせた。また、出発式や帰校式の役割分担をし、児童主体で進められるようにした。
- ・檜原小学校との交流に向けて、相手校の児童とスムーズに交流できるように、予めグループを編成した。

### ② 事後の学習の内容

#### 1、総合的な学習において

「檜原村を伝えよう」として、グループ別に体験したことをまとめ、3年生児童を対象に発表会を行った。それぞれのグループで発表した内容は次の通りである。

- ・山…三頭山の概要、登山ルートの紹介
- ・水生昆虫…秋川で観察した水生昆虫とその捕り方、活動の様子



- ・林業…間伐の方法、林業の大切さ、間伐の様子を実演体験して伝える
- ・自然…三頭山の動物、植物、昆虫の様子、クイズを入れて伝える
- ・滝…三頭大滝、払沢の滝の様子、特徴を劇で伝える
- ・学校…檜原小学校の様子、数馬分校の特徴
- ・宿…民宿の特徴、宿舎の人の思い
- ・こんにやく…こんにやく製造、工場を作った思いを紙芝居で伝える
- ・シクラメン…シクラメンの育て方、花の特徴

## 2、社会科において

「わたしたちの東京」2 地形の特色を生かす～山地にくらす人々～

この單元では東京都の山地として檜原村が取り上げられている。そのため、プレセカンドスクールでの体験が学習に直結した。

## 3、国語科において

「写真と文章で説明しよう」の学習としてプレセカンドスクールで学んだことをリーフレットにまとめた。手紙文の学習として、お世話になった方々や檜原小学校の児童に手紙を書いた。また、プレセカンドスクールでの体験を作文に表した。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

- ・林業体験として、ロープを幹にかけて倒す方向を定めてからのこぎりを用いての間伐体験を行った。
- ・秋川では水生昆虫を採集して観察した。
- ・三頭山登山では、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。山頂に向かう途中に出会った様々な動植物については、都民の森のガイドの方から説明を受けた。
- ・都民の森の森林館では、自然に関する展示を見学して、理解を深めた。



【間伐作業の様子】

### <学習体験活動>

- ・林業体験では、地元の熟練した講師の方々から間伐のしかたを指導してもらった。森林の保全や管理、植林などについての話を聞いた。子ども8名あたり1名の講師で手厚い指導を受けることができた。
- ・「都民の森」の木工教室で、杉板から型をとり、電動のこぎりでキーホルダーを作った。
- ・檜原小学校数馬分校記念館では昔の檜原村の子どもの様子について資料を見ることができた。
- ・檜原村の特産物であるシクラメン作りの様子や、こんにやく工場の見学を行った。

### <生活体験活動><地域の人々とのふれあい>

- ・1日目の夜に宿舎の方と各宿で交流した。各宿で、檜原村の特産物であるこんにやくやジャガイモスープ、ルバーブジャムづくりをして交流した。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は子どもにとって貴重な経験であった。
- ・こんにやく工場見学では、檜原村ならではのこだわりのこんにやく作りについて話を聞くことができた。また、できあがったこんにやくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。
- ・檜原小学校の子どもたちと交流した。午前中は体育館で自己紹介ゲームやドッジボールをした。檜原小の校内を案内していただき、自校との違いを知ることができた。また、昼食も一緒に食べ交流を深めた。午後はグループごとに、檜原小学校の児童が本校の児童を払沢の滝まで案内し、説明をしてくれた。各グループに指導員も入り、自然に親しむことができた。

## ○児童の感想

- ・最初に、ヘビトンボという水生こんちゅうを見つけました。最初はムカデみたいで気持ちが悪かったけど、3ひきとったのであまり気持ち悪くなくなりました。それから、小さいのを見つけました。名前がわからなかったので、野村先生に聞いたら「カゲロウだよ。」と教えてくれました。楽しかったので、近くの川に行った時にも水生昆虫を捕ってみたいです。
- ・三頭山に登りました。山では見たこともないきれいな葉が落ちていました。と中に木の実やきのこがあったので、食べてみたくなりました。ちょう上では空気がおいしくて、他の山がいっぱい見られました。山をおりる時はとてもすべりやすく10回くらいころびそうになりました。でも自分の力で登りきっておりてきたのですごく満足しています。また檜原村にきて三頭山に登りたいです。
- ・バスで檜原小に着くと、4年生がおむかえをしてくれました。体育館でドッジボールをしました。檜原小の子はみんな強くてボールでたくさん当てていてすごいと思いました。その後、校内見学をしました。教室は、ゆかも、かべも、いすも、つくえも、全部木でした。木のいいかおりが教室中に広がり、私の教室とずいぶんちがいました。教室の中も外も自然がいっぱいでした。
- ・わたしは、お母さんとはなれてとまるのは初めてでした。でも宿の食事はおいしく、だんだんなれてきました。宿の人たちはわたしたちのためにたくさんのじゅんぴをしてくれました。宿の人と交流してこんにゃくの作り方を教えてもらいました。次の日に食べたらおいしくできていました。自分でできないこともあったけど、みんなで力を合わせてできたのでよかったです。来年もこのことをいかしてセカンドスクールでがんばりたいです。



【宿でのこんにゃく作りの様子】

## ○セカンドスクールとの関連について

- ・学校で行う初めての集団宿泊体験なので、心構えや集団生活の指導に重点をおいた。
- ・現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝する意義を話した。
- ・持ち物の準備や片づけ、部屋の整理整頓などができるよう意識付けしてきた。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・檜原小学校との交流は、毎年交流を重ねてきたことで、活動内容が豊かになり、児童同士の触れ合いも和やかに行えたため、交流が深まった。
- ・水生昆虫観察は、講師の方から昆虫の捕り方や捕った昆虫の名前を教えていただいたことで、たくさんの昆虫を観察することができ、有意義な活動になった。
- ・三頭山登山では、全員が無事に登山を終えることができた。途中休憩を兼ねて、都民の森のガイドの方から話をさせていただいたことも良かった。経路にトイレがほとんどないため、登山前には全員が必ずすませてから行くようにしたが、それでも厳しかった。ルートを検討し、トイレに寄れるようにする。

# 桜野小学校

# 山梨県南都留郡山中湖村

9月11日～9月13日(2泊3日)

参加人数 男子 55名 女子 58名  
計113名

## ○日程表

9月11日(水)		9月12日(木)		9月13日(金)	
7:45	学校集合・出発式	6:30	起床 朝の会	6:30	起床 朝の会
8:00	学校発	7:30	朝食	7:30	朝食
10:45	富士ビジターセンター	9:00	宿舎発	9:00	閉校式後 宿舎発
12:30	富士山レーダードーム	9:30	ネイチャーラリー	10:00	忍野八海
16:00	宿舎着 入浴 夕食	11:45	交流プラザきらら 昼食	10:30	ほうとう作り
19:00	星の観察	13:40	さかな公園	12:00	昼食
20:30	健康観察	15:40	宿舎着 入浴 夕食	13:30	山中湖発
21:00	就寝	19:15	絵手紙	16:00	学校着 帰校式
		20:30	健康観察		
		21:00	就寝		

## ○プレセカンドスクールにおける学習の概要

### ① 事前の学習内容

- ・プレセカンドスクール実施前に、総合的な学習の時間の学習として、「見つけよう 広げよう 山中湖から」を行い、富士山や山中湖に関する課題を設定し、調べ学習を行った。主なテーマとしては、富士山の歴史、富士山の自然、富士五湖について、山中湖について、山梨県の食文化、山梨県の伝統文化などである。インターネットや図書資料などを使って調べたことをマイガイドブックにまとめ、友達と交流したり、家族に紹介したりした。マイガイドブックは実際にプレセカンドスクールに持っていき、情報源として活用することとした。

### ② 事後の学習内容

- ・調べたことや分かったこと、体験したことなどを、各自、新聞形式・パンフレット形式でまとめた。新聞は廊下に掲示し、他学年や保護者にも見ていただいた。プレセカンドスクールで学んだことを分かりやすく伝えようとそれぞれが工夫を凝らしていた。また、ICT機器を使って、パンフレット形式にまとめた。写真を取り込み、文章と合わせて分かりやすくまとめることができた。

## ○特色ある活動内容

### <自然体験活動>

#### 1、ネイチャーラリー

山中湖キャンプ場にて、自然を生かしたゲーム体験・散策などを行った。1班に1人程度、現地の指導員がついてくださった。子どもたちは指導員の方とゲームについて相談したり、植物や木、鳥について教えていただいたりしながら、森の中を思う存分、楽しんでいた。主なゲーム内容は、パチンコ、木登り、ロープ渡りなど。普段の生活ではなかなかできないことばかりで、とても貴重な体験活動となった。



【ネイチャーラリー】

#### 2、山中湖散策

昼食後、クラスごとに山中湖の遊歩道を15分ほど散策した。湖を渡る風が心地よく、遠くに見える富士山は雄大で、絶景を堪能することができた。

#### 3、忍野八海散策

バスガイドさんの案内で忍野八海を散策することができた。富士山が世界文化遺産に登録されてから、平日の昼間でも観光客で大賑わいの忍野八海である。到着したのは10時ごろであったが、すでに人がごった返し、池を囲んだり、お土産を求めたりと盛況であった。ガイドさんの案内で、五つの池を回りながら、池の名前の由来や池の特徴などを教えていただき、興味津々の子どもたちであった。

### <学習体験活動>

#### 1、富士ビジターセンター

プレセカンドスクールでの一番はじめの学習活動であった。子どもたちは、事前の学習で富士山のこと、富士五湖のことなどを調べ、もっと情報を知りたいと楽しみにしていたので、集中して学習することができた。パネルを見たり、DVDを見たりして、とても有意義な調べ学習となった。

#### 2、富士山レーダードーム

あいにくの雨天により、富士五合目のトレッキングが中止となり、富士山を下山して、富士レーダードームを見学した。気象観測についての内容で、4年生の子どもたちには難しい内容であったが、クイズに挑戦したり、-18度の世界を体験したりと一生懸命に学習を進めていた。

#### 3、さかな公園

富士五湖や周辺の川に住む魚を見たり、学んだりすることができた。淡水魚の水族館ということで新たな発見がたくさんあったようだ。富士山の湧水の冷たさを体験したり、DVD「あゆの一生」を見たりと1時間30分程度の時間があっという間だったという感想が多く聞かれた。

## ＜生活体験活動＞

### 1、ほうとう作り

グループごとに、お店の方に教えていただきながら、ほうとう作りを行った。小麦粉をこねて、伸ばして、大きな包丁で丁度よい太さに切って、ほうとうを仕上げた。できあがったほうとうは、お店の方が調理をしてくださり、3日目の昼食として、みんなで食べた。熱いほうとうをふうふう言いながら、「おいしい」と何杯もおかわりする姿がほほえましかった。



【ほうとう作り】

## ○児童の感想

- ・富士山トレッキングが雨で中止になったのは残念でしたが、五合目までバスで行って、霧の中を歩いて、トイレ休憩したのが楽しかった。目の前が真っ白で初めての経験でした。
- ・グループのメンバーで協力して生活できたのがとても楽しかったです。「進んで動き、協力して、楽しいプレセカンドスクールにする」というめあてが達成できたので大満足です。
- ・ほうとう作りが楽しかったです。自分たちで作ったほうとうはとてもおいしくて、おかわりを何回もする人がいました。またみんなで作りたと思います。

## ○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールに向けてということで、集団行動、自立、指導員との生活など、多くのことを指導することができた。今年度は一つの宿に全員が泊まったが、部屋ごとに指導員を配置し、指導員にお世話になりながら生活をするという3日間を過ごした。次年度のセカンドスクールはグループごとに分泊になるので、事前の段階として、部屋ごとに分かれての生活は児童にとってよい機会となった。また、3日間、親元を離れて、自分のことは自分でやるという経験も貴重だった。持ち物の管理、体調の管理、スケジュールの管理など、一つ一つが練習となり、来年につながるよい学びとなった。

## ○今年度の成果と次年度に向けての課題

- ・旅行者、現地観光協会、各施設、宿などとの事前に綿密に打ち合わせを行っていたので、当日はスムーズに行動することができた。
- ・1日目、天候不順で、日程変更を余儀なくされたが、校長の判断のもと、職員が組織的に動くことができ、代替スケジュールに則って、有意義に活動を進めることができた。
- ・児童数が増えているので、宿や各施設の規模、受け入れ体制などについて、次年度以降検討する必要がある。



平成26年3月発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒180-8777

東京都武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1897

FAX 0422-51-9264

平成二十五年

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施報告書

平成二十六年三月

武蔵野市教育委員会